

SAKAMOTO
坂元遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2005

清武町教育委員会



卷頭図版 1 坂元遺跡全景（東より）



卷頭図版 2 坂元遺跡 B 区



卷頭図版 3 坂元遺跡 D・E・F 区

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成12年度に発掘調査を行った坂元遺跡の調査報告書です。

坂元遺跡では、今から約2万年前の石器から弥生時代の住居まで、幅広い時期にわたる人々の生活の痕跡が数多く確認されましたが、なかでも今から約7000年前から約9000年前の縄文時代早期の資料は、当時の南九州に暮らす人々の生活を復元するうえでの貴重なデータとなっています。

今後、これらの貴重な文化遺産が、地域における歴史文化の解明や21世紀を担う子供たちへ着実に継承されるとともに、子供たちの豊かな心を育む教育の場の生きた資料となることができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するに当たり、多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様並びに関係各局に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

清武町教育委員会

教育長 神川孝志

例　　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成 12 年度に実施された坂元遺跡の発掘調査報告書です。
2. 現場における測量・実測については、井田篤・松原一哉・安楽哲文及び実測補助員が行い、一部を（有）ジパング・サーベイに委託した。
実測補助員…

（50 音順）

3. 遺物の整理及び報告書作成業務については、平成 16 年度に井田・秋成雅博及び整理作業員が清武町埋蔵文化財センターで行った。
整理作業員…

（50 音順）

4. 本書で使用した写真については、現場における撮影は井田・松原・安楽が行い、空中写真については（株）スカイサーベイに委託した。また、遺物撮影については、井田・秋成・若杉知和が清武町埋蔵文化財センターで行った。
5. 本書で使用した放射性炭素年代については、データ測定を（株）古環境研究所に委託した。
尚、掲載している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正¹⁴C 年代である。
6. 本書で使用した土層及び土器の色調等は、『新版 標準土色帖（1997 年後期版）』の土色に準拠した。
7. 本書で使用した方位は磁北と座標北がある。座標北を用いる場合には G.N. と表示している。レベルは海拔絶対高である。
8. 本書に使用した記号は次のとおりである。
S A …堅穴式住居跡　　S C …土 坑（炉穴・落し穴も含む）　　S I …集石遺構
9. 本書の執筆と編集は、井田・秋成が担当した。文責については本文目次に記した。
10. 出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1(文責 井田)
2 調査組織	1()
第2節 遺跡の環境	2
1 地理的環境	2(文責 井田)
2 歴史的環境	2()
3 周辺遺跡	2()
第3節 調査の方法と経過	4
1 調査の方法	4(文責 井田)
2 調査の経過	4()
3 調査日誌抄	5()
第4節 基本土層	9
1 各区の地形	9(文責 井田)
2 基本土層	9()

第Ⅱ章 B区における調査(縄文時代早期)

第1節 遺構	11
1 検出状況	11(文責 井田)
2 集石遺構と炉穴	23()
3 遺構内出土遺物	23(文責 井田・秋成)
第2節 包含層出土遺物	33
1 土器	33(文責 井田)
2 土製品	33()
3 石器	40(文責 秋成)

第Ⅲ章 E区における調査

第1節 旧石器時代	49
1 旧石器時代遺物包含層の概要	49(文責 秋成)
2 磚群(SI-73)	52()
3 A ブロックの様相	52()
4 B ブロックの様相	60()
5 旧石器時代終末期の資料について	68()

第2節 縄文時代早期

1 遺構	
(1) 埋設土器	79(文責 井田)
(2) 集石遺構	79()
(3) 炉穴	95()
(4) 遺構内出土遺物	96(文責 井田・秋成)
2 包含層出土遺物	
(1) 土器	100(文責 井田)
(2) 石器	110(文責 秋成)
第3節 その他の時期	126
竪穴式住居	126(文責 井田)

第Ⅳ章 A・C・D・F区における調査 (縄文時代早期)

第1節 遺構	128
1 集石遺構	128(文責 井田)
2 おとし穴	129()
第2節 包含層出土遺物	132
1 土器	132(文責 井田)
2 石器	133(文責 秋成)

第Ⅴ章 まとめ

1 旧石器時代の調査について	141
石器製作について	141(文責 秋成)
ナイフ形石器について	141()
石器組成について	142()
2 縄文時代早期の調査について	142
集石遺構について	142(文責 井田)
炉穴について	143()
包含層出土土器について	143()
槍先形尖頭器について	144(文責 秋成)
石鏃について	144()
調査抄録	147

挿図目次

第 1 図 遺跡位置図..... (S=1/25000)	3	第 39 図 E 区旧石器時代遺構・遺物分布図[器種別]..... (S=1/100)	51
第 2 図 調査区域図..... (S=1/2500)	6	第 40 図 E 区 A ブロック接合資料平面分布図..... (S=1/100)	52
第 3 図 調査区削平状況図..... (S=1/2500)	6	第 41 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図①:A ブロック (S=2/3)	53
第 4 図 トレーンチ配置図..... (S=1/2500)	6	第 42 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図②:A ブロック (S=2/3)	54
第 5 図 坂元遺跡周辺地形図..... (S=1/2000)	7・8	第 43 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図③:A ブロック (S=2/3)	55
第 6 図 基本土層図①..... (S=1/100)	10	第 44 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図④:A ブロック (S=2/3)	56
第 7 図 基本土層図②..... (S=1/100)	10	第 45 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑤:A ブロック (S=2/3)	57
第 8 図 B 区縄文時代早期遺構配置図及び焼堀分布図..... (S=1/250)	11	第 46 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑥:A ブロック (S=2/3)	58
第 9 図 SI-27~30 実測図..... (S=1/100)	12	第 47 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑦:A ブロック (S=2/3)	59
第 10 図 SI-31 実測図..... (S=1/100)	13	第 48 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑧:A ブロック (S=2/3)	60
第 11 図 SI-53・54・56, SC-5~7 実測図①..... (S=1/100)	14	第 49 図 E 区 B ブロック接合資料平面分布図 (S=1/100)	61
第 12 図 SI-53・54・56, SC-5~7 実測図②..... (S=1/100)	15	第 50 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑨:B ブロック (S=2/3)	62
第 13 図 SI-55 実測図..... (S=1/100)	15	第 51 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑩:B ブロック (S=2/3)	63
第 14 図 SI-67, SC-8・9, SC-10~13 実測図①..... (S=1/100)	16	第 52 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑪:B ブロック (S=2/3)	64
第 15 図 SI-67, SC-8・9, SC-10~13 実測図②..... (S=1/100)	17	第 53 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑫:B ブロック (S=2/3)	65
第 16 図 SI-7 実測図..... (S=1/100)	18	第 54 国 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑬:B ブロック (S=2/3)	66
第 17 国 SI-51 実測図..... (S=1/100)	18	第 55 国 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑭:B ブロック・他 (S=2/3)	67
第 18 国 SI-52 実測図..... (S=1/100)	18	第 56 国 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑮:出土位置不明 (S=2/3)	68
第 19 国 SI-38 実測図..... (S=1/100)	19	第 57 国 埋設土器層実測図..... (S=1/100)	79
第 20 国 SX-1 実測図..... (S=1/100)	19	第 58 国 SI-72 実測図..... (S=1/100)	79
第 21 国 SX-2 実測図..... (S=1/100)	19	第 59 国 E 区縄文時代早期遺構配置図..... (S=1/4000)	80
第 22 国 B 区遺構内遺物実測図①..... (土層: S=1/3 石群: S=2/3)	25	第 60 国 SI-62 実測図..... (S=1/100)	81
第 23 国 B 区遺構内遺物実測図②..... (土層: S=1/3 4面: S=2/3)	26	第 61 国 SI-26 実測図..... (S=1/100)	81
第 24 国 B 区遺構内遺物実測図③..... (土層: S=1/3 4面: S=2/3)	27	第 62 国 SI-17 実測図..... (S=1/100)	81
第 25 国 B 区遺構内遺物実測図④..... (土層: S=1/3 4面: S=2/3)	28	第 63 国 SI-1 実測図..... (S=1/100)	82
第 26 国 B 区縄文時代早期包含層遺物分布図..... (S=1/250)	33	第 64 国 SI-58 実測図..... (S=1/100)	82
第 27 国 B 区貝殻文系土器分布図..... (S=1/250)	35	第 65 国 SI-42 実測図..... (S=1/100)	82
第 28 国 B 区押型土器分布図..... (S=1/250)	35	第 66 国 SI-45 実測図..... (S=1/100)	82
第 29 国 B 区塚ノ神式土器・輪状耳栓分布図..... (S=1/250)	35	第 67 国 SI-24 実測図..... (S=1/100)	83
第 30 国 B 区縄文時代早期包含層出土土器実測図①..... (S=1/100)	36	第 68 国 SI-40・74 実測図..... (S=1/100)	83
第 31 国 B 区縄文時代早期包含層出土七土器実測図②..... (S=1/100)	37	第 69 国 SI-32 実測図..... (S=1/100)	83
第 32 国 B 区縄文時代早期包含層出土土器実測図③..... (S=1/100)	38	第 70 国 SI-11 実測図..... (S=1/100)	84
第 33 国 B 区輪状耳栓実測図..... (S=2/3)	38	第 71 国 SI-22 実測図..... (S=1/100)	84
第 34 国 B 区縄文時代早期包含層出土土器実測図①..... (S=1/100)	41	第 72 国 SI-13 実測図..... (S=1/100)	84
第 35 国 B 区縄文時代早期包含層出土土器実測図②..... (S=1/2~2/3)	42	第 73 国 SI-12 実測図..... (S=1/100)	85
第 36 国 SI-73 出土遺物実測図..... (S=2/3)	49	第 74 国 SI-14 実測図..... (S=1/100)	85
第 37 国 SI-73 実測図..... (S=1/100)	49	第 75 国 SI-23 実測図..... (S=1/100)	85
第 38 国 E 区旧石器時代遺構・遺物分布図[石材別]	50	第 76 国 SI-33 実測図..... (S=1/100)	85

表 目 次

第77図	SI-34実測図	86 (S=1/30)	第117図	E区縄文時代早期包含層出土石器実測図②	113 (S=2/3)
第78図	SI-35実測図	86 (S=1/30)	第118図	E区縄文時代早期包含層出土石器実測図③	114 (S=2/3)
第79図	SI-41実測図	86 (S=1/30)	第119図	E区縄文時代早期包含層出土石器実測図④	115 (S=2/3)
第80図	SI-43実測図	86 (S=1/30)	第120図	E区縄文時代早期包含層出土石器実測図⑤	116 (S=1/2)
第81図	SI-59実測図	86 (S=1/30)	第121図	SA-1位置図	126 (S=1/100)
第82図	SI-63実測図	86 (S=1/30)	第122図	SA-1実測図	126 (S=1/60)
第83図	SI-3実測図	87 (S=1/30)	第123図	SA-1出土遺物実測図	127 (S=1/6)
第84図	SI-15実測図	87 (S=1/30)	第124図	SI-8実測図	128 (S=1/30)
第85図	SI-19実測図	87 (S=1/30)	第125図	SI-9実測図	128 (S=1/30)
第86図	SI-44実測図	87 (S=1/30)	第126図	SI-10実測図	128 (S=1/10)
第87図	SI-46実測図	87 (S=1/30)	第127図	SC-1実測図	129 (S=1/30)
第88図	SI-48実測図	88 (S=1/30)	第128図	SC-2実測図	129 (S=1/30)
第89図	SI-49実測図	88 (S=1/30)	第129図	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土土器分布図	131 (S=1/2000)
第90図	SI-61実測図	88 (S=1/30)	第130図	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土土器実測図	133 (S=1/10)
第91図	SI-60実測図	88 (S=1/30)	第131図	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土石器実測図①	134 (S=2/3)
第92図	SI-64実測図	88 (S=1/30)	第132図	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土石器実測図②	135 (S=2/3)
第93図	SI-18実測図	89 (S=1/30)	第133図	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土土器実測図③	136 (S=1/2)
第94図	SI-37実測図	89 (S=1/30)			
第95図	SI-2実測図	89 (S=1/30)	第 1 表	B区集石遺構及び炉穴観察表	20
第96図	SI-4実測図	89 (S=1/30)	第 2 表	B区遺構内出土遺物一覧表	24
第97図	SI-16実測図	89 (S=1/30)	第 3 表	B区遺構内出土土器観察表	28-29
第98図	SI-20-21実測図	89 (S=1/30)	第 4 表	B区遺構内出土石器計測分類表	30
第99図	SI-39実測図	89 (S=1/30)	第 5 表	B区縄文時代早期包含層出土土器観察表	39-40
第100図	SI-25実測図	90 (S=1/30)	第 6 表	B区縄文時代早期包含層出土石器計測分類表	43
第101図	SI-47実測図	90 (S=1/30)	第 7 表	E区旧石器時代包含層出土遺物計測分類表	69-70
第102図	SI-5実測図	90 (S=1/30)	第 8 表	E区集石遺構観察表	91
第103図	SI-6実測図	90 (S=1/30)	第 9 表	E区炉穴観察表	96
第104図	SI-36実測図	90 (S=1/30)	第 10 表	E区遺構内出土遺物一覧表	98
第105図	SI-71実測図	90 (S=1/30)	第 11 表	E区遺構内出土土器観察表	98
第106図	SC-3・4実測図	96 (S=1/30)	第 12 表	E区遺構内出土石器計測分類表	98
第107図	E区遺構内遺物実測図	97 (土器:S=1/3 石器:S=2/3)	第 13 表	E区縄文時代早期包含層出土土器観察表	108-109
第108図	E区縄文時代早期包含層遺物分布図	100 (S=1/500)	第 14 表	E区縄文時代早期包含層出土石器計測分類表	110-111
第109図	E区貝文系土器分布図	102 (S=1/400)	第 15 表	E区SA-1出土石器計測分類表	127
第110図	E区押型土器分布図	103 (S=1/400)	第 16 表	C区集石遺構観察表	128
第111図	E区塞ノ神式土器分布図	104 (S=1/400)	第 17 表	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土土器観察表	132
第112図	E区縄文時代早期包含層出土土器実測図①	105 (S=1/1)	第 18 表	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土石器計測分類表	137
第113図	E区縄文時代早期包含層出土土器実測図②	106 (S=1/1)	第 19 表	坂元遺跡集石遺構及び炉穴変遷略表	143
第114図	E区縄文時代早期包含層出土土器実測図③	107 (S=1/1)	第 20 表	坂元遺跡縄文時代早期包含層出土土器集計表	143
第115図	E区縄文時代早期包含層出土土器尖測図④	108 (S=1/1)	第 21 表	坂元遺跡縄文時代早期石器使用石材	145
第116図	E区縄文時代早期包含層出土土器尖測図①	112 (S=2/3)	第 22 表	坂元遺跡縄文時代早期使用石材	145

図版目次

巻頭図版1	坂元遺跡全景(東より)	図版74	SI-11(西から).....	93
巻頭図版2	坂元遺跡B区	図版75	SI-22(南から).....	93
巻頭図版3	坂元遺跡D-E-F区	図版76	SI-13(南から).....	93
図版1	坂元遺跡基本土層①(谷部).....	9	SI-14(北から).....	93
図版2	坂元遺跡基本土層②(台地端部).....	9	SI-14(検出).....	93
図版3	SI-27~31(北から).....	20	SI-14(南から).....	93
図版4	SI-27~31配石(北西から).....	20	SI-12(北から).....	93
図版5	SI-27~31掘り込み完掘(北から).....	20	SI-23(南から).....	93
図版6	SI-53~54・56・SC-5~6・7検出(北西から).....	20	SI-33(南から).....	93
図版7	SI-53(北西から).....	21	SI-34(東から).....	93
図版8	SI-54(北から).....	21	SI-35(東から).....	93
図版9	SI-56~57(東から).....	21	SI-41(北から).....	93
図版10	SC-6(東から).....	21	SI-43(北から).....	93
図版11	SC-7(東から).....	21	SI-59(北西から).....	93
図版12	SI-55(北から).....	21	SI-63(西から).....	93
図版13	SI-67・SC-8~13検出(南東から).....	21	SI-3(南から).....	94
図版14	SI-67・SC-8~9(南東から).....	21	SI-15(南から).....	94
図版15	SI-67配石(東から).....	22	SI-19(南から).....	94
図版16	SC-9(東から).....	22	SI-44(西から).....	94
図版17	SC-10~11(東から).....	22	SI-46(西から).....	94
図版18	SC-13(東から).....	22	SI-48(南から).....	94
図版19	SI-7~51・52(南西から).....	22	SI-49(南から).....	94
図版20	SI-58(北から).....	22	SI-60(西から).....	94
図版21	SX-1(南東から).....	22	SI-64(西から).....	94
図版22	SX-2(南東から).....	22	SI-18(南から).....	94
図版23	SI-27出土遺物.....	30	SI-37(南東から).....	94
図版24	SI-28出土遺物.....	30	SI-2(西から).....	94
図版25	SI-29出土遺物.....	30	SI-4(北西から).....	94
図版26	SI-30出土遺物.....	30	SI-16(西から).....	94
図版27	SI-31出土遺物.....	31	SI-102.....	94
図版28	SI-53出土遺物.....	31	SI-20~21(南東から).....	94
図版29	SI-54出土遺物.....	31	SI-25(北から).....	95
図版30	SC-5出土遺物.....	31	SI-39(南東から).....	95
図版31	SC-6出土遺物.....	31	SI-47(西から).....	95
図版32	SC-7出土遺物.....	31	SI-5(南から).....	95
図版33	SI-55出土遺物.....	31	SI-6(西から).....	95
図版34	SI-67出土遺物.....	32	SI-109.....	95
図版35	SC-8出土遺物.....	32	SI-36(西から).....	95
図版36	SC-9出土遺物.....	32	SI-71(南東から).....	95
図版37	SC-10出土遺物.....	32	SI-3~4(南から).....	95
図版38	SC-11出土遺物.....	32	SI-3~3(西から).....	95
図版39	SC-12出土遺物.....	32	埋蔵土器.....	99
図版40	SC-13出土遺物.....	32	図版113.....	99
図版41	SI-51出土遺物.....	32	図版114.....	99
図版42	SI-52出土遺物.....	32	SA-1出土石器.....	99
図版43	SX-1出土遺物.....	32	SI-62出土遺物.....	99
図版44	SX-2出土遺物.....	32	SI-1出土遺物.....	99
図版45	B区縄文時代早期包含層出土土器①.....	44	SI-14出土遺物.....	99
図版46	B区縄文時代早期包含層出土土器②.....	44	SI-21出土遺物.....	99
図版47	B区縄文時代早期包含層出土土器③.....	45	SI-60出土遺物.....	99
図版48	B区縄文時代中期包含層出土土器④~輪状耳栓.....	45	SI-123.....	99
図版49	B区縄文時代中期包含層出土土器⑤.....	46	SI-21出土遺物.....	99
図版50	B区縄文時代中期包含層出土土器⑥.....	47	SC-3出土遺物.....	99
図版51	B区縄文時代中期包含層出土土器⑦.....	48	SI-125.....	99
図版52	SI-73.....	49	SC-4出土遺物.....	99
図版53	E区旧石器時代包含層出土石器①.....	71	E区縄文時代早期包含層出土土器①.....	117
図版54	E区旧石器時代包含層出土石器②.....	72	E区縄文時代早期包含層出土土器②.....	117
図版55	E区旧石器時代包含層出土石器③.....	73	E区縄文時代早期包含層出土土器③.....	118
図版56	E区旧石器時代包含層出土石器④.....	74	E区縄文時代早期包含層出土土器④.....	118
図版57	E区旧石器時代包含層出土石器⑤.....	75	E区縄文時代早期包含層出土土器⑤.....	119
図版58	E区旧石器時代包含層出土石器⑥.....	76	E区縄文時代早期包含層出土土器⑥.....	120
図版59	F区旧石器時代包含層出土石器⑦.....	77	E区縄文時代早期包含層出土土器⑦.....	121
図版60	E区旧石器時代包含層出土石器⑧.....	78	E区縄文時代早期包含層出土土器⑧.....	122
図版61	檢出状況(削上から).....	79	E区縄文時代早期包含層出土石器⑨.....	122
図版62	断面確認状況(削上から).....	79	E区縄文時代早期包含層出土石器⑩.....	123
図版63	SI-72(北から).....	92	E区縄文時代早期包含層出土石器⑪.....	124
図版64	SI-62(南から).....	92	E区縄文時代早期包含層出土石器⑫.....	125
図版65	SI-26(南から).....	92	SA-1検出(東から).....	127
図版66	SI-17(南から).....	92	SI-1(西から).....	127
図版67	SI-42(南から).....	92	SI-8(北から).....	130
図版68	SI-45(東から).....	92	SI-9(北から).....	130
図版69	SI-1(西から).....	92	SI-10(北から).....	130
図版70	SI-58(西から).....	92	SI-143.....	130
図版71	SI-24(北から).....	92	SC-2(南西から).....	130
図版72	SI-40~74(南から).....	92	SC-1逆茂木瓶(西から).....	130
図版73	SI-32(南から).....	92	SC-2半截(西から).....	130
		図版149.....	A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土石器.....	138
			A-C-D-F区縄文時代早期包含層出土石器.....	139
			F区縄文時代早期包含層出土石器.....	140

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査の経緯

1. 調査に至る経緯

平成7年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に坂元遺跡の一部が含まれることが明らかになった。遺跡の取り扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議したところ、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は、平成12年4月25日から平成12年12月18日で、調査面積は約9,000m²である。

2. 調査組織

調査主体 清武町教育委員会

調査（平成12年度）

事務局

教 育 長	湯 地 敏 郎
教 育 次 長	田 宮 防 太 郎
社会教育課長	谷 口 紘 一
社会教育課文化係長	川 越 健
社会教育課主査	伊 東 但

調査員

社会教育課主事	井 田 篤
社会教育課嘱託	松 原 一 哉 (~00.10)
社会教育課嘱託	安 楽 哲 文 (00.12~)

整理作業（平成16年度）

事務局

教 育 長	湯 地 敏 郎 (~04.5)
教 育 次 長	神 川 孝 志 (04.8~)
社会教育課長	北 岡 義 朗 (~04.7)
社会教育課長補佐	鎧 和 俊 (04.7~)
社会教育課文化係長	松 元 一 夫
	平 松 三 郎 (~04.7)
	伊 東 但

調査員

社会教育課主任	井	田	篤
社会教育課主事	秋	成	雅 博
社会教育課嘱託	若	杉	知 和
社会教育課嘱託	草	野	美 香

第2節 遺跡の環境

1. 地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。

町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられ、その上位には台地が発達している。

坂元遺跡は、町内西方の標高 75 mから 85 mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高 200 m～400 m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されている。尚、このシラス台地上及び崖面には湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであった考えられる。

2. 歴史的環境

坂元遺跡は、清武町内船引地区に所在する。船引（船曳）地区は、清武川を挟んだ幾つかの集落で構成されており、当地区的現代以前の水運事情においては、渡し船（曳き船）がとても重要なものであつたと推測される。その渡し船（曳き船）が船引の語源となり、船引の名が定着したと考えられるが、船引の名が歴史上に登場はじめるのは古代末から中世にかけてである。建久 8（1197）年鎌倉幕府が各國の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内 弁済使法印、不知實名、」とあることから、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった莊園がこの地に存在したことが明らかである。

日向の霸権をかけて島津氏と伊東氏がしのぎを削った室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった他の清武町内の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ、江戸時代を通して飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治 24（1891）年には清武村、昭和 25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稻作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

3. 周辺遺跡

坂元遺跡が立地する台地上では、平成 3 年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次いでいる。それに伴い発掘調査が



- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1. 上ノ原第1遺跡 | 2. 上ノ原第2遺跡 | 3. 上ノ原第3遺跡 | 4. 上ノ原第4遺跡 | 5. 白ヶ野第3遺跡 |
| 6. 白ヶ野第2遺跡 | 7. 白ヶ野第4遺跡 | 8. 白ヶ野第1遺跡 | 9. 滑川第1遺跡 | 10. 滑川第2遺跡 |
| 11. 滑川第3遺跡 | 12. 山田第1遺跡 | 13. 山田第2遺跡 | 14. 坂元遺跡 | 15. 坂元第2遺跡 |
| 16. 上猪ノ原遺跡 | 17. 札立第2遺跡 | 18. 札立第1遺跡 | 19. 下猪ノ原遺跡 | 20. 園田遺跡 |
| 21. 権現原遺跡 | 22. 杉木原遺跡 | 23. 竹ノ内遺跡 | 24. 清武白跡 | |

第1図 遺跡位置図 (S = 1/25000)

実施された遺跡は 20 遺跡を数え（平成 16 年度現在）、旧石器から近世まで貴重な資料が多数確認されている。特に、台地上という地形からか、狩猟・採集を主な生業としていた縄文時代早期の遺構・遺物がすべての遺跡で確認されていて、全国的にみてもこれほどの質・量は他に類を見ないのではないかと思われる。

第3節 調査の方法と経過

1. 調査の方法

*表土及びアカホヤ火山灰層の剥ぎ取り…重機

*基準杭及びグリッド杭の設定

前年度のデータを参考にし、光波測量器を用いて調査員が行った。

*検出面での精査

アカホヤ火山灰層上面において縄文時代前期以降の遺構検出作業を行い、次に小林軽石火山灰層上面で縄文時代早期・草創期の遺構検出作業を行った。ただし、縄文時代早期の遺構のなかで、集石遺構などは遺物包含層の掘り下げ作業の最中に検出されるケースもあった。

*遺物包含層の掘り下げ作業

主にジョレン・ねじり鎌で行った。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行った。

*遺構実測

ほとんどの遺構は 1/10 で記録したが、竪穴式住居跡のみは 1/20 で記録した。又、集石遺構・炉穴については、一部業者に委託した。

*測量関係

光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現 清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCAD を利用してデジタルデータとして管理した。

*写真撮影

6 × 6・6 × 9 版モノクロ・リバーサル、35mm モノクロ・リバーサル写真を併用し、空中写真についても業者に委託した。

2. 調査の経過

調査区は、耕作及び工事計画の都合により A 区から G 区の 7 区に分割し、又、各区については、20 m ごとにグリッド杭を設定して調査を行った。

A 区・C (1 ~ 9 グリッド) 区については、試掘調査で少量の遺物のみが確認されていた状況だったので、旧地形の復元作業実施後は、縄文時代早期遺物包含層の確認のためのトレーニング調査のみを行った。

B 区・C (10 ~ 15 グリッド) 区・D 区・E 区・F 区については、縄文時代早期の調査を主に行なったが、D・F 区については文化層がかなり削平されており、良好な残存状況ではなかった。又、C (15 グリッド) 区・E 区については、縄文時代早期・草創期の調査終了後、旧石器文化層の確認のためのトレーニング調査を行なったが、E 区については旧石器の文化層が確認されたため、旧石器の調査を一部行い全調査を終了した。ただし、旧石器の調査については、時間的な制限もあり、不十分なものであったことは否めない。

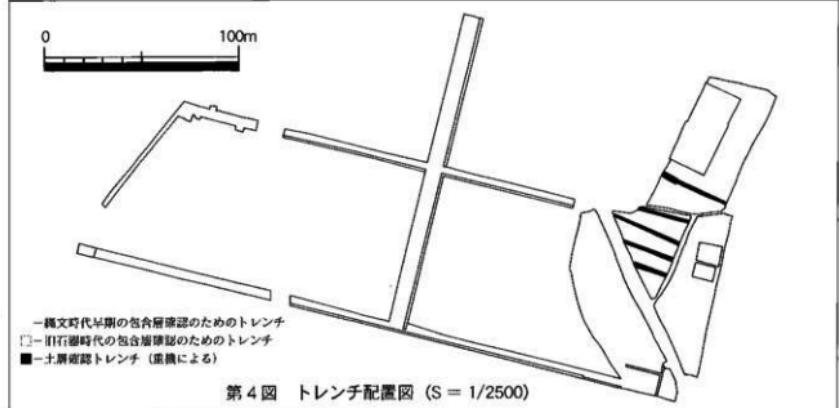
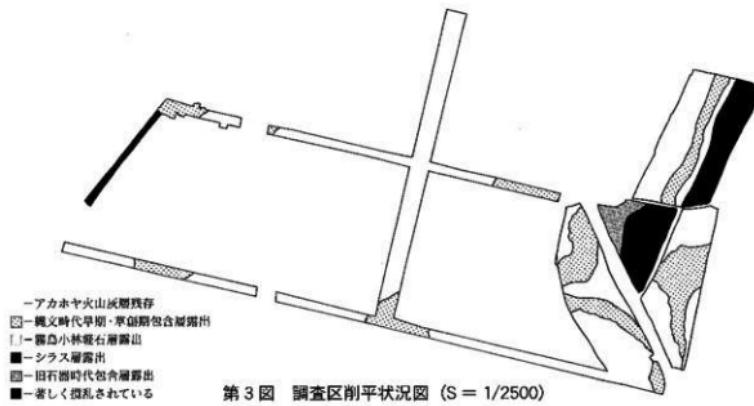
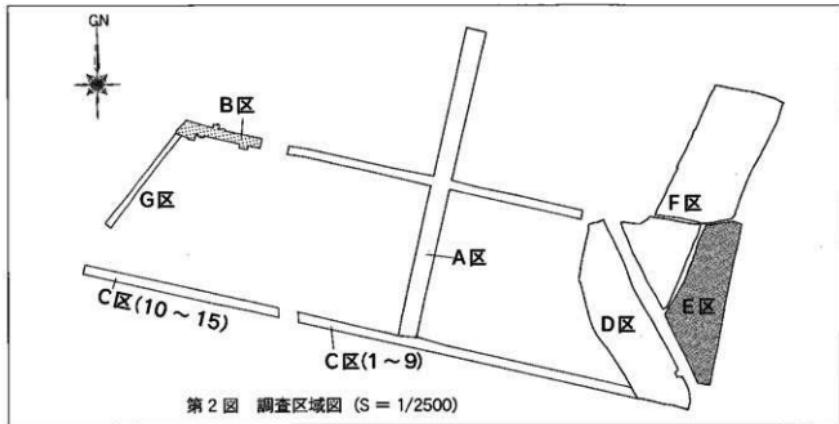
G 区については、樹根によってほとんどの文化層が破壊されていたため、重機による確認調査のみで

終了している。

尚、調査区については、整理作業の段階で調査時とは一部変更しているので、平成12年度刊行の当遺跡概要報告書とは異なる記述となっている。

3. 調査日誌抄

- 00.04.25 調査範囲の設定のため、協議開始
- 00.04.28 測量開始（調査範囲、基準杭など）
- 00.05.24 表土剥ぎ取り開始【A区→B区→C区→D区】
- 00.06.01 表土剥ぎ取りが終了した範囲での、アカホヤ上面精査開始【A区→B区→C区→D区】
- 00.06.06 A・B・C・D区アカホヤ層上面調査終了。その後、アカホヤを除去。
- 00.06.12 A・B・C・D区の縄文時代早期の旧地形復元作業開始。
- 00.06.16 E区の表土剥ぎ取り開始。
- 00.06.21 F区（1～12）の表土剥ぎ取り開始。
- 00.06.23 F区（14～20）の表土剥ぎ取り開始。
- 00.06.27 縄文時代早期文化層の確認のためのトレンチ調査開始。【A・C（1～9）区】
- 00.07.04 旧石器時代文化層の確認のためのトレンチ調査開始。【F区（14～20）】
- 00.07.12 D区縄文時代早期遺物包含層掘り下げ作業開始。
- 00.07.14 F区（14～20）は調査終了。
- 00.08.07 A・C（1～9）区は調査終了。
- C（10～15）区で縄文時代早期遺物包含層掘り下げ作業開始。
- 00.08.17 E区縄文時代早期遺物包含層掘り下げ作業開始。
- 00.08.21 B区縄文時代早期遺物包含層掘り下げ作業開始。
- 00.08.22 D区は調査終了。
- 00.08.24 E区で集石遺構が検出され始める。
- 00.09.05 F（1～12）区縄文時代早期遺物包含層掘り下げ作業開始。
- 00.09.06 B・C区で集石遺構及び炉穴が検出され始める。
- 00.09.20 G区の確認調査。＊樹根による擾乱が著しく、1日で終了。
- 00.11.08 F（1～12）区で落し穴2基検出される。
- 00.11.10 C（10～15）区で旧石器時代遺物包含層確認のためのトレンチ調査開始。
- 00.11.22 E区で炉穴2基検出。又、旧石器時代遺物包含層確認のためのトレンチ調査開始。
- F（1～12）区は調査終了。
- 00.12.08 E区調査終了。
- 00.12.18 B・C（10～15）区の調査終了。





第5図 坂元遺跡周辺地形図 (S = 1/2000)

第4節 基本土層

1. 各区の地形

全8区（C区を1～9グリッドと10～15グリッドの2つに分けて考察する）の調査区は3つの地形に分かれる。

A区・C区（1～9グリッド）区は台地に南北にはいる谷部にあたる。そのため他の地区と比較すると堆積が厚い傾向にある。

B区・C区（10～15グリッド）・G区とE区・F区は、その谷を挟んで位置するが、両方の地形は異なる様相を呈している。B区・C区（10～15グリッド）・G区については、清武川を眼下に見下ろす当台地縁辺部にあたり、縁辺部にかけてやや上っている地形となっている。E区・F区は、標高の高い丘陵部から次第に下って台地上平坦部へとつながる緩やかな傾斜地であるため、丘陵と平坦部の両特徴を併せ持った出土傾向となっている。

2. 基本土層

当遺跡は、先述のとおり3つの地形に大別されるが、土層の堆積状況についてはほぼ同じ状況である。ただし、地形により厚み・土質に若干の違いが見られるため、谷部と台地端部の2箇所の基本土層を記録した。（本報告書で使用されている層位については、第6図基本土層①参照）

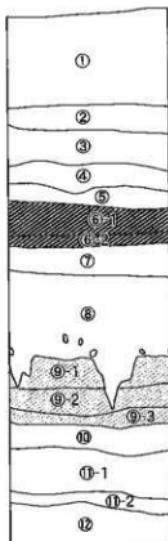


図版1 坂元遺跡基本土層①(谷部)



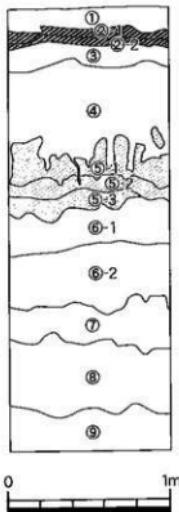
図版2 坂元遺跡基本土層②(台地端部)

第6図 基本土層図①【谷部】
(S=1/30)



- ①- 現代耕作土
- ②- 黒褐色シルト質ローム (10YR3/1)
細粒を多く含むため、ジャリッとした質感がある。
- ③- 黒色シルト質ローム (2.5Y2/1)
- ④- 暗灰黄色シルト質ローム (2.5Y4/2)
- ⑤- 2次アカホヤ層 (7.5YR5/6)
- ⑥-1 アカホヤ火山灰層 (10YR5/8)
- 2 アカホヤ降下軽石層 (10YR6/8)
- ⑦- 黒褐色シルト質ローム (10YR3/2)
- ⑧- にぶい黄褐色シルト質ローム (10YR4/3)
- ⑨-1 霧島・小林火山灰層が風化し (10YR3/4)、⑧層がクラックに入り込んでいる。
 - 2 霧島・小林火山灰層 (10YR4/2) かなり硬質。
 - 3 ⑨-2と似ているが、含まれるバミスが全体的に少ない。
- ⑩- 暗褐色シルト質ローム (10YR3/3) やや硬質。
- ⑪-1 褐色シルト質ローム (10YR4/6)
- 2 ⑪-1にシラスがわずかに混入している。
- ⑫ シラス

第7図 基本土層図②【台地端部】
(S=1/30)



- ①- 現代耕作土
- ②-1 アカホヤ火山灰層 (7.5YR5/6)
- 2 アカホヤ降下軽石層
- ③- 黒褐色シルト質ローム
- ④- 褐色シルト質ローム (10YR4/6)
- ⑤-1 霧島・小林火山灰層が風化し (10YR3/4)、④層がクラックに入り込んでいる。
 - 2 霧島・小林火山灰層 (10YR4.5/3.5) かなり硬質。
 - 3 ⑤-2と似ているが、含まれるバミスが全体的に少ない。
- ⑥-1 褐色シルト質ローム (10YR4/5)
 - 1~3cm程の水泡状のにぶい黄褐色土 (10YR4/3) が全体的に混ざりこんでいる。
 - 2 ⑥-1と似ているが、水泡状の黄褐色土が少ない。
- ⑦- 暗褐色シルト質ローム (10YR3/4)
- ⑧- 褐色シルト質ローム (10YR4/6)
 - 1.5cm~2.5cmほどの水泡状の褐色土 (10YR4.5/6) が全体的に混ざり込んでいる。
- ⑨- 黄褐色シルト質ローム (2.5Y5.5/5)

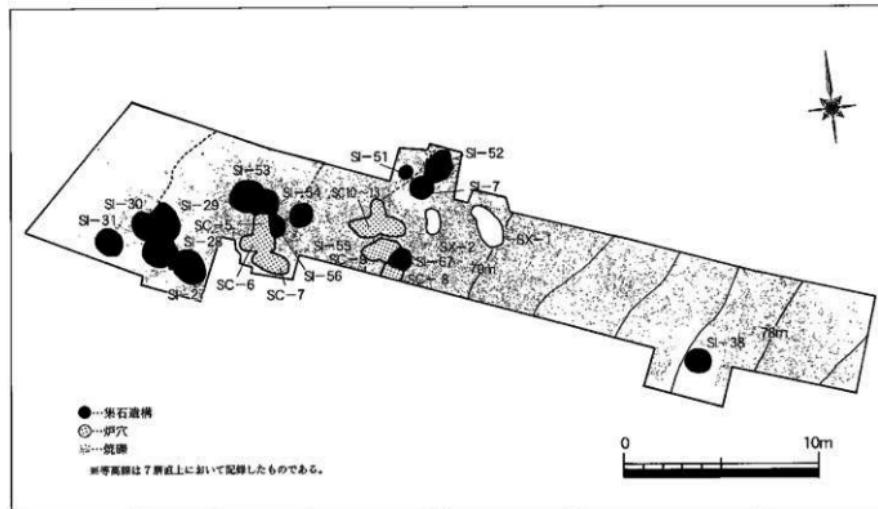
第Ⅱ章 B 区における調査（縄文時代早期）

第1節 遺構

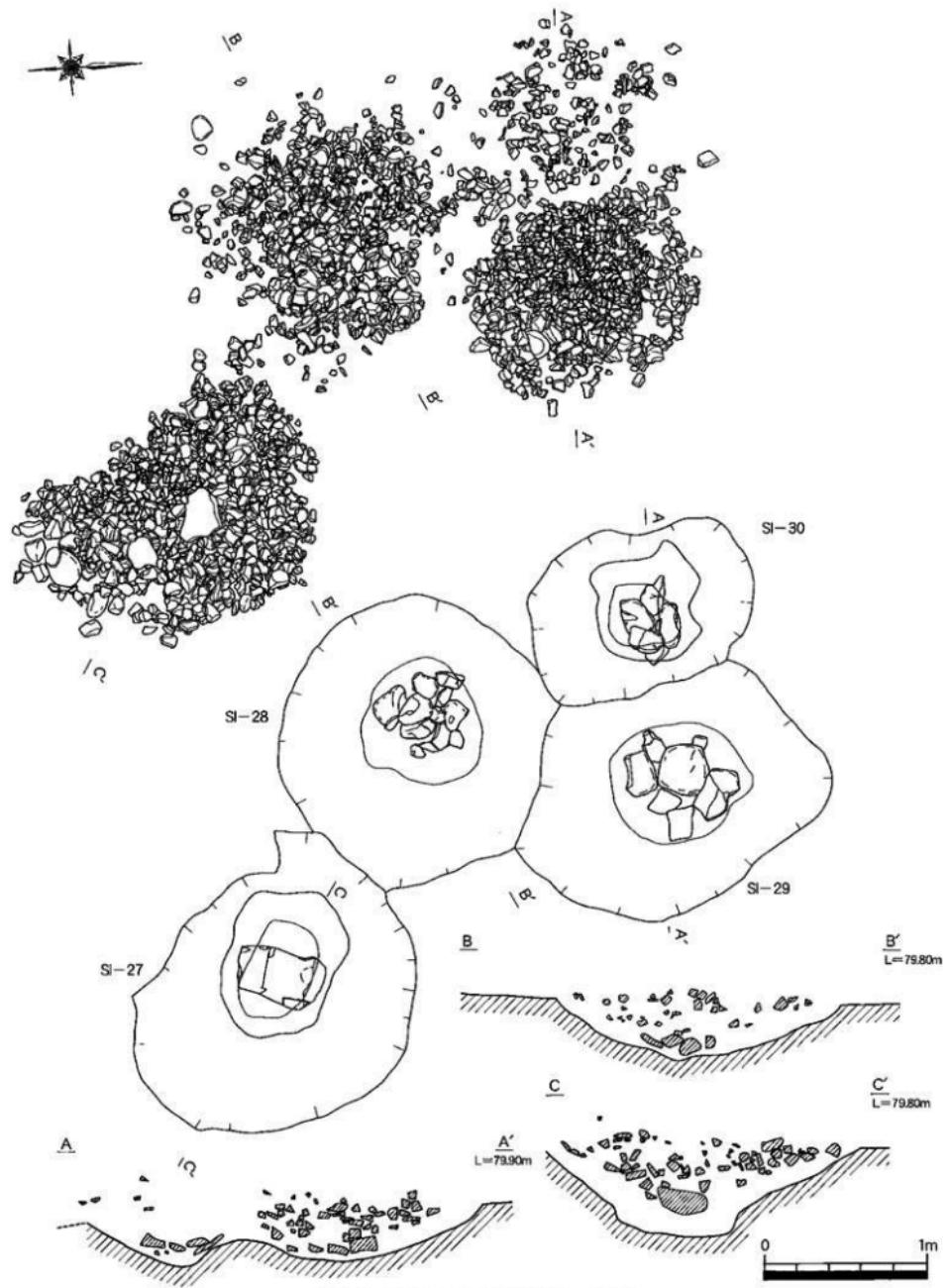
1. 検出状況

調査面積約 250m² の B 区においては、まずアカホヤ層上面における精査を実施したが、縄文時代前期以降の遺構・遺物は確認されなかった。そこで、アカホヤ層を重機で剥ぎ取った後、7 層上位より人力にて掘り下げ作業を行ったところ、土器や石器などの遺物とともに焼礫が出土はじめた。焼礫は 7 層上位から 8 層下位まで約 10,000 点出土したが、最も密度が濃かったのは 7 層下位から 8 層中位（厚さ 30cm ~ 40cm）であった。

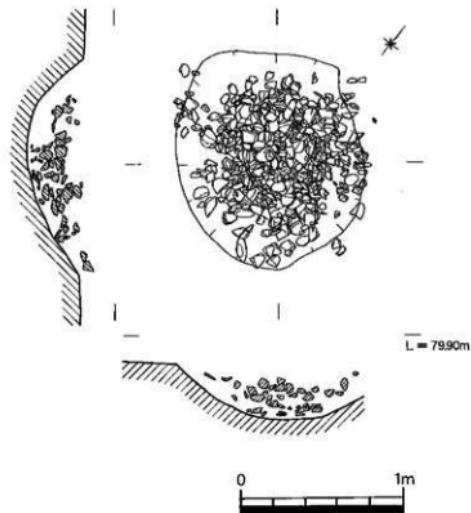
焼礫の出土地点を記録した後取り除いていくと、7 層の下位から 8 層下位において、集石遺構 14 基と炉穴 9 基が検出された。集石遺構については、礫の密集状況と掘り込みの埋土から検出が比較的容易であったが、炉穴については、焼礫が流れ込んでいたため集石遺構との違いが不明瞭で、焼礫の記録作業後の調査過程で炉穴と認定できた状況であった。



第 8 図 B 区縄文時代早期遺構配置図及び焼礫分布図 (S = 1/250)



第9図 SI-27～30 実測図 (S = 1/30)



第10図 SI-31 実測図 ($S = 1/30$)

SI-29については、掘り込みの形状が平面プランは円形で断面はボウル状を呈していて、焼穢は171kgが使用されていた。又、掘り込みの底面付近には、掌大から人頭大の扁平な焼穢が7個まとまって配置されていた。SI-30については、掘り込みの形状が平面プランは円形で断面はボウル状を呈していて、焼穢は71.4kgが使用されていたが、ぎっしりと焼穢がつまっている他の3基と比較するとかなり焼穢が疎らであった。又、掘り込みの底面付近には、掌大から人頭大の扁平な焼穢が5個まとめて配置されていた。

掘り込みの埋土は、炭化物及び炭化粒を含む黒色土で、4基ともほぼ同土質であった。4基の関係については、先述のとおりほぼ似かよった時期に使用されたとは推測されるが、互いの穢を補充しあったような同時性を裏付ける状況は確認できなかった。

SI-31

SI-31については、SI-27～30と隣接していて検出面(8層上位～中位)もほぼ同じだったが、掘り込み埋土が4基とは異なっており、4基とは異なる時期の集石遺構として判断していた。その後、放射性炭素年代測定を実施したところ、4基より400年から300年ほど古い時期に使用された集石遺構であるという結果(8690 ± 40 年BP)が得られた。掘り込みの形状については、平面プランが円形で断面はボウル状であった。また、穢の充填状況については、105.7kgと多量な焼穢が使用されていたが、先述の4基で見られたような底面付近での人頭大の穢の配置は見られなかった。

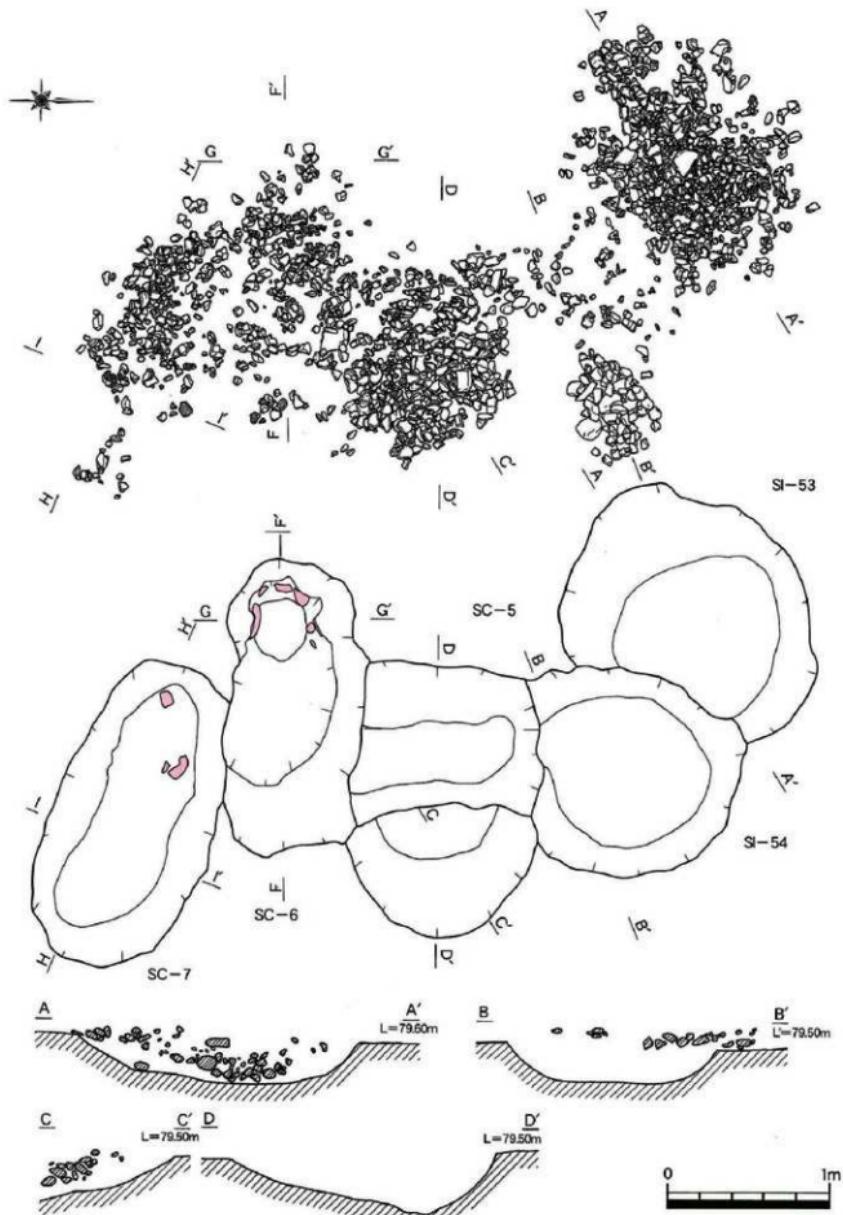
2. 集石遺構と炉穴

SI-27・28・29・30

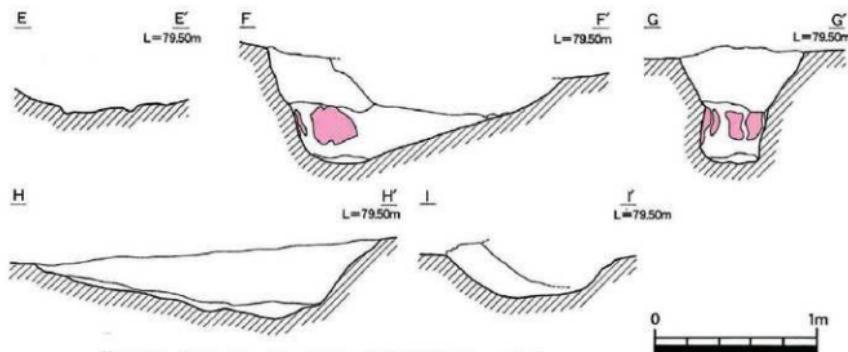
この4基については、それが繋がる様に切り合った状態で検出されているが(8層上位～中位)、放射性炭素年代測定の結果(SI-27が 8220 ± 40 年BP、SI-28が 8310 ± 40 年BP、SI-29が 8290 ± 40 年BP、SI-30が 8290 ± 40 年BP)からみて、近い時期に使用された可能性が高いと推測される。

SI-27については、掘り込みの形状が平面プランは円形で断面はV字形を呈していて、焼穢は当遺跡で最多の250.6kgが使用されていた。又、掘り込みの底面から10cm程のところに人頭大の扁平な穢が1個(50cm×30cm)配置されていた。

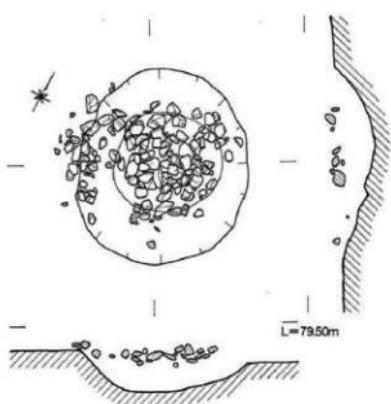
SI-28については、掘り込みの形状が平面プランは円形で断面はボウル状を呈していて、焼穢は116.3kgが使用されていた。又、掘り込みの底面付近には、掌大の扁平な焼穢が10個程まとまって配置されていた。



第11図 SI-53・54・56、SC-5～7 実測図① (S = 1/30)



第12図 SI-53・54・56、SC-5～7 実測図② (S = 1/30)



第13図 SI-55 (S = 1/30)

16kgのみとかなり疎らな状況であった。尚、SI-53・SC-5と切り合っていたが、いずれとの新旧関係も不明である。SI-56はSC-5により半分近くが壊されている状況であったが、推測される掘り込みの形状は平面プランが円形で断面がボウル状であり、礫の充填状況はやや密であった。SC-5については、平面プランが長方形の土坑であるが、埋土に炭化粒と焼土の小粒が多く確認され、SC-6・7の埋土と似ていたため炉穴の端部ではないかと推測される。SC-6・7については、掘り込み内に残存する焼土や埋土の特徴からみて炉穴だと推測される。SC-6は平面プランが長方形円形でブリッジは残っていないが、ブリッジがあったであろう部分にはくびれがみられた。SC-7は平面プランが舟形でブリッジは残っていない。又、足場から燃焼部にかけてはいずれも緩やかに傾斜している。両炉穴の関係については、いずれかが使用不能となったための拡張とは考えにくい。尚、放射性炭素年代測定では 8550 ± 40 年BPという結果を得ている。

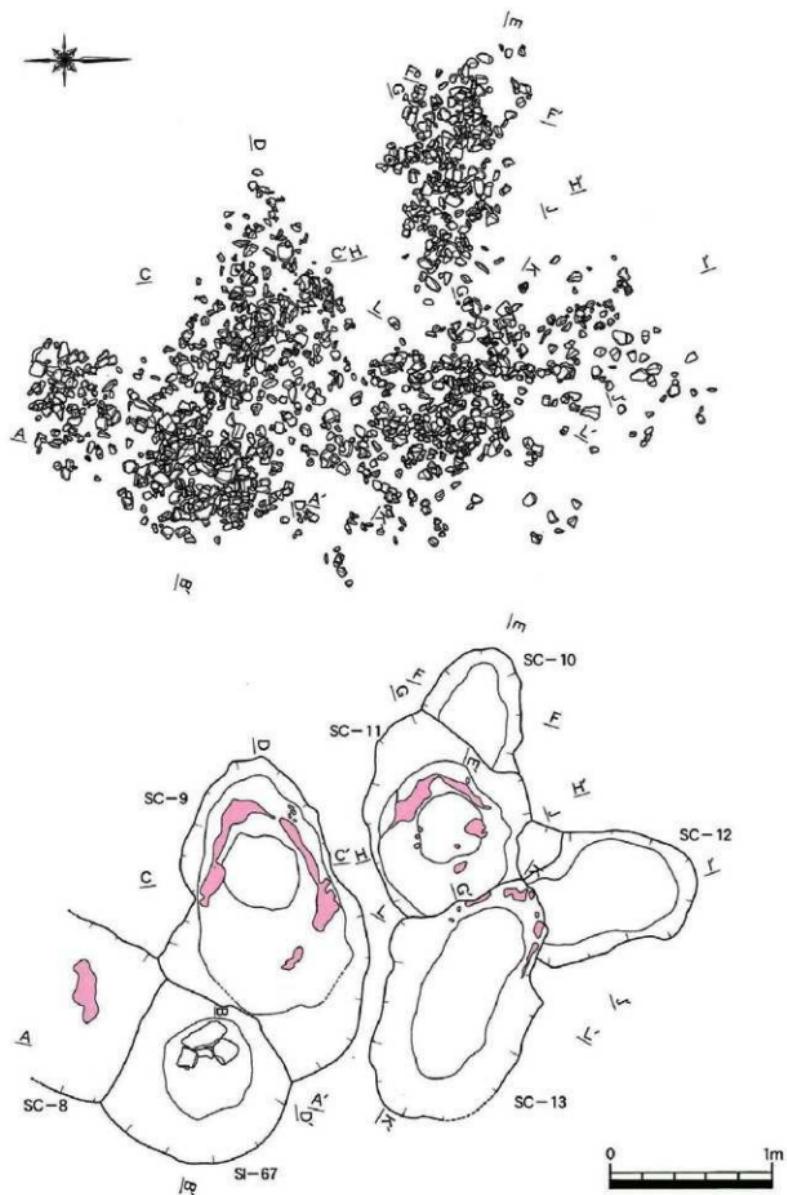
SI-55

SI-55については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面がボウル状を呈していて、使用されている焼礫は28kgでやや疎らな状況であった。近隣のSI-53・54との関係は不明である。

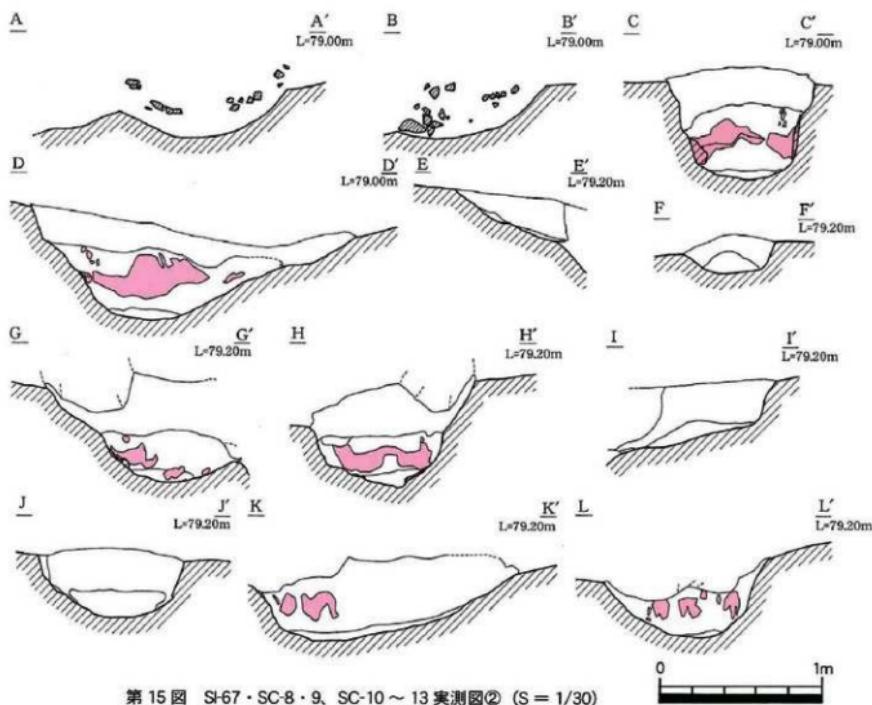
SI-53・54・56、SC-5・6・7

SI-53・54・56、SC-5・6・7については、8層上位から中位にかけて検出されたが、検出当初はSI-53・54・56以外に何基の遺構が切り合っているのかが不明瞭な状況であった。そのため、まずSI-53・54・56の記録作業を進めるとともに、不明瞭である範囲の焼礫を記録し取り除いていったところ、炉穴3基が確認された。

SI-53については、掘り込みの形状が平面プランは円形で断面はボウル状を呈していて、礫の充填状況はやや密であった。尚、SI-54と切り合っていたが、新旧関係は不明である。SI-54については、掘り込みの形状が平面プランは円形で断面はボウル状を呈していて、使用されている焼礫は



第14図 SI-67・SC-8・9、SC-10～13実測図① (S = 1/30)



第15図 SI-67・SC-8・9、SC-10～13 実測図② (S = 1/30)

SI-67、SC-8・9 SC-10・11・12・13

SI-67 と SC-8・9・10・11・12・13 については、SI-53・54・56、SC-5・6・7 同様、8 層上位から中位にかけて検出されたが、検出当初は SI-67 以外に何基の遺構が切り合っているのかが不明瞭な状況であった。そこで、不明瞭である範囲の焼櫻を記録し取り除いていったところ、1 基の集石遺構と 2 基の炉穴の切り合いと、4 基の炉穴の切り合いが確認された。

SI-67 については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈していて、焼櫻は 60.5kg 使用されていてやや密であった。又、掘り込みの底面付近には人頭大の扁平な砾が 1 個配置されていた。SC-8 については、炉穴の足場だと推測されるが、遺構のほとんどが調査区外であったため遺構の全体を調査できず、遺構の性格については不明である。SC-9 については、掘り込み内に残存する焼土や埋土の特徴からみて炉穴であろう。平面プランは舟形であるが、崩落してしまったブリッジがあったであろう範囲にくびれが確認でき、また、足場から燃焼部にかけて傾斜している。3 基の新旧関係については、放射性炭素年代測定により SC-9(8290 ± 40 年 BP)、SI-67(8240 ± 40 年 BP)、SC-8(8190 ± 40 年 BP) という結果を得ている。

SC-11・13 については、掘り込み内に残存する焼土や埋土の特徴からみて炉穴であろう。SC-11・13 いずれもブリッジは残存しておらず、また 2 基とも SC-6・7・9 同様足場から燃焼部にかけて傾斜している。平面プランは残存状況から明言はできないが、SC-9 と似た形状ではないかと思われる。尚、使用時期については、SC-13 がブリッジの崩落等により使用不可となった後 SC-10 を拡張して使用した可能性

が高いと推測されるが、放射性炭素年代測定では、SC-13 が 8330 ± 40 年 BP で SC-11 が 8300 ± 40 年 BP という結果を得ている。SC-10・12については、埋土は SC-11・13 に似ているものの焼土が確認できず、形状も炉穴の一部とは断定できないが、今回は炉穴として取り扱っている。

SI-7

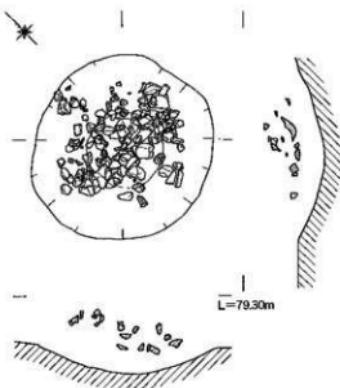
SI-7 については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈していて、使用されている焼穢は 23kg で疎らであった。

SI-51

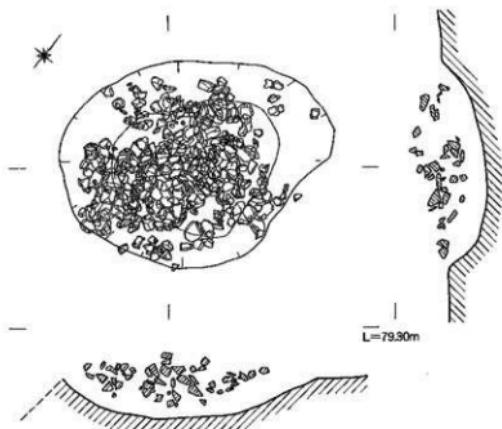
SI-51 については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈していて、使用されている焼穢は 12kg でかなり疎らであった。

SI-52

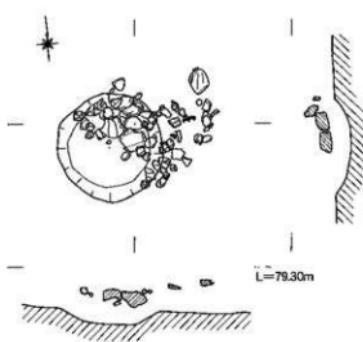
SI-52 については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈していて、使用されている焼穢は 84.5kg と密であった。また、使用時期については、放射性炭素年代測定により 8400 ± 40 年 BP という結果を得ている。



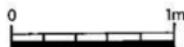
第 16 図 SI-7 実測図 ($S = 1/30$)



第 18 図 SI-52 実測図 ($S = 1/30$)



第 17 図 SI-51 実測図 ($S = 1/30$)



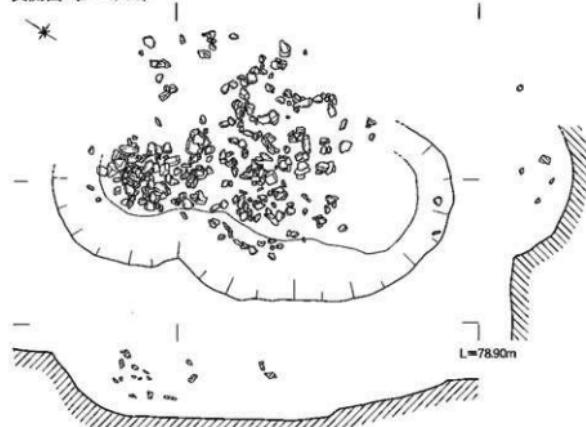


第19図 S-38 実測図 ($S=1/30$)

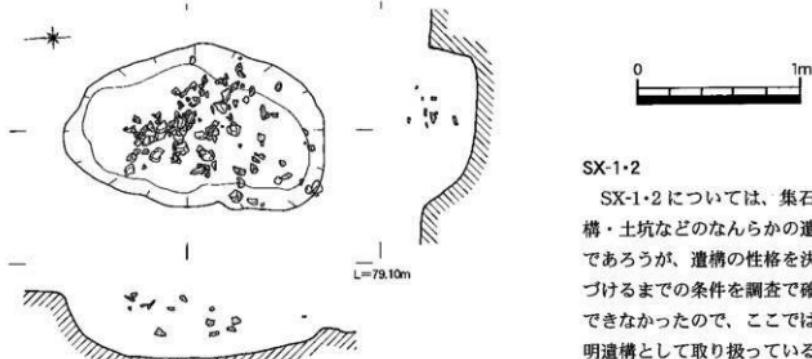
S-38

SI-38については、7層の下位で検出され、又、放射性炭素年代測定により 7840 ± 40 年 BP という結果を得ていることから、B区のなかでは最も新しい集石遺構といえる。

焼礫 236 個 (35.2kg) が半径約 1.2m の範囲に円形に密集していて、焼礫の堆積の厚みは約 15cm であった。掘り込みについては、トレンチによる確認調査を行なったが確認できなかった。



第20図 SX-1 実測図 ($S=1/30$)



SX-1・2

SX-1・2については、集石遺構・土坑などのなんらかの遺構であろうが、遺構の性格を決定づけるまでの条件を調査で確認できなかったので、ここでは不明遺構として取り扱っている。

第21図 SX-2 実測図 ($S=1/30$)

第1表 B区集石造構及び炉六編査表

集石造構 No	検出面	標範囲 の直径 (m)	總 標 識 數 (個)	總 重 量 (kg)	標 1個 平均重量 (kg)	掘込		底石 炭化物	放射性 炭素年代 測定値	共伴 遺物	備 考
						有無	直径 (m)	深さ (m)			
SI-27	VII層上位～中位	1.70	1165	250.60	0.22	○	1.85	0.50	○	○	8220 ± 40 SI-28と切りあう
SI-28	VII層上位～中位	1.50	787	116.30	0.15	○	1.70	0.38	○	○	8310 ± 40 SI-27・29・30と切りあう
SI-29	VII層上位～中位	1.45	1029	171.00	0.17	○	1.80	0.35	○	○	8290 ± 40 SI-28・30と切りあう
SI-30	VII層上位～中位	1.04	651	71.40	0.11	○	1.04	0.33	○	○	8290 ± 40 SI-28・29と切りあう
SI-31	VII層上位～中位	1.24	946	105.70	0.11	○	1.36	0.45	×	○	8690 ± 40 ○
SI-53	VII層上位～中位	1.82	—	—	—	○	1.52	0.30	×	○	○ SI-54と切りあう
SI-54	VII層上位～中位	1.20	96	16.00	0.17	○	1.40	0.35	△	○	○ SI-53・56・SC-5と切りあう
SI-56	VII層上位～中位	1.10	—	—	—	○	1.20	0.26	×	△	× SC-5に切られる
SI-55	VII層上位～中位	1.16	178	28.00	0.16	○	1.22	0.25	×	○	○ 8630 ± 40 ○
SI-67	VII層上位～中位	1.10	430	60.50	0.14	○	1.24	0.25	○	○	○ 8240 ± 40 ○ SC-8・9と切りあう
SI-7	VII層上位～中位	0.80	156	23.00	0.15	○	1.12	0.20	△	×	○
SI-51	VII層上位～中位	0.80	86	12.00	0.14	○	0.70	0.20	×	△	○
SI-52	VII層上位～中位	1.30	592	84.50	0.14	○	1.60	0.26	×	○	○ 8400 ± 40 ○
SI-38	VII層下位	1.14	236	35.20	0.15	×	—	—	×	△	○ 7840 ± 40 ○

炉穴 No	検出面	サ イ ズ (m)	ブリ ッジ	焼土の 位置	炭化物	放射性 炭素年代 測定値	共伴 遺物	備 考
SC-5	VII層上位～中位	1.20 × 0.86 × 0.40	×	—	△	○	○	SI-56と切り、SC-6と切りあう
SC-6	VII層上位～中位	1.60 × 0.87 × 0.70	×	端部	△	○	○	SC-5・7と切りあう
SC-7	VII層上位～中位	1.96 × 1.03 × 0.45	×	端部	○	8550 ± 40	○	SC-6と切りあう
SC-8	VII層上位～中位	× 1.00 ×	×	—	○	8190 ± 40	○	SI-67と切りあう
SC-9	VII層上位～中位	2.02 × 1.32 × 0.68	×	端部	○	8290 ± 40	○	SI-67と切りあう
SC-10 (△)	VII層上位～中位	0.65 × 0.70 × 0.33	—	—	△	○	○	SC-10と切りあう
SC-11	VII層上位～中位	1.20 × 1.03 × 0.63	×	端部	○	8300 ± 40	○	SC-10・13と切りあう
SC-12 (△)	VII層上位～中位	1.00 × 0.70 × 0.35	×	—	△	○	○	SC-11と切りあう
SC-13	VII層上位～中位	1.65 × 1.05 × 0.53	×	端部	○	8330 ± 40	○	SC-11・12と切りあう

*炭化物の欄の△のマークは、炭化鉄のみが検出されたケース。

*放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正¹⁴C年代を掲載。

図版3 SI-27～31検出（北から）



図版4 SI-27～31配石（北西から）



図版5 SI-27～31掘り込み発掘（北から）



図版6 SI-53・54・56、SC-5・6・7検出（北西から）



図版 7 SI-53 (北西から)



図版 8 SI-54 (北から)



図版 9 SI-56・SC-5(東から)



図版 10
SC-6(東から)



図版 11
SC-7(東から)



図版 12 SI-55(南東から)



図版 13 SI-67・SC-8～13検出(南東から)



図版 14 SI-67・SC-8・9(南東から)



図版 15 SH-67 配石(東から)



図版 16 SC-9(東から)



図版 17 SC-10・11(東から)



図版 18 SC-13(東から)



図版 19 SC-7・51・52(南西から)



図版 20 SI-38(北から)



図版 21 SX-1(南西から)



図版 22 SX-2(東から)

3. 遺構内遺物

集石遺構と炉穴から約300点の遺物が出土した。

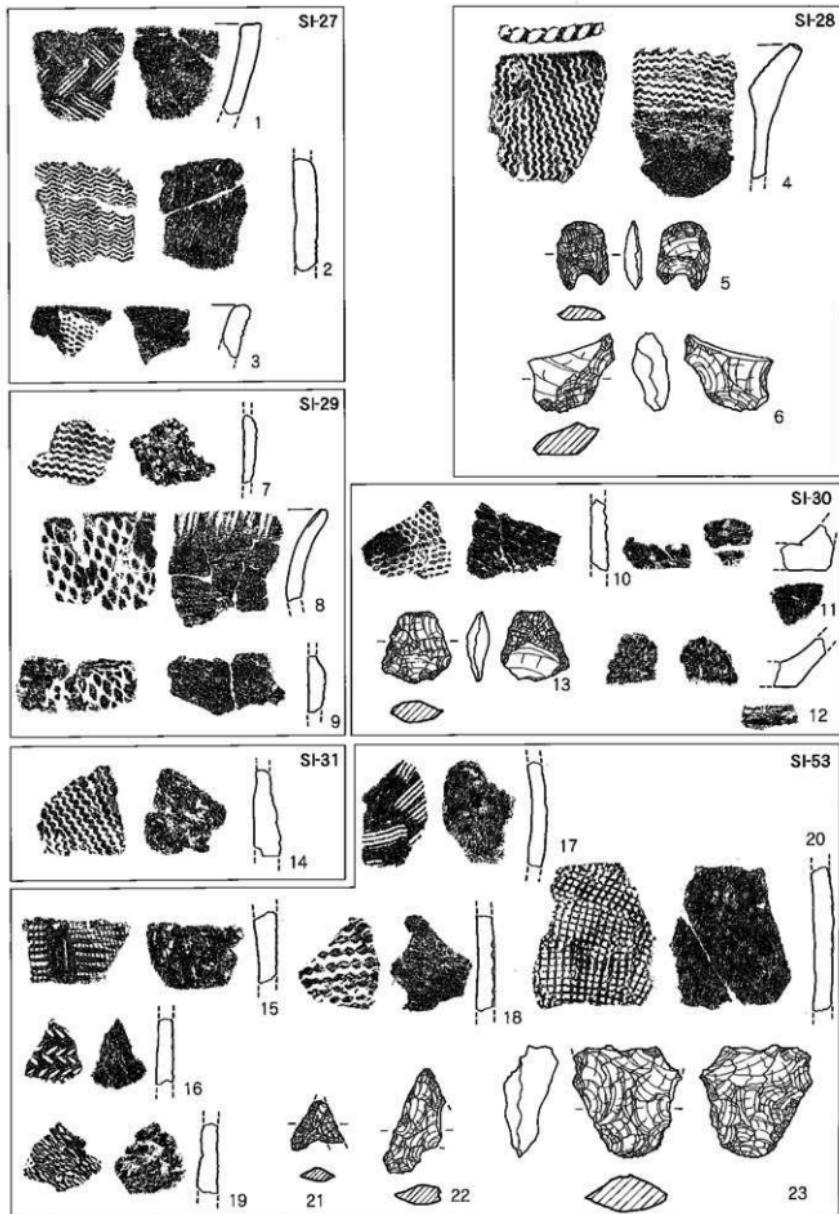
土器については、約200点のうち9割以上は押型文土器であったが、山形文・楕円文がその大部分を占めていて、その他には格子目文(20)などがみられた。山形文と楕円文については、ほとんどの遺構で似かよった出土状況であったが、SC-6・7(炉穴)からは山形文のみが大量に出土した。尚、先述のとおりSC-7では放射性炭素年代測定により 8550 ± 40 年BPという結果を得ているので、ほぼ押型文のみの出土状況とあわせて考えると非常に興味深い状況といえる。

その他には下剥峯式土器(15・28・45・59)や桑ノ丸式土器(17・29)といった貝殻文系の土器が少量出土しているが、縄文時代早期後葉の土器はほとんど出土していない。

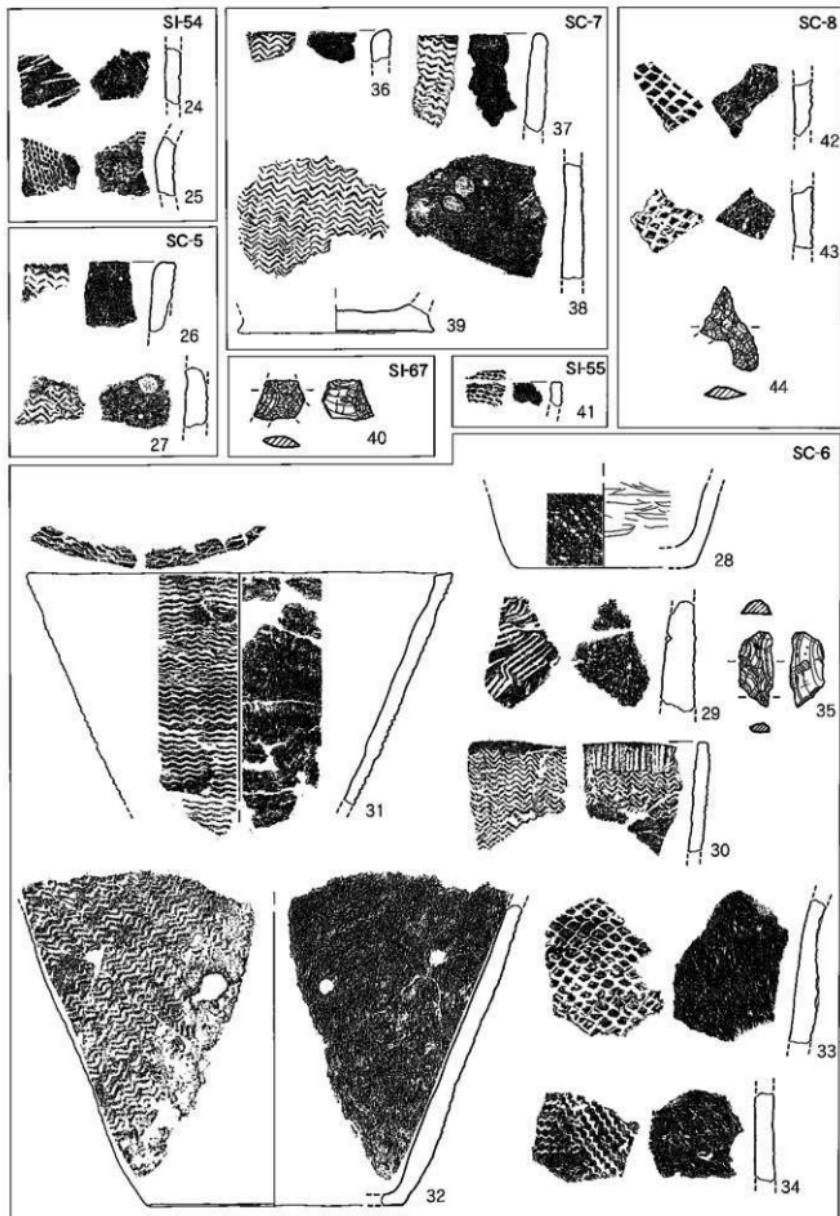
石器について述べると、5は桑ノ木津留産黒曜石製の異形石器である。先端部を丸く脚部を尖らせて整形している。摩滅する部位は観察されない。6は2次加工ある剥片であろうか。周縁に剥離面が観察されており、石核の可能性もある。13は打製石鏃の未製品であろうか。先端部を尖らせず直線的に仕上げているので異形石器の可能性もある。21・22は打製石鏃である。両者ともチャート製で抉りを深く作り、脚部は丸く整形している。23は石核の可能性もあるが、下端部に細かい調整が見られ丸みを帯びるように作り出している様子が見られることから尖頭器かその未製品とも考えられる。35は桑ノ木津留産黒曜石の石錐であろうか。横長剥片を素材として錐部と素材の打面部分に調整を施し、平面形を不整長楕円形に作りあげる。41はチャート製の打製石鏃である。先端部・脚部を欠損する。44は打製石鏃である。抉りは深く先端部と脚部の境目に屈曲が見られる。47は打製石鏃で、先端部・抉りの部分にのみ調整を加え剥片の形状を多く残している。58は打製石鏃である。抉りが深く長い脚部を作り出している。61はチャート製の石核である。作業面を展開させながら打面調整を行わず剥片剥離を行う。65は打製石鏃である。抉りが深く長い脚部を作り出している。66は石錐である。前面に調整を行い、形状を作り出す。67は針尾産黒曜石の石核である。61と同様作業面を展開させながら打面調整を行わず剥片剥離を行う。一部に自然面を残す。71は打製石鏃である。SI-52・53出土のもの(22・65)と平面形が類似する。石器については、チャートを石材としたものが多く、剥片やチップをはじめ石鏃(未製品も含む)や石核が出土している。その他にも黒曜石製の石鏃や頁岩製の石核などが出土している。

第2表 B区遺構内遺物一覧表

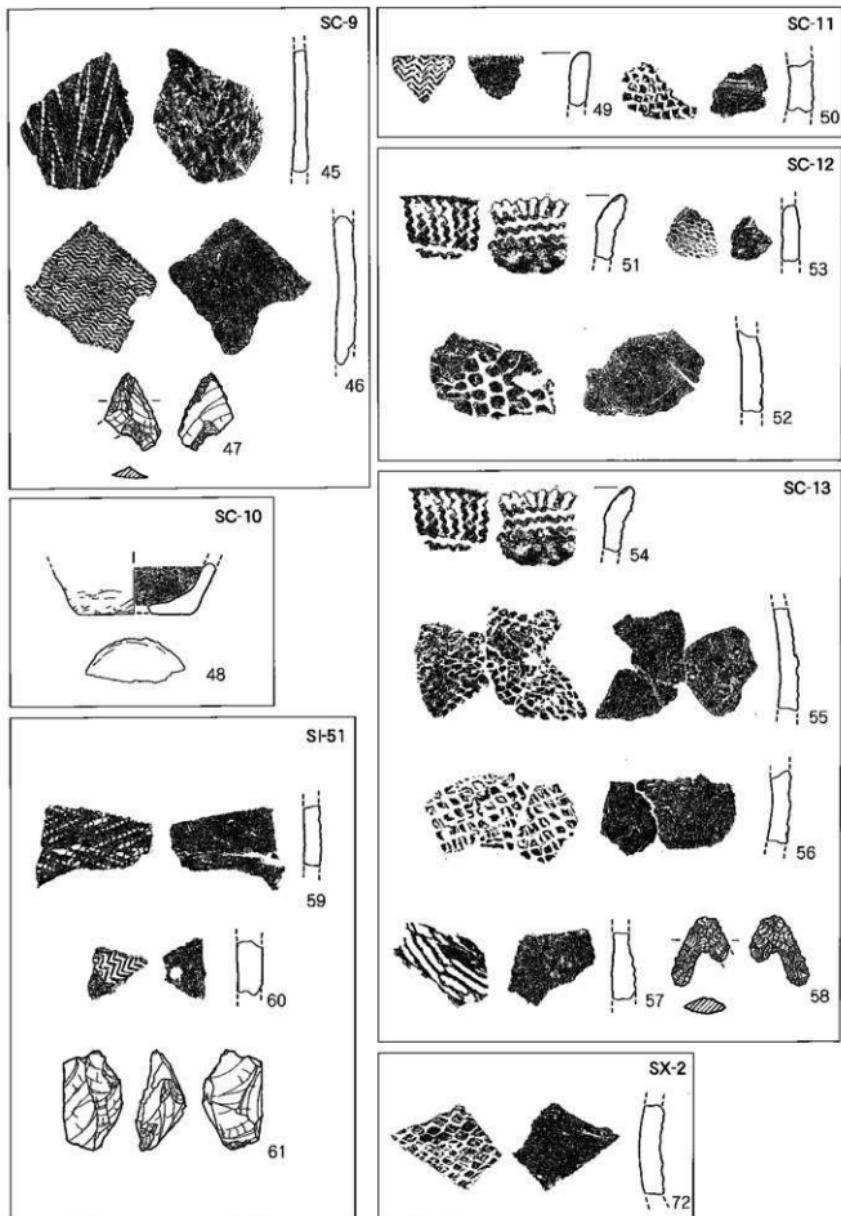
遺構 番号	出土遺物 * () 内は出土点数	遺物番号		放射性 炭素年代	備考
		土器	石器		
SI-27	・押型文土器《横円(4), 山形(4)》 ・チャート剥片(1)・黒曜石チップ(1)	1・2・3	—	8220 ± 40	
SI-28	・押型文土器《横円(3), 山形(1)》 ・異形石器(1)・チャート《剥片(3), チップ(2)》・流紋岩剥片(1)	4	5・6	8310 ± 40	
SI-29	・押型文土器《横円(4), 山形(5)》・不明土器(数点) ・貞岩剥片(1)・チャート剥片(1)	7・8・9	—	8290 ± 40	SI-32 と接合(山形押型文)
SI-30	・押型文土器《横円(7), 山形(6)》・不明土器(10数点うち2点は底部) ・チャート《石器未製品(1), 剥片(1)》	10 ~ 12	13	8290 ± 40	
SI-31	・押型文土器《山形押型文(1)》・不明土器(2)	14	—	8690 ± 40	
SI-53	・貝殻文系土器《貝殻条痕(1), 桑の丸(2), 下剥峰(1), 土(1)》 ・押型文土器《山形(4), 横円(2), ネガティブ横円(2), 格子目(1)》 ・チャート《石器(2), 石器未製品(1), チップ(8), 剥片(9)》・貞岩剥片(1) ・ホルンフェルス剥片(1)・安山岩《剥片(5), チップ(4)》	15 ~ 20	21 ~ 23		
SI-54	・貝殻文系土器《下剥峰(1)》・押型文土器《横円(3), 山形(2)》・不明土器(1)	24・25	—		
SC-5	・貝殻文系土器《下剥峰(1)》・押型文土器《横円(1), 山形(2)》	26・27	—		
SC-6	・貝殻文系土器《下剥峰(1), 桑の丸(1)》・押型文土器《横円(3), 山形(40 ~ 50)》 ・チャート剥片(1)・黒曜石2次加工のある剥片(1)	28 ~ 34	35		山形押型文の口縁部が SI-29 と接合
SC-7	・押型文土器《山形押型文(20 ~ 30)》・不明土器(数点) ・チャート剥片(1)	36 ~ 39	—	8550 ± 40	
SI-55	・押型文土器《横円(1)》	40	—	8630 ± 40	
SI-67	・チャートチップ(6)・黒曜石チップ(2)・貞岩剥片(1)・チャート石器(1)	—	41		
SC-8	・押型文土器《横円(4)》・不明(1) ・チャート石器(1)	42・43	44	8190 ± 40	SC-13 と接合
SC-9	・貝殻文系土器《貝殻条痕(1), 下剥峰(2)》・押型文土器《横円(1), 山形(4)》・不明土器(4) ・チャート《石器(1), 剥片(1), 片(1)》	45・46	47	8290 ± 40	
SC-10	・押型文土器《横円(1)》・不明土器(1) ・チャート剥片(1)	48	—		
SC-11	・押型文土器《横円(1), 山形(4)》	49・50	—	8300 ± 40	
SC-12	・貝殻文系土器《下剥峰(2)》・押型文土器《横円(1), 山形(2)》・不明土器(1) ・黒曜石《石器(1), チップ(3), 剥片(2)》・チャートチップ(1)	51 ~ 53	—		黒曜石チップに姫島産 有り
SC-13	・押型文土器《横円(4), 山形(2)》・不明上器(6) ・黒曜石石器(1)・チャート剥片(1)	54 ~ 57	58	8330 ± 40	
SI-51	・貝殻文系土器《下剥峰(2)》・押型文土器《山形(1)》・不明土器(1) ・チャート石核(1)	59・60	61		
SI-52	・押型文土器《山形(1)》 ・チャート石器(2)・貞岩《石核(1), 剥片(1)》・黒曜石チップ(1)	62 ~ 64	65 ~ 67	8400 ± 40	・SI-7 と切り合い ・黒曜石チップは針尾産
SI-38	・不明土器(2) ・流紋岩チップ(1)	—	—	7840 ± 40	
SX-1	・貝殻文系土器《桑の丸(4), 下剥峰(1)》・押型文土器《横円(2), 山形(4)》 ・窓ノ神式土器(1)	68 ~ 70	71		
SX-2	・押型文土器《横円(1)》 ・チャート微細剥離ある剥片(1)	72	—		



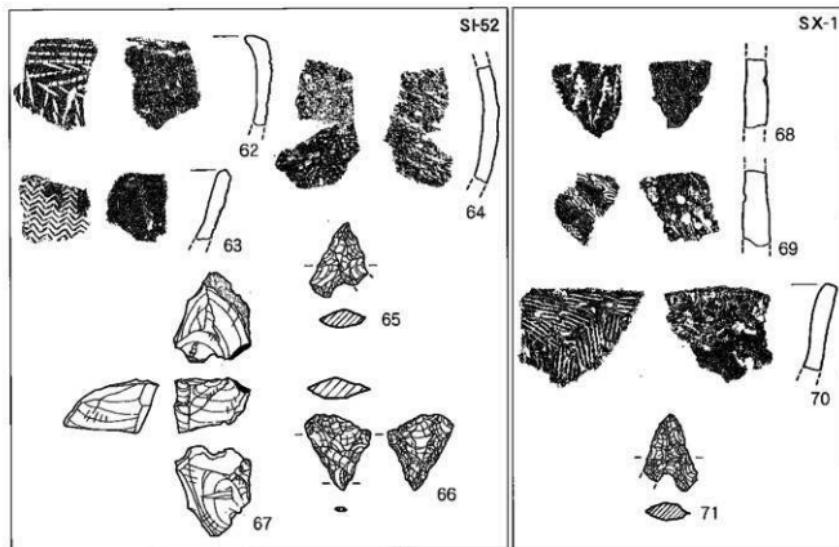
第22図 B区遺構内遺物実測図① (土器:S=1/3 石器:S=2/3)



第23図 B区造構内遺物実測図② (土器: S = 1/3 石器: S = 2/3)



第24図 B区遺構内遺物実測図③ (土器:S=1/3 石器:S=2/3)



第25図 B区遺構内遺物実測図④ (土器:S=1/3 石器:S=2/3)

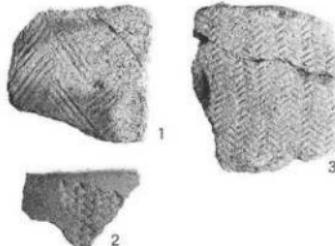
第3表 B区遺構内土器観察表

遺構 No	點番 No	部位	文様及び調整		色		調		胎		土		備 考	遺物 整理 No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カリオ	カルナイト	砂粒			
SI-27	1	口縁	貝殻条痕文	ナデ	2.5YR6/3 にぶい黒	2.5Y4/1 赤灰	○	○			○		2mm以下	13
	2	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄緑	10YR6/3 にぶい黄緑	○	○	○	○	○		4mm以下	182
	3	口縁	椿円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	○		○	○	○		2mm以下	185
SI-28	4	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○		2mm以下	14
	7	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	○	○			○		2mm以下	134
SI-29	8	UJ縁	椿円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	○	○			○		4mm以下	188
	9	胴部	椿円押型文	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	10YR4/2 灰黄褐	○				○		4mm以下	SI-30出土の土器片と接合
	10	胴部	椿円押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/2 灰褐	○		○		○		2mm以下	172
SI-30	11	底部		ナデ	7.5YR5/2 反覆	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○	○	○		2mm以下	187
	12	底部		ナデ	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○	○	○		2mm以下	189
	14	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	○				○		3mm以下	20
SI-53	15	胴部	貝殻腹縁刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	○	○			○		1mm以下	131
	16	胴部	短沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄緑	10YR4/2 灰黄褐	○		○		○		3mm以下	138
	17	胴部	貝殻腹縁による 押し引き	ナデ	10YR6/3 にぶい黄緑	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○		3mm以下	135
	18	胴部	椿円押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○	○		○		2mm以下	141
	19	胴部	椿円押型文 (前縁削り)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄緑	7.5YR4/2 灰褐	○	○			○		2mm以下	143
	20	胴部	格子目押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄緑	10YR5/3 にぶい黄緑	○	○			○		5mm以下	151

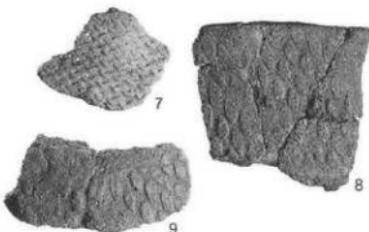
遺構 No	遺物 No	部位	文様及び調査		色 調		胎 土				備 考	遺物整理 No	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キハモ	クルム	砂粒		
SI-54	24	洞部	短沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	○	○	○		○	2mm以下	147
	25	胴部	横円押型文	ナデ	10YR4/2 灰黃褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○	○		○	1mm以下	154
SC-5	26	口縁	山形押型文	ナデ	2.5YR4/2 暗灰黃	2.5YR5/2 暗灰黃	○	○	○		○	2mm以下	16
	27	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○			○	4mm以下	158
SC-6	28	底部	貝殻腹縫による 剥突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	3mm以下	23
	29	胴部	貝殻腹縫による 押し引き文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○				○	3mm以下	160
SC-6	30	口縁	山形押型文	ナデ	5YR4/2 灰褐色	5YR4/2 灰褐色	○	○			○	5mm以下	SI-29出土の土器片と接合
	31	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○			○	2mm以下	口縁 26cm
SC-7	32	底部～ 胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	10YR4/2 灰褐色		○			○	3mm以下	25
	33	胴部	横円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	3mm以下	155
SI-55	34	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	10YR4/2 灰褐色	○		○		○	5mm以下	190
	36	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○			○	5mm以下	156
SC-7	37	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR3/1 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色		○			○	6mm以下	192
	38	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○		○	1cm以下	162
SC-9	39	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR4/2 灰黃褐色	○	○	○		○	4mm以下	136
	40	口縁	横円押型文	ナデ	10YR4/2 灰褐色	7.5YR5/2 灰褐色	○	○			○	2mm以下	152
SC-8	42	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR3/1 黒褐色	5YR4/2 灰褐色	○	○			○	4mm以下	159
	43	胴部	横円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR3/2 黒褐色	○	○	○		○	2mm以下	157
SC-9	45	胴部	貝殻腹縫による 剥突文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR4/3 にぶい赤褐色	○	○	○		○	3mm以下	24
	46	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○	○		○	5mm以下	164
SC-10	48	底部	ナデ	ナデ	5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○	○		○	3mm以下	186
	49	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい黄褐色	○	○	○		○	4mm以下	18
SC-11	50	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○		○	5mm以下	153
	51	口縁	山形押型文	ナデ	10YR3/2 黒褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○	○		○	2mm以下	22
SC-12	52	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR4/1 茜紅	○	○	○		○	3mm以下	163
	53	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR4/3 黒褐色	7.5YR4/2 灰褐色		○			○	2mm以下	161
SC-13	54	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR3/1 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○		○	2mm以下	19
	55	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○	○		○	5mm以下	SC-8出土の土器片と接合
SC-13	56	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○			○	5mm以下	176
	57	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/2 灰褐色	○	○	○		○	4mm以下	173
SI-51	59	胴部	貝殻腹縫による 剥突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	○	○			○	3mm以下	142
	60	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○		○	3mm以下	139
SI-52	62	口縁	貝殻腹縫による 剥突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○			○	3mm以下	21
	63	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○		○	5mm以下	132
SI-52	64	胴部	山形押型文 (剥離著しい)	ナデ	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR3/1 黒褐色	○	○	○		○	3mm以下	165
	68	胴部	貝殻腹縫による 剥突文	ナデ	5YR6/6 橙	10YR4/1 灰褐色	○	○			○	1mm以下	149
SI-52	69	胴部	貝殻腹縫による 押し引き文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR4/2 灰褐色	○				○	4mm以下	145
	70	胴部	貝殻腹縫による 押し引き文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○		○	6mm以下	148
SX-2	72	胴部	横円押型文	ナデ	10YR4/2 灰褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○			○	2mm以下	150

第4表 B区遺構内石器計測分類表

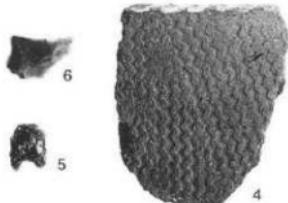
遺物 No	整理 No	器種	遺構 No	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
5	482	異形石器	SI-28	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.6	0.5	1.6	
6	475	二次加工ある剥片	SI-28	チャート	2.4	2.7	1.15	5.1	石核の可能性有り
13	483	石鏃未製品	SI-30	チャート	2.2	2.2	0.65	2.5	
21	485	打製石鏃	SI-53	チャート	1.5	1.6	0.45	0.7	先端部、脚部を欠損
22	477	打製石鏃	SI-53	流紋岩	3.25	1.95	0.6	2.6	
23	474	尖頭器?	SI-53	チャート	3.5	3.45	1.7	15.8	
41	491	打製石鏃	SI-67	チャート	1.25	1.6	0.4	0.7	
44	486	打製石鏃	SC-8	チャート	2.5	1.5	0.39	1.1	
35	488	石錐	SC-6	黒曜石(桑ノ木津留)	2.3	1	0.4	0.8	
47	484	打製石鏃	SC-9	チャート	2.35	1.5	0.35	0.9	脚部欠損
58	476	打製石鏃	SC-13	黒曜石(腰岳)	2.25	1.7	0.5	1	脚部欠損、先端部欠損後再加工痕跡有
61	487	石核	SI-51	チャート	3.1	1.8	1.5	6.6	
65	489	打製石鏃	SI-52	チャート	2.3	1.75	0.55	1.4	脚部欠損
66	490	石錐	SI-52	チャート	2.3	2	0.6	2.4	
67	504	石核	SI-52	黒曜石(針尾)	2.75	2.85	1.7	8.6	
71	478	打製石鏃	SX-1	チャート	2.35	1.7	0.5	1.4	脚部欠損



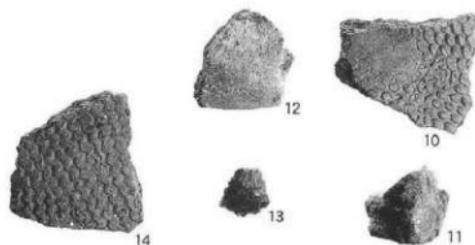
図版 23 SI-27 出土遺物



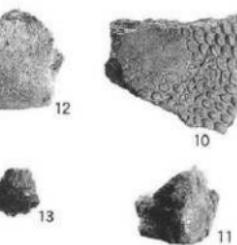
図版 25 SI-29 出土遺物



図版 24 SI-28 出土遺物



図版 27 SI-31 出土遺物



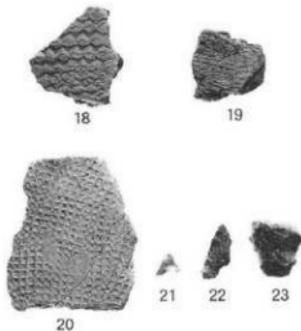
図版 26 SI-30 出土遺物



図版 28 SI-53 出土遺物



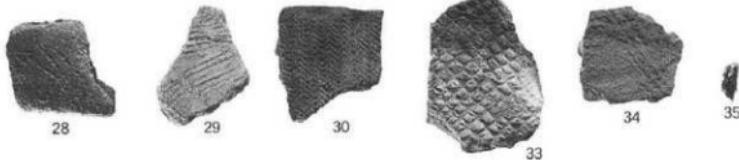
図版 29 SI-54 出土遺物



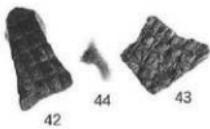
図版 30 SC-3 出土遺物

図版 28 SI-53 出土遺物

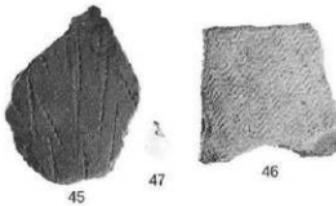
図版 32 SC-7 出土遺物



図版 31 SC-6 出土遺物



图版 35 SC-8 出土遗物



图版 36 SC-8 出土遗物

图版 34 SI-67 出土遗物



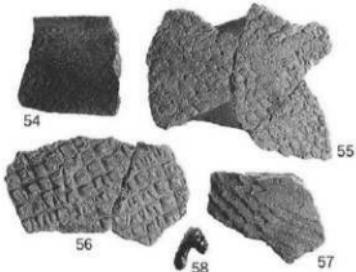
图版 37 SC-10 出土遗物



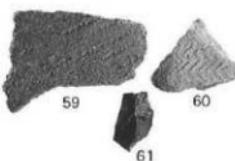
图版 38 SC-1 出土遗物



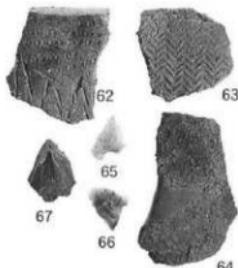
图版 39 SC-12 出土遗物



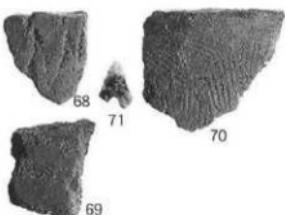
图版 40 SC-13 出土遗物



图版 41 SI-51 出土遗物



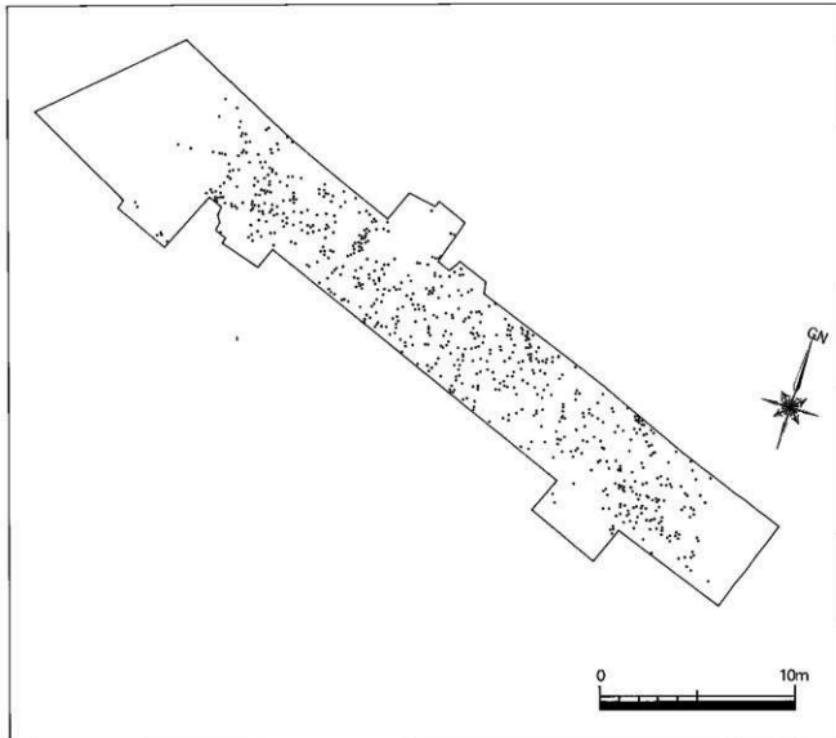
图版 42 SI-52 出土遗物



图版 43 SX-1 出土遗物



图版 44 SX-2 出土遗物



第26図 B区縄文時代早期包含層遺物分布図 (S = 1/250)

第2節 包含層出土遺物

今回の調査では7層中位から8層下位にかけて約700点の遺物が出土した。これらの遺物はそのほとんどが縄文時代早期中葉から早期後葉のもので、土器や土製品及び石器に分かれる。

1. 土 器

土器については、下剥峯式土器や桑ノ丸式土器などの貝殻文系土器と押型文土器及び塞ノ神式土器の3土器群に大別できる。貝殻文系土器と判断した土器は88点で、そのうち19点を今回資料化している。押型文土器と判断した土器は本調査区で最も多い210点で、今回はそのうち32点を資料化している。又、塞ノ神式土器と判断した土器については、100点のうち14点を資料化している。

貝殻文系土器

1～19は貝殻文系土器である。1はやや外反する口縁部で2は胸部であるが、ともに斜位の貝殻条痕

文が施されている。ただし、器形的特徴は不明である。3は口縁部付近に横位の貝殻刺突文を施し、胴部には縦位の同文様を施している。4は貝殻押引文と貝殻刺突文が施されている。5～8は貝殻刺突文が施されているが、5には口縁部付近に穿孔がみられる。9・10は5～8同様貝殻刺突文が施されているが、それに加えハの字状の短沈線文が施されている。11から14は短沈線文が施されているが、施文パターンは5～8のものとよく似ている。15～19は貝殻条痕文が施されており、施文パターンは流水文や羽状文などがみられる。尚、19については、放射性炭素年代測定により 8400 ± 40 年 BP という結果が得られている。

押型文土器

20～51は押型文土器である。山形押型文、楕円押型文、格子目押型文の3種に分けられる。

20～34は山形押型文土器である。20～28は口縁部で、いずれもほとんど外反せずに直行している。施文方向については、20～27はいずれも横位で口唇部から胴部にかけて施文されているが、27は口唇部から2cm程のところから施文されている。又、28は外面が縦位に内面が横位に施文されている。29～33は胴部で、29～31は横位に施文されているが、32は斜位に施文されている。又、33は内外面に横位に施文されている。34は平底の底部であり、若干残存している胴部に横位の施文がみられる。

35～46は楕円押型文土器である。35～40については、35～39が横位で40が縦横位混在で施文されており、いずれも3mm程度の小粒の楕円である。41については、35～40と比較するとやや大きめの楕円が斜位に施文されている。又、42～44については、ソロバン珠状の文様が斜位に施文されており、口縁部である42・43の内面には平たい棒状工具による沈線もみられる。45・46についてはいずれも明瞭な楕円文ではないが、今回は両土器片とも楕円押型文として取り扱っている。

47～51は格子目押型文土器である。47は口縁部で、口唇部から3cm程のところから施文されている。48～51はいずれも胴部で、文様は47も含めてよく似ている。

塞ノ神式土器

52～65は塞ノ神式土器である。53・54は、細かい刻みを施した微隆帯を貼り付けた胴部であるが器形は不明である。55については、細い棒状工具による沈線が施されており壺の胴部だと推測される。55～60については、円筒形の胴部に付くラッパ状に開く口縁部で、施文的特徴については棒状工具による沈線文が施されている。又、55～59については、いずれも口唇部に刻み目が施されている。61・62は胴部から口縁部への屈曲部であり、61には沈線文が62には沈線文と撲糸文が施されている。又63・64は胴部であり、63には沈線文と撲糸文が64には沈線文が施されている。65については、文様がやや不明瞭な状況ではあるが、貝殻による刺突文が施されているのではないかと推測される。

その他

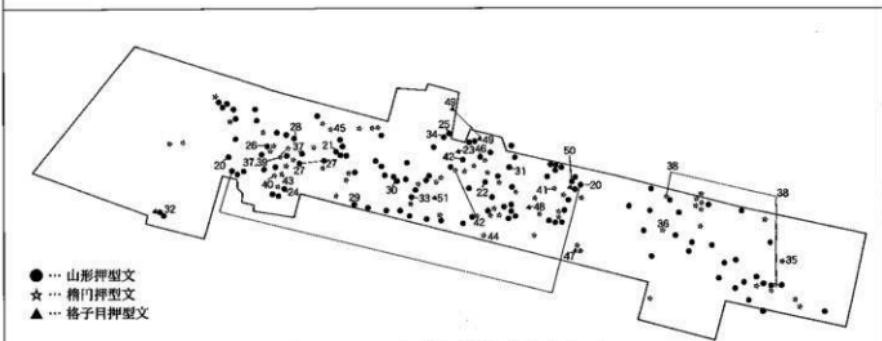
今回は分類が困難な土器片を4点資料化している。そのなかでも69については、網代の痕跡がみられる底部で、白色の付着物も確認できる。

2. 土製品

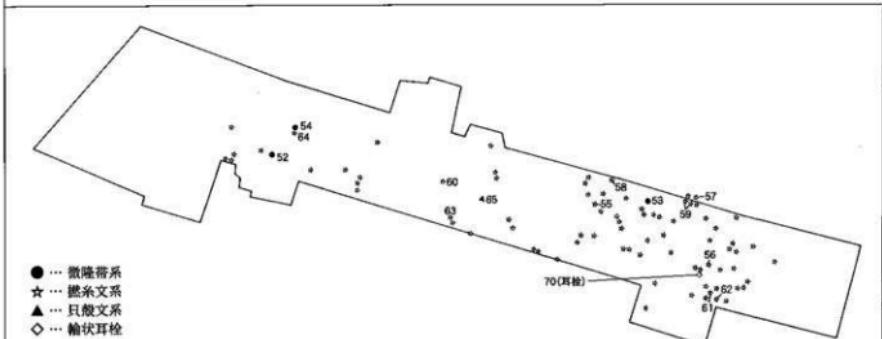
土製品については、輪状耳栓の一部が1点のみ出土している(70)。サイズは上部径が5.4cm(残存状態から下部径、高さは不明)で、又、内外面には丹と思われる赤色顔料が塗られている。



第27図 B区貝殻文系土器分布図 (1/250)

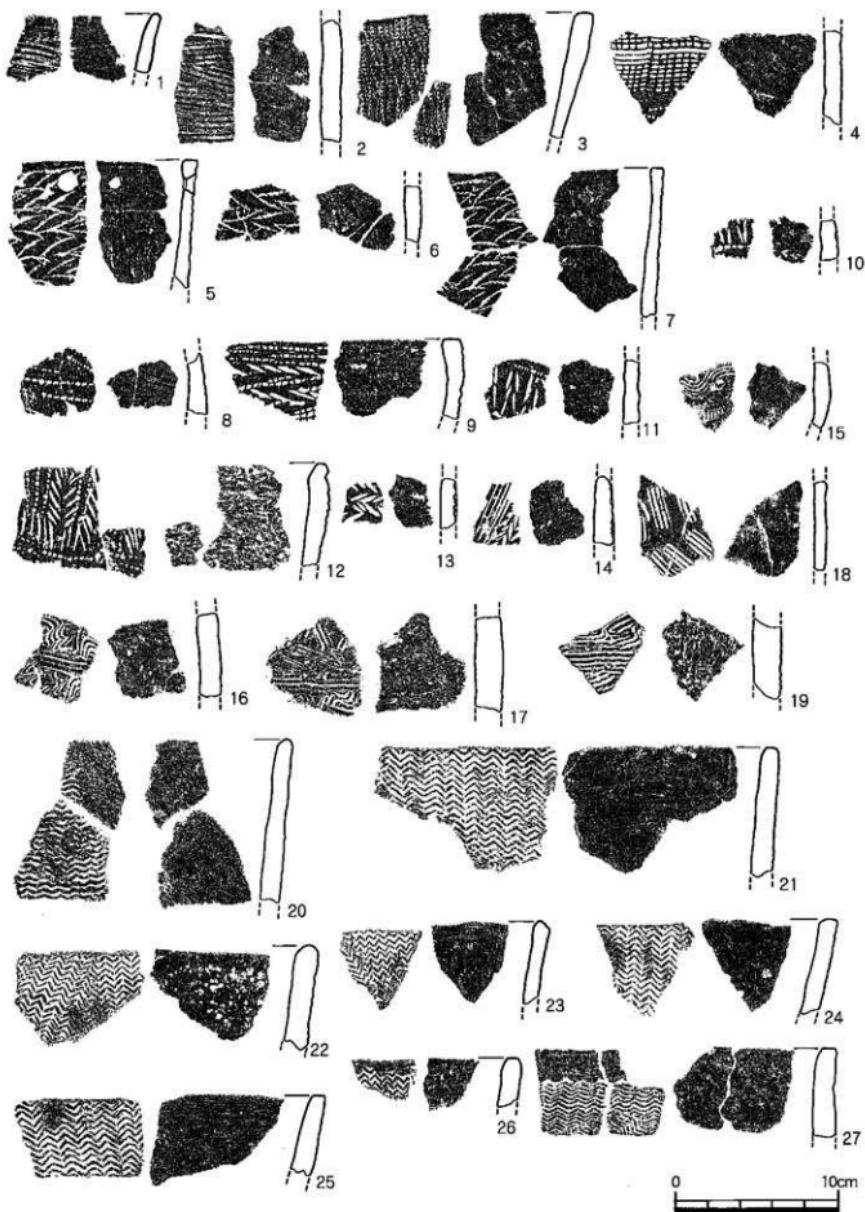


第28図 B区押型文土器分布図 (1/250)

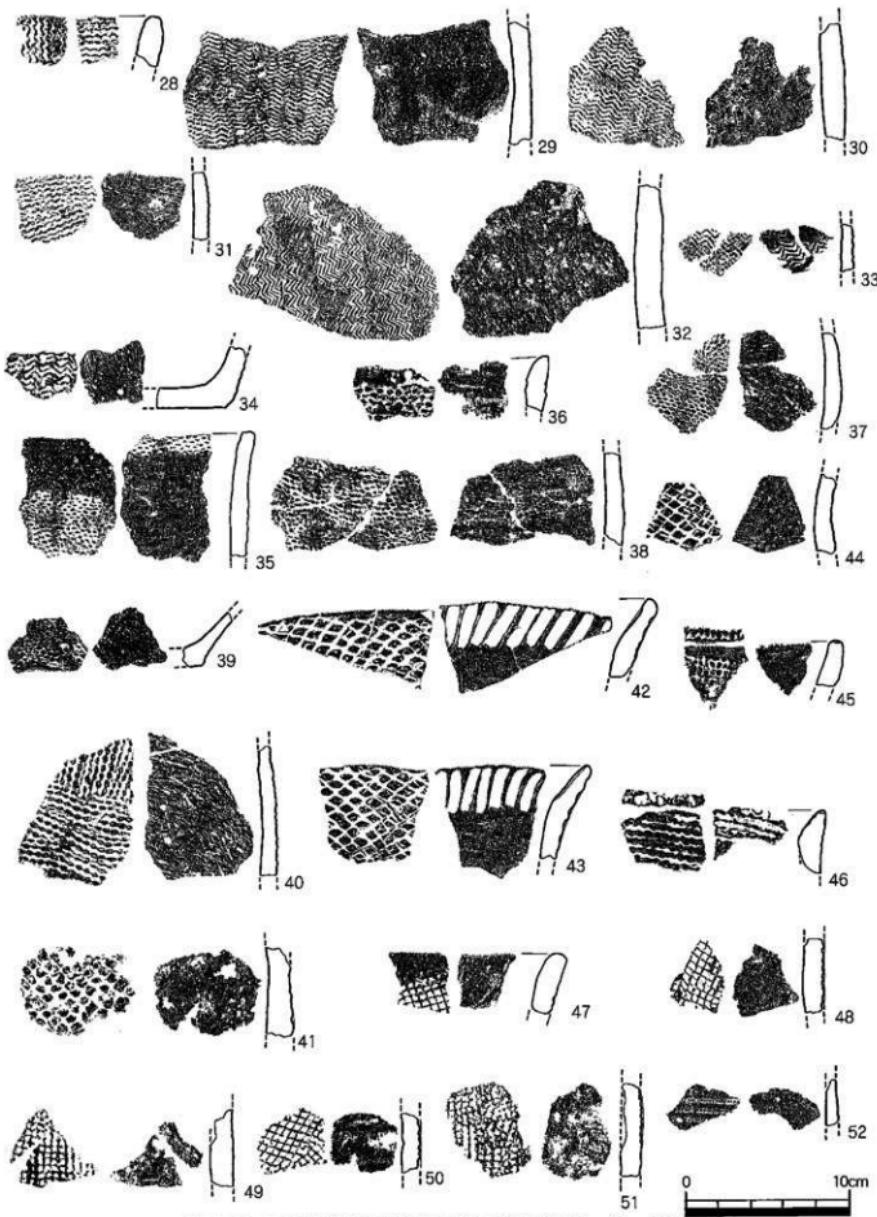


第29図 B区貝ノ神式土器・輪状耳栓分布図 (1/250)

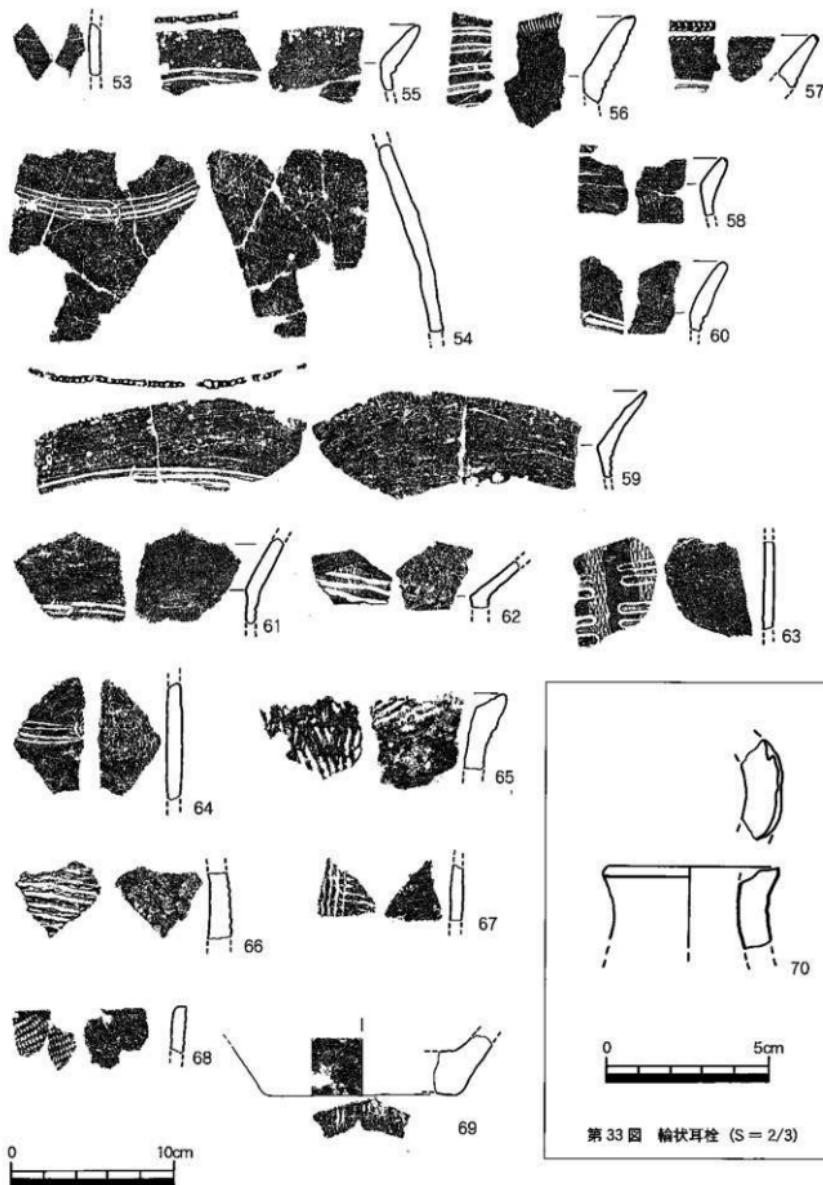




第30図 B区縄文時代早期包含層出土土器実測図① (S=1/3)



第31図 B区縄文時代早期包含層出土土器実測図② (S=1/3)



第 32 図 B 区縄文時代早期包含層出土土器実測図③ (S = 1/3)

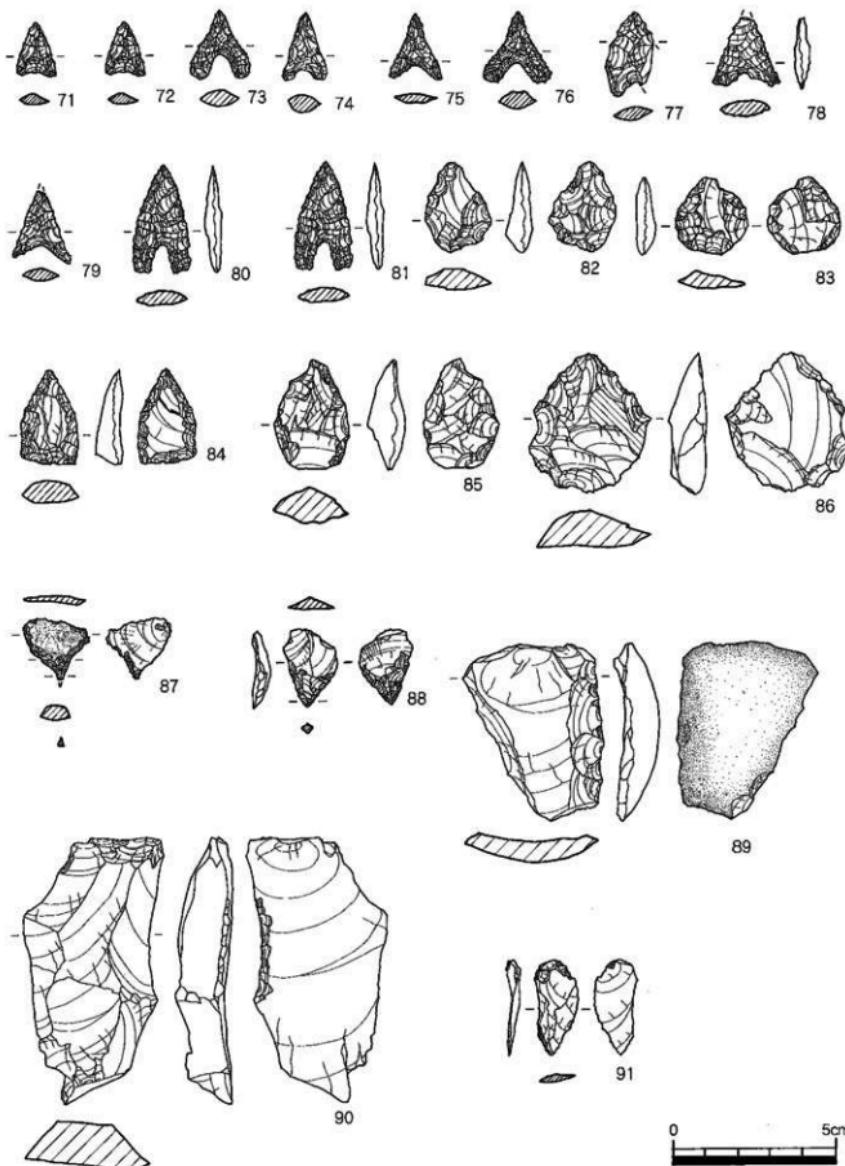
第5表 B区包含出土七七器觀察表

遺物 No	出土 層位	部位	文様及び調査		色		調		胎		備 考	遺物 整理 No
			外向	内面	外向	内面	石英	長石	カリシ	砂粒		
1	VII層	口縁	貝殻条文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄	7.5YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	2mm以下	435
2	VII層	胴部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	2mm以下	269
3	VII層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR8/4 にぶい黄	2.5Y5/2 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	265
4	VII層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	282
5	VII層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄	2.5Y4/1 灰黄	○	○	○	○	1mm以下 穿孔あり	31
6	VII層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	2.5Y4/2 灰黄	○	○	○	○	2mm以下	290
7	VII層	口縁	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/2 灰黄	○	○	○	○	2mm以下	284
8	VII層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/2 灰黄	○	○	○	○	3mm以下	286
9	VII層	口縁	貝殻刺突文 蛇紋文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	2.5Y5/2 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	281
10	VII層	胴部	貝殻刺突文 蛇紋文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	289
11	VII層	胴部	貝殻刺突文 蛇紋文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	283
12	VII層	口縁	貝殻刺突文 蛇紋文	ナデ	10YR5/2 灰黄	2.5Y4/2 灰黄	○	○	○	○	3mm以下 C15グリッドの土蘚片と接合	294
13	VII層	胴部	沈維文	ナデ	10YR5/2 灰黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	2mm以下	292
14	VII層	胴部	沈維文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	291
15	VII層	胴部	貝殻条文 貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	10YR5/2 灰黄	○	○	○	○	2mm以下	295
16	VII層	胴部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	296
17	VII層	胴部	貝殻条文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	2mm以下	298
18	VII層	胴部	貝殻条文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	6mm以下	299
19	VII層	胴部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	10YR3/1 黒	○	○	○	○	2mm以下 放射性炭素年代測定 8400 ± 40 BP	471
20	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	2.5Y4/1 灰黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	339
21	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	340
22	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	7mm以下	342
23	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	7.5YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	8mm以下	343
24	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい黄	7.5YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	6mm以下	344
25	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	345
26	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	7.5YR3/1 黒	○	○	○	○	2mm以下	360
27	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	346
28	VII層	口縁	山形押型文	ナデ	7.5YR4/3 黒	7.5YR4/6 黒	○	○	○	○	3mm以下	361
29	VII層	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	○	○	○	○	6mm以下	341
30	VII層	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄	○	○	○	○	7mm以下	371
31	VII層	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR4/3 にぶい黄	○	○	○	○	3mm以下	372
32	VII層	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4 にぶい黄	5YR5/4 にぶい黄	○	○	○	○	6mm以下	366
33	VII層	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR4/3 黒	7.5YR4/2 灰	○	○	○	○	2mm以下	368
34	VII層	底部	山形押型文	ナデ	2.5Y5/2 灰	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	5mm以下	363
35	VII層	口縁	横円押型文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	30
36	VII層	口縁	横円押型文	ナデ	10YR4/2 灰	10YR4/2 灰	○	○	○	○	5mm以下	355
37	VII層	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄	7.5YR4/2 灰	○	○	○	○	3mm以下	363
38	VII層	胴部	横円押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄	7.5YR4/2 灰	○	○	○	○	4mm以下	349
39	VII層	底部	横円押型文	ナデ	7.5YR6/3 黒	10YR4/2 灰	○	○	○	○	3mm以下	362
40	VII層	胴部	横円押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄	10YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	4mm以下	348
41	VII層	胴部	横円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄	7.5YR5/3 にぶい黄	○	○	○	○	7mm以下	350

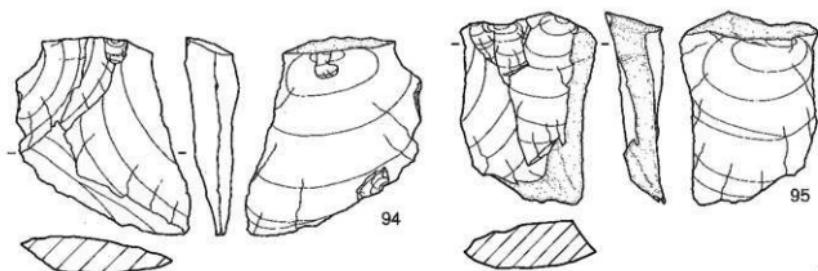
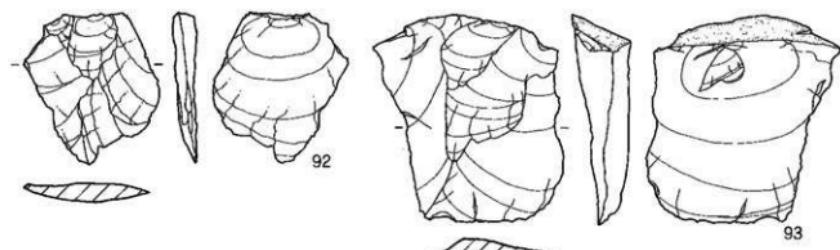
遺物 No	出土 位置	部位	文様及び測定		色	側	胎			土	備考	遺物 部屋 No	
			外面	内面			外側	内側	石英	長石	カリ	矽	
42	VII層	口縫	横円押型文	沈線文ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○			○	3mm以下	338
43	VII層	口縫	横円押型文	沈線文ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○			○	2mm以下	361
44	VII層	胸部	横円押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄褐色	○	○			○	3mm以下	364
45	VII層	口縫	横円押型文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○		○	4mm以下	429
46	VII層	口縫	横円押型文	横円押型文	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	○	○	○	○	○	5mm以下	357
47	VII層	口縫	格子目押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	5mm以下	352
48	VII層	胸部	格子目押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	5mm以下	364
49	VII層	胸部	格子目押型文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐色	2.5Y5/2 純灰褐色	○	○			○	3mm以下	365
50	VII層	胸部	格子目押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR3/2 灰褐色	○	○			○	3mm以下	367
51	VII層	胸部	格子目押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	6mm以下	368
52	VII層	胸部	敷陶器	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	3mm以下	312
53	VII層	胸部	敷陶器	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	317
54	VII層	胸部(底)	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○			○	2mm以下	310
55	VII層	口縫	沈線文	ナデ	5YR6/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	1mm以下	324
56	VII層	口縫	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○				○	1mm以下	333
57	VII層	口縫	沈線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○		○	3mm以下	331
58	VII層	口縫	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	2.5Y5/2 にぶい黄褐色	○	○			○	1mm以下	335
59	VII層	口縫	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰褐色	5YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	336
60	VII層	口縫	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○			○	2mm以下	334
61	VII層	頭部	沈線文	ナデ	7.5YR4/3 無	5YR5/4 にぶい黄褐色	○		○	○	○	2mm以下	311
62	VII層	頭部	沈線文 糸糸文	ナデ	10YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○			○	4mm以下	316
63	VII層	胸部	沈線文 糸糸文	ナデ	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○				○	3mm以下	32
64	VII層	胸部	沈線文	ナデ	5YR5/6 無	7.5YR5/4 にぶい褐色	○				○	1mm以下	307
65	VII層	口縫	貝殻刺突	ナデ	5YR4/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰褐色	○	○			○	3mm以下	320
66	VII層	胸部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○	○	○	○	5mm以下	423
67	VII層	頭部	沈線文	ナデ	7.5YR4/3 無	10YR4/2 灰褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	421
68	VII層	口縫	糸文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	425
69	VII層	底部	ナデ網代	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR4/2 灰褐色	○	○	○	○	○	2mm以下	428

3. 石 器

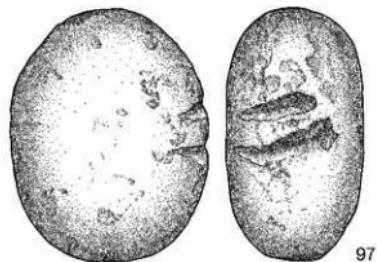
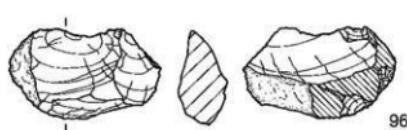
71～81は打製石鎌で、82～85はその未製品である。B区においては未製品・欠損品を含め総数41点の打製石鎌が出土している。石材はチャート・黒曜石がほとんどを占める。長さは2cmを超える、抉りがはっきりとしているものがほとんどである。73・76はいわゆる鉢形鎌である。86は尖頭状石器の未製品である。頁岩製の不定形な横長剥片を使用する。87・88は石錐である。87は背面に自然面を多く残す。いずれとも黒曜石製で剥片の形状を多く残し、一部に加工を施すことにより、錐部を作り出している。89は石核を転用したスクレイバーである。背面の右側縁に刃部を作り出し、裏面に自然面を残す。90・91は2次加工ある剥片である。90は腹面の右側縁中央部に細かい加工を施す。91は剥片の下端部に加工を施して、下端部を尖らせている。92～95は剥片である。92は尾鈴山酸性岩、93は頁岩、94・95は砂岩を使用する。93～95は打面部に自然面を残す。大型の剥片は砂岩製のものが多い。96はチャート製の石核である。97・98は砂岩製の敲石である。97は右側面に二条の溝状の痕跡が確認される。98は中央部及び端部に使用痕が確認される。



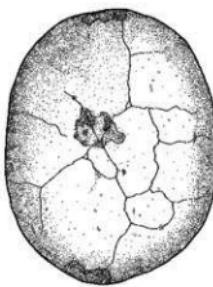
第34図 B区縄文時代早期包含層出土石器実測図① (S = 2/3)



0 5cm



97



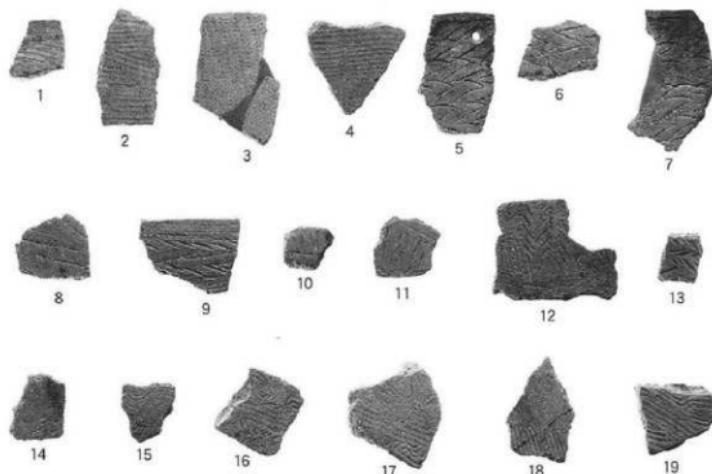
98

0 10cm

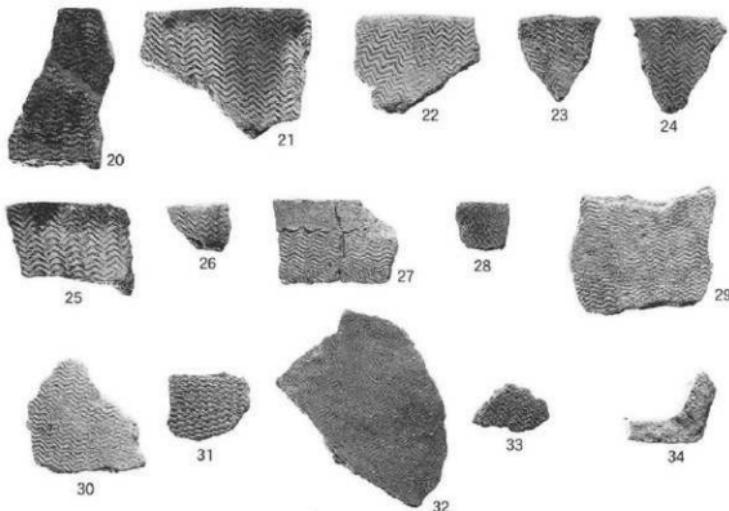
第35図 B区縄文時代早期包含層出土石器実測図② (S = 1/2・S = 2/3)

第6表 B区網文時代早期包含層出土石器計測分類表

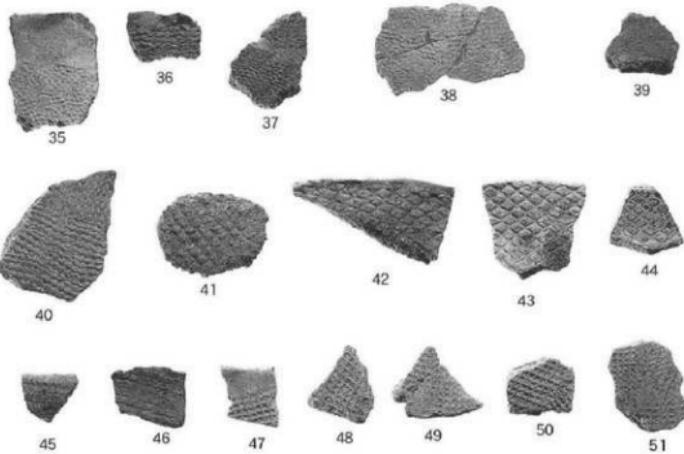
遺物 No	整理 No	器種	出土 場所	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
71	237	打製石鏟	B10	VII	砂岩	1.7	1.2	0.35	0.5	
72	436	打製石鏟	B10	VII	チャート	2.1	1.4	0.35	0.7	
73	400	打製石鏟	B10	VII	黒曜石(腰岳)	2.15	1.8	0.5	0.8	
74	439	打製石鏟	B10	VII	チャート	2.15	1.4	0.6	1.0	
75	386	打製石鏟	B6	VII	サヌカイト	2.1	1.65	0.3	0.5	
76	416	打製石鏟	B	VII	チャート	2.2	2.15	0.55	1.3	
77	228	打製石鏟	B12	VII	チャート	2.6	1.5	0.45	1.6	脚部欠損
78	42	打製石鏟	B10	VII	黒曜石(姫島)	2.1	2.1	0.5	1.3	
79	418	打製石鏟	B 9	VII	黒曜石(姫島)	2.25	1.8	0.4	0.7	
80	10	打製石鏟	B10	VII	黒曜石(針尾)	2.85	2.55	0.5	2.3	
81	46	打製石鏟	B10	VII	黒曜石(針尾)	3.35	1.7	0.5	1.9	
82	210	打製石鏟未製品	B10	VII	頁岩	2.8	2	0.8	3.7	
83	222	打製石鏟未製品	B10	VII	流紋岩	2.4	2.1	0.5	2.6	
84	204	打製石鏟未製品	B10	VII	流紋岩	2.9	1.8	0.8	3.6	
85	225	打製石鏟未製品	B11	VII	流紋岩	3.4	2.3	1.1	7.1	
86	223	尖頭状石器未製品	B	VII	頁岩	4.3	3.8	1.2	17.8	
87	444	石錐	B11	VII	黒曜石(腰岳)	1.9	2.1	0.5	1.2	
88	208	石錐	B2	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	2.4	1.7	0.55	1.2	
89	191	スクレイパー	B12	VII	頁岩	5.45	4.35	1.3	26.3	右核の転用品
90	128	2次加工ある剥片	B10	VII	頁岩	8.3	4.35	1.8	49.1	
91	201	2次加工ある剥片	B10	VII	チャート	2.45	1.25	3.5	0.9	
92	193	剥片	B10	VII	尾鈴山酸性岩	4.7	4.2	0.8	11.0	
93	127	剥片	B10	VII	頁岩	6.45	6	1.1	56.6	
94	199	剥片	B10	VII	砂岩	6.1	5.5	1.65	39.1	
95	196	剥片	B10	VII	砂岩	5.95	4.25	1.9	39.2	
96	445	石核	B10	VII	チャート	2.8	4.7	1.5	18.9	
97	454	敲石	B11	VII	砂岩	10.4	8.1	5.6	659.6	側面部に2条の溝がある
98	456	敲石(凹み石)	B11	VII	砂岩	11.3	8.6	6.3	813.1	



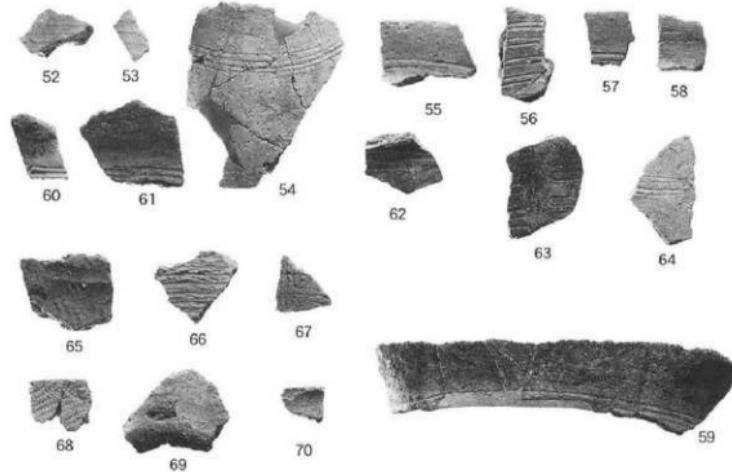
図版 45 B 区縄文時代早期包含層出土土器①



図版 46 B 区縄文時代早期包含層出土土器②



図版 45 B 区縄文時代早期包含層出土土器①



図版 48 B 区縄文時代早期包含層出土土器④



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88

図版 49 B区绳文時代早期包含層出土石器①



95



89



90



93



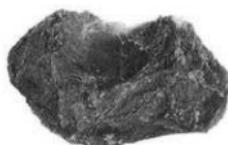
94



92



91



96

図版 50 B 区縄文時代早期包含層出土石器②



97



98

図版 51 B 区縄文時代早期包含層出土石器③

第Ⅲ章 E区における調査

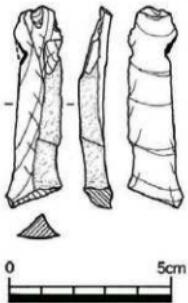
第1節 旧石器時代

1. 旧石器時代遺物包含層の概要

E区における旧石器時代の調査は平坦面に約12m×約10.5mのトレンチと約11m×約7.5mのトレンチを設定し掘り下げを行ったところ（調査面積約210m²）、10層～11層にかけて658点の遺物（石器517点・礫141点：礫群の礫は除く）が検出された。

平面分布を観察すると二つの石器の集中域（Aブロック・Bブロック）が認められる。両ブロックともに接合資料が多数検出された。どの接合資料も1つのブロック内での接合にとどまり、この二つのブロックを結びつける資料は認められなかった。

旧石器時代の遺物包含層の厚みは約90cmを測る。10層の遺物と11層の遺物が接合するという状況も確認されており、また垂直分布の様相からも各層位ごとに出土遺物を分別できる根拠に乏しいであろう。二つのブロックはほぼ同じレベルから検出されており、これらの間に時期差を感じ取ることは難しいと考えられる。



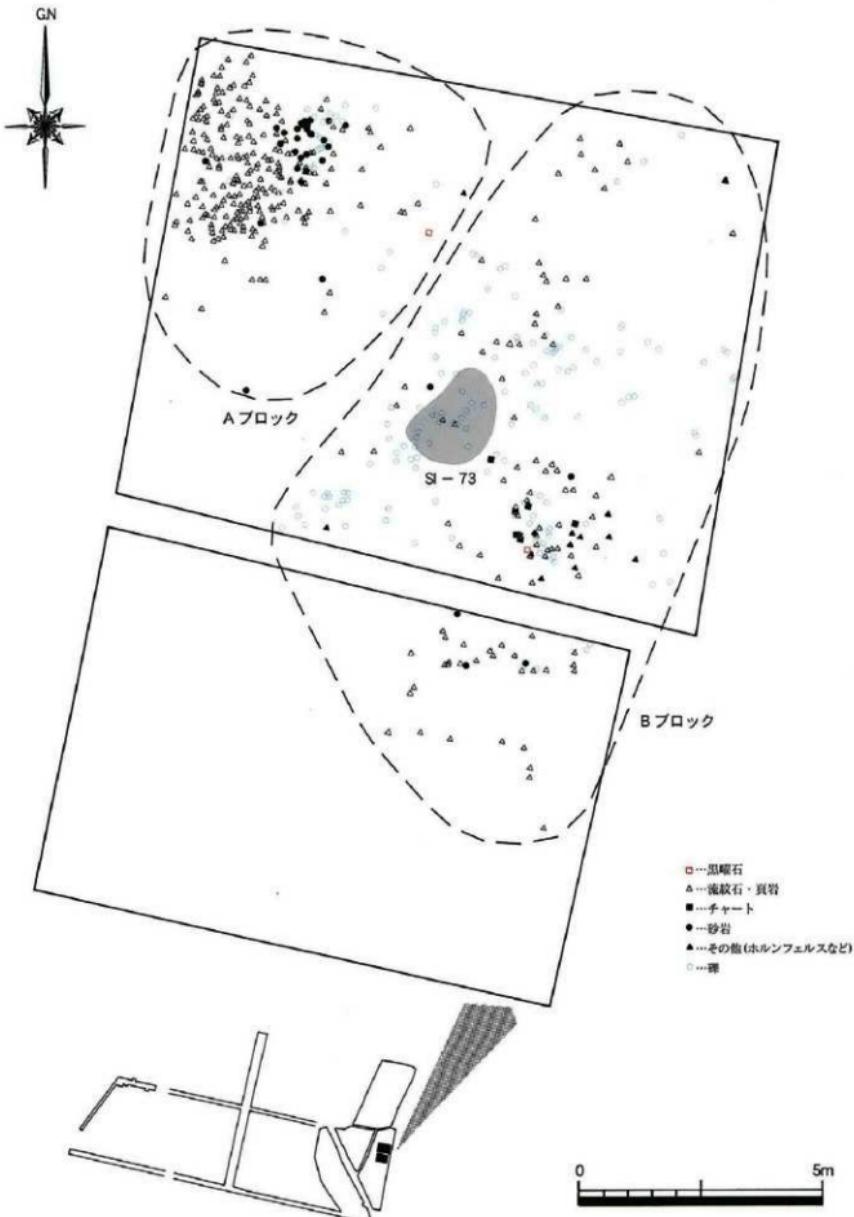
第36図 SI-73出土遺物 (S = 2/3)



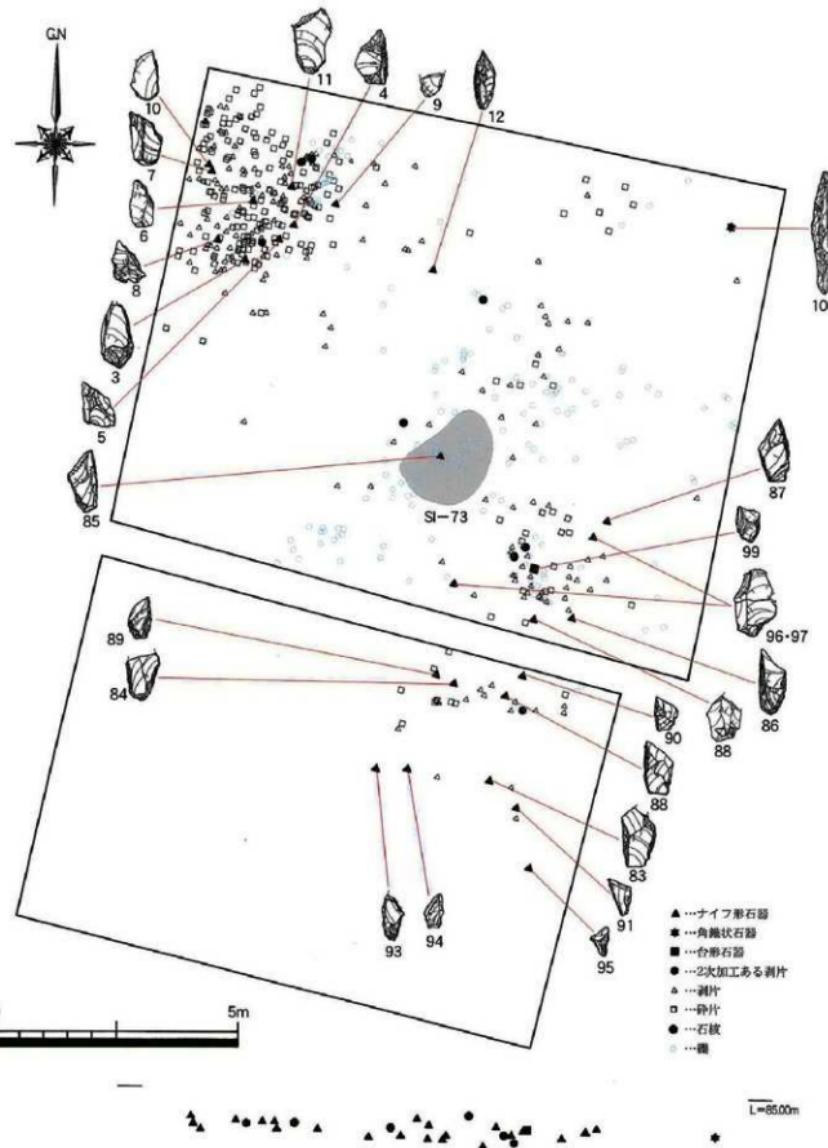
図版 SI-73



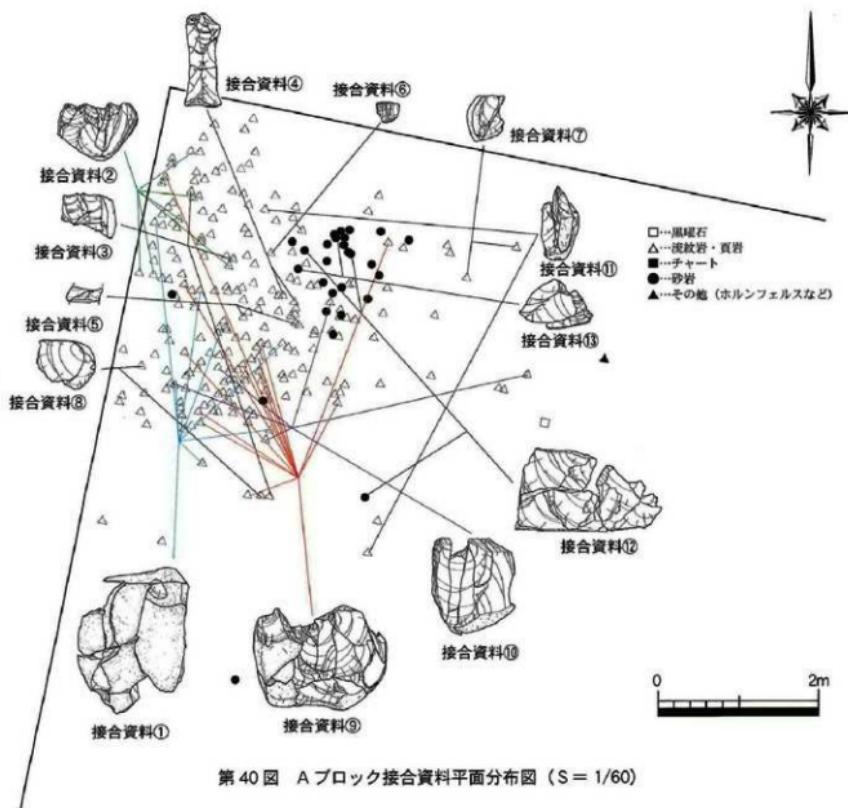
第37図 SI-73実測図 (S = 1/30)



第38図 E区 旧石器時代遺構・遺物分布図【石材別】(S=1/100)



第39図 E区 旧石器時代遺構・遺物分布図【器種別】(S=1/100)



第40図 Aブロック接合資料平面分布図 ($S = 1/60$)

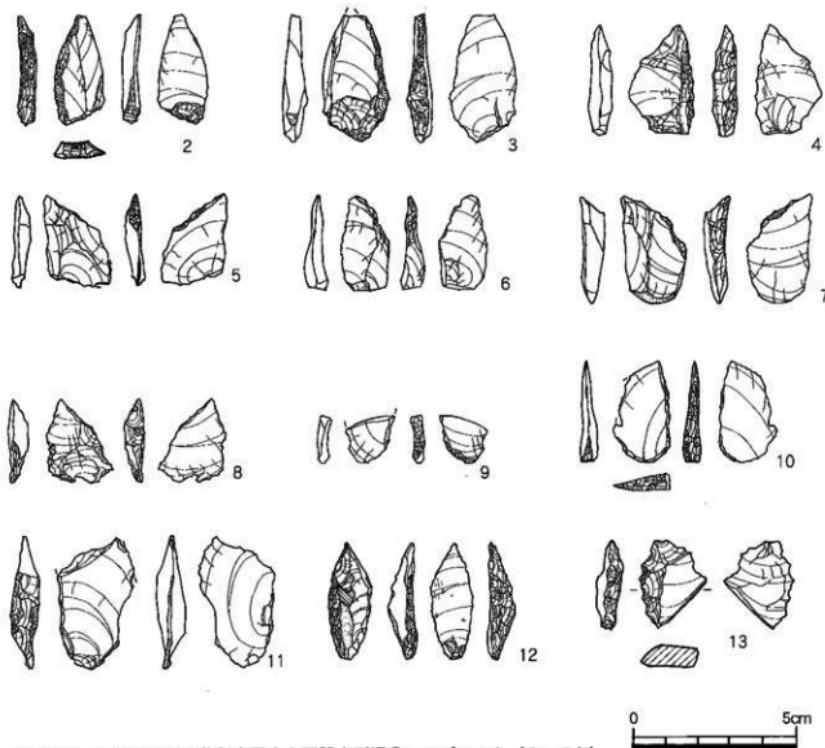
2. 磚群 (SI-73)

設定された旧石器時代の調査区のほぼ中央部より検出された。平面分布を観察するとBブロックの中位に位置している。検出された層は10層下位から11層上部にかけてであり、約2.5m×1.5mの範囲で218個の焼磚の密集が確認された。磚の厚みは約15cmであり、磚の総重量は約52.9kgを量る。

3. Aブロックの様相

Aブロックからは石器273点が出土している。主要な遺物としてはナイフ形石器11点、スクレイバー1点、接合資料13組が挙げられる。Aブロックにおいては石器の出土点数に比べ、磚の出土点数はかなり少なく、ブロックの北側に小規模な集中が見られる。使用石材としては流紋岩・頁岩が最も多くAブロックの全域に分布が見られ、接合資料も11組確認されている。砂岩はブロックの東部付近に集中しており、2組の接合資料が確認されている。他には黒曜石・ホルンフェルスなどが少量使用されている。

ナイフ形石器(2~11)には頁岩・流紋岩・黒曜石が使用されている。二側縁加工・先断型の部分加工などの資料が見られる。詳細はBブロックの資料と共に、まとめの章で後述するため、ここでは主に



第41図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図①：Aブロック (S=2/3)

接合資料について述べる。各々の資料については計測表を参照していただきたい。

13は流紋岩製の縦長剥片を素材とするスクレイパーである。背面の左側縁に腹面側からの加撃により刃部を作り出す。接合資料①と同じ母岩であると考えられる。

接合資料①(14～23)は流紋岩製で剥片7点が接合した。全て自然面を残す剥片の接合資料であり、裏面を除去するための初期段階の剥片剥離工程を示すものであろうか。

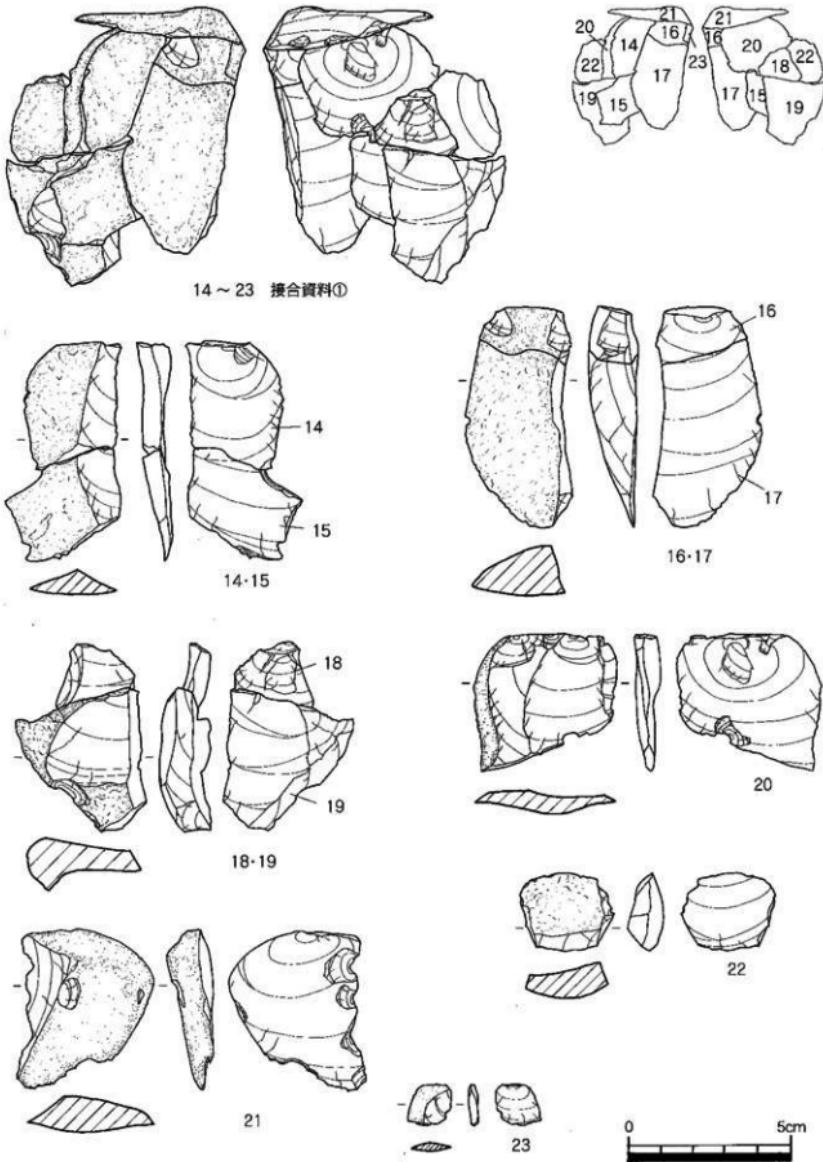
接合資料②(24～29)は流紋岩製で剥片6点が接合した。小型の不定形な縦長剥片を作出するもので、29は作業面再生剥片であろう。29を作出後さらに1枚の剥片(26)を作出している。

接合資料③(30～32)は流紋岩製で小型の不定形な縦長剥片3点が接合した。

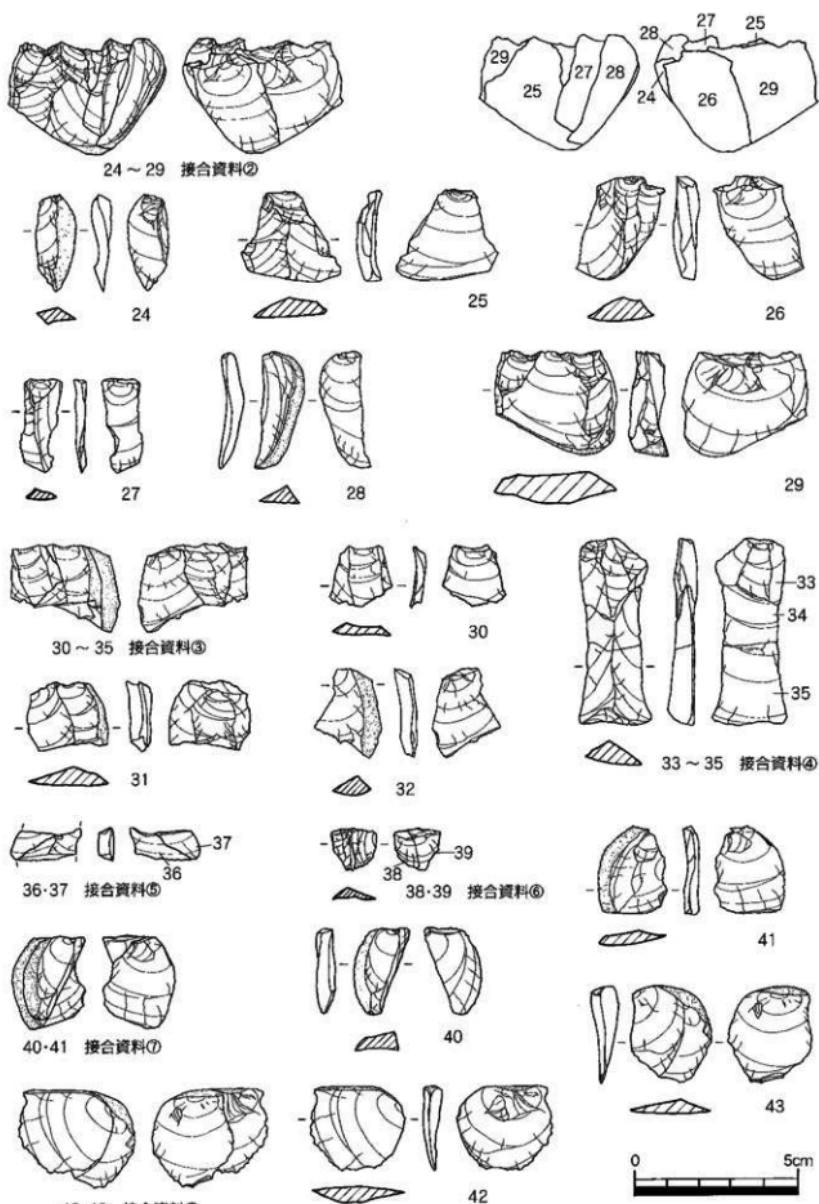
接合資料④(33～35)・⑤(36・37)・⑥(38・39)は接合資料①と同じ母岩であると考えられる。いずれも一枚の剥片又は剥片の一部の折れ面同士が接合したものである。

接合資料⑦(40・41)・⑧(42・43)は頁岩製で剥片2点が接合した。接合資料⑧については分厚い一枚の剥片を石核としてその石核とした剥片の腹面側から剥片剥離を行った資料である。

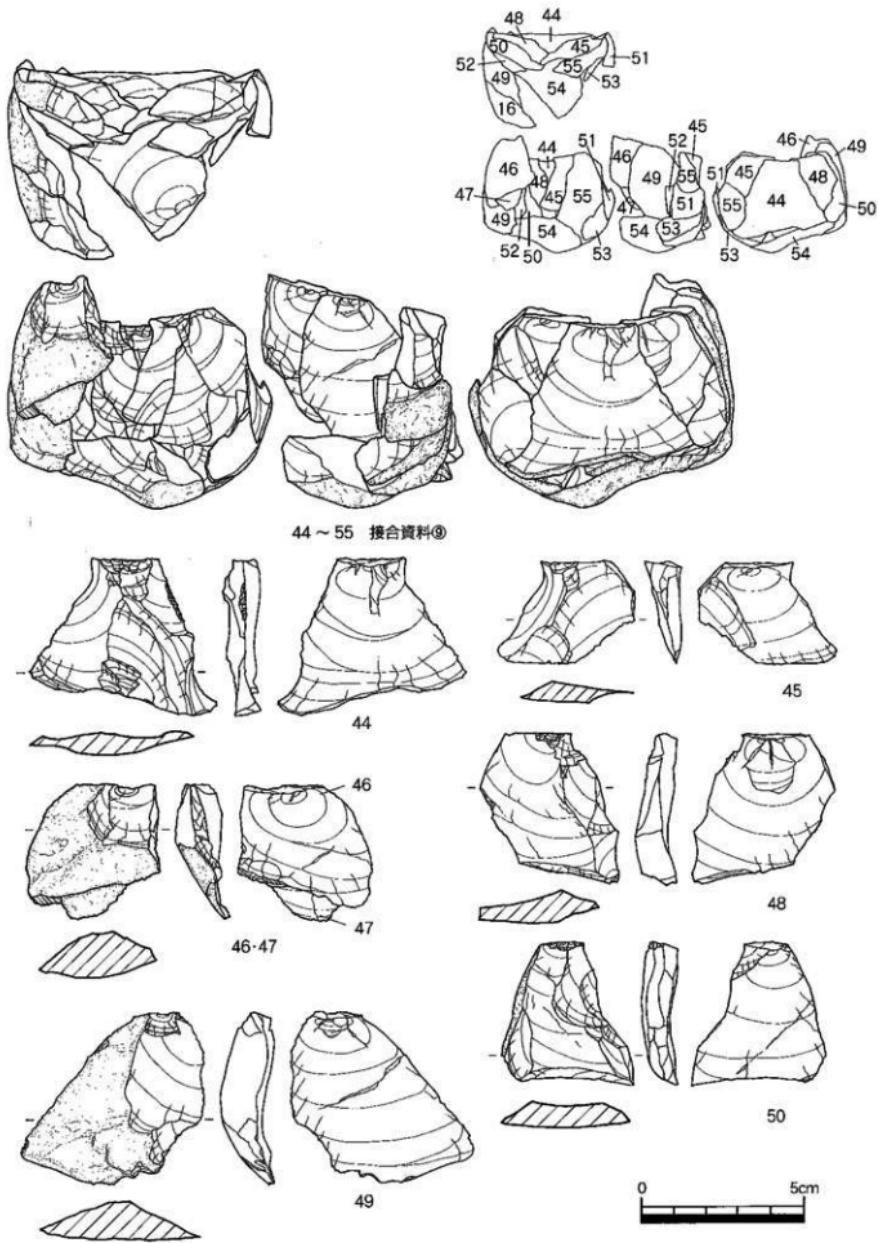
接合資料⑨(44～55)は頁岩製で剥片11点が接合した。良好な接合資料で以下に示すような剥片



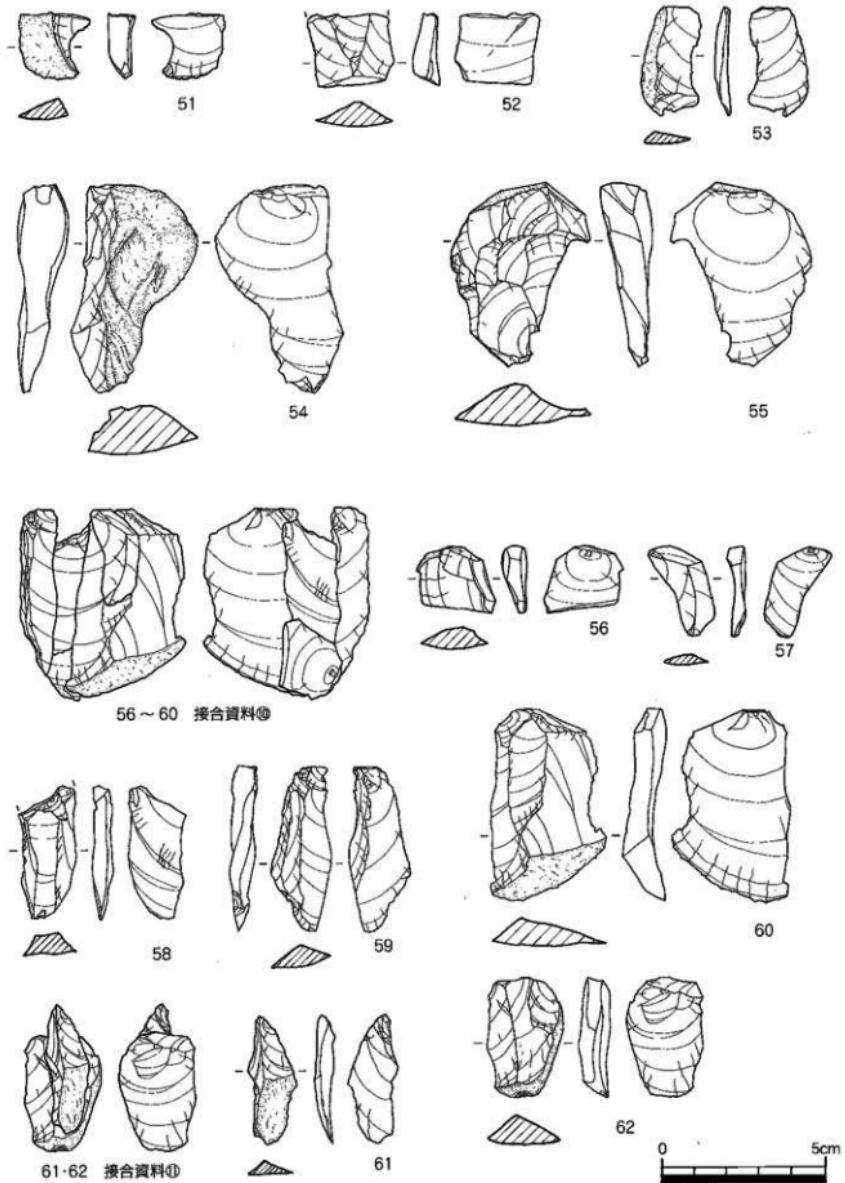
第42図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図②：Aブロック (S = 2/3)



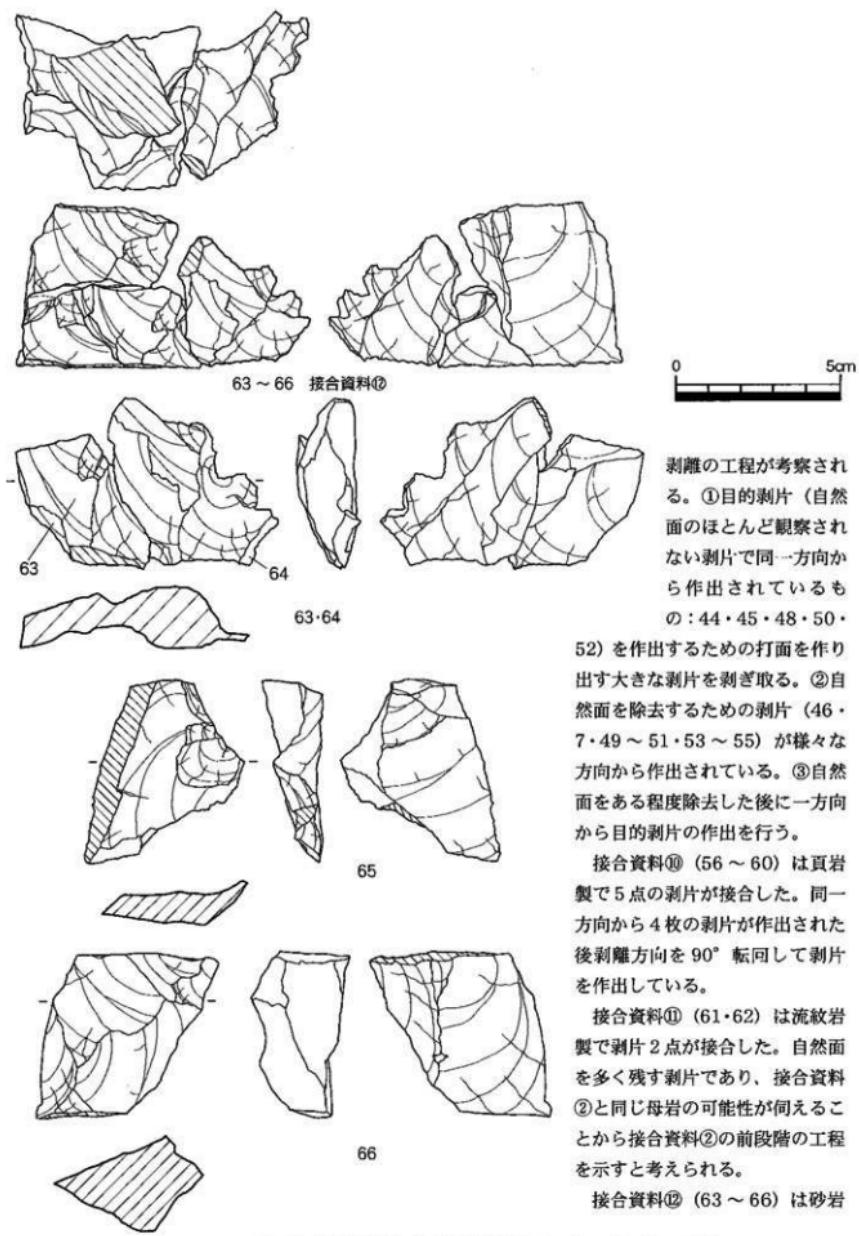
第43図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図③：Aブロック (S = 2/3)



第44図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図④：Aブロック (S=2/3)



第45図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑤：Aブロック (S = 2/3)



第46図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑥：Aブロック ($S = 2/3$)

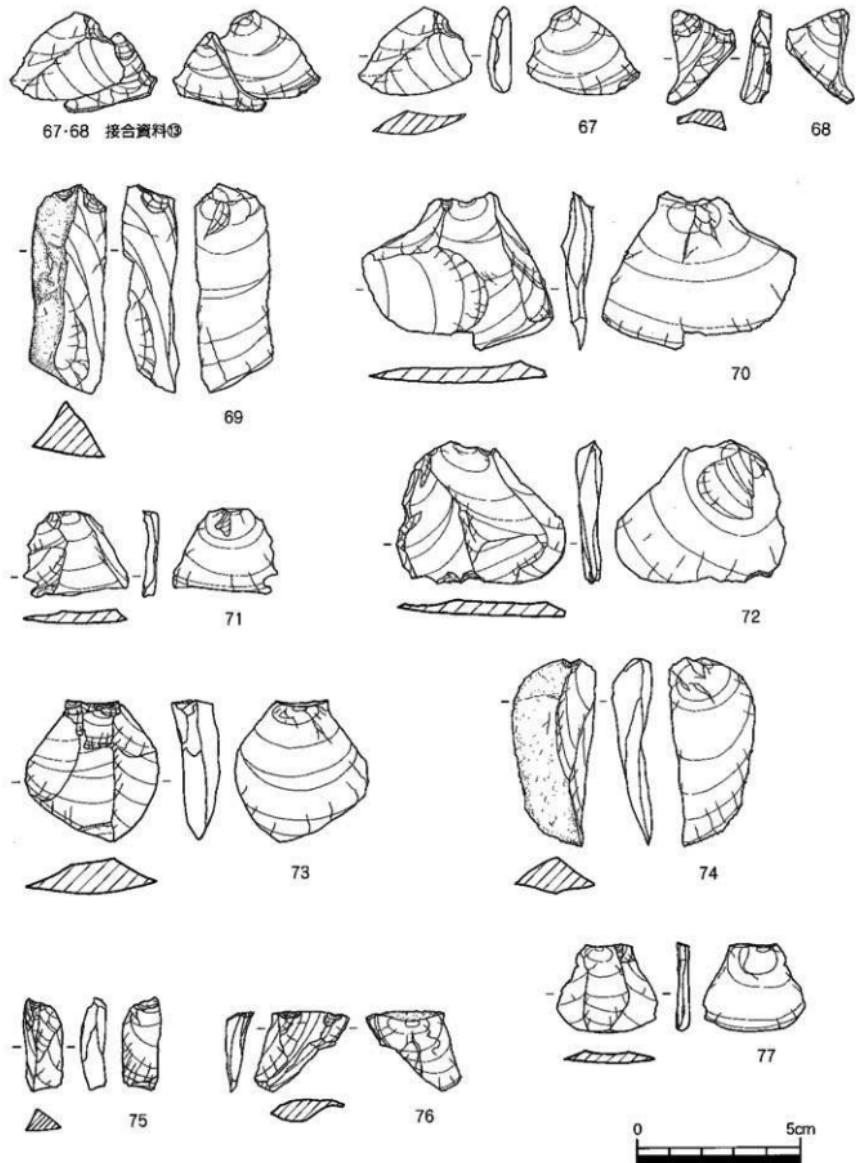
剥離の工程が考察される。①目的剥片（自然面のほとんど観察されない剥片で同一方向から作出されているもの：44・45・48・50・

52）を作出するための打面を作り出す大きな剥片を剥ぎ取る。②自然面を除去するための剥片（46・7・49～51・53～55）が様々な方向から作出されている。③自然面をある程度除去した後に一方向から目的剥片の作出を行う。

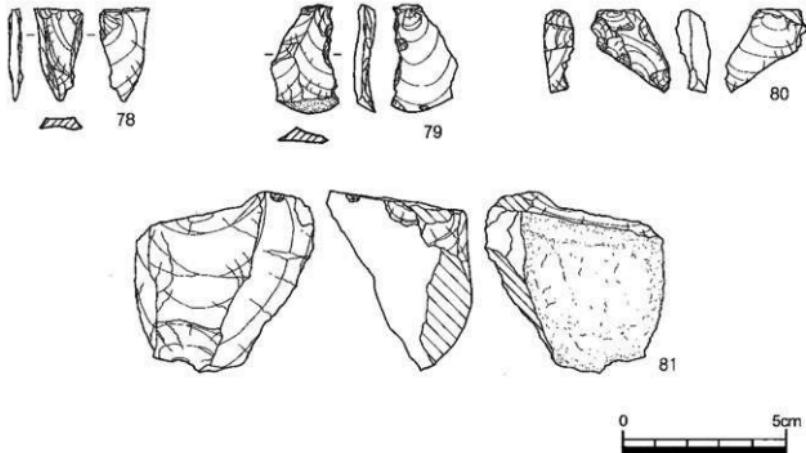
接合資料⑩（56～60）は頁岩製で5点の剥片が接合した。同一方向から4枚の剥片が作出された後剥離方向を90° 転回して剥片を作出している。

接合資料⑪（61・62）は流紋岩製で剥片2点が接合した。自然面を多く残す剥片であり、接合資料②と同じ母岩の可能性が伺えることから接合資料②の前段階の工程を示すと考えられる。

接合資料⑫（63～66）は砂岩



第47図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑦：Aブロック ($S = 2/3$)



第48図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑧：A ブロック (S = 2/3)

製で剥片3枚が接合した。いずれも大ぶりで分厚い不定形な剥片の接合資料である。節理面を打面とする。接合資料⑬(67・68)も砂岩製で小型の不定形な剥片2点が接合した。

4. B ブロックの様相

B ブロックからは126点の石器が検出されている。主な遺物としてはナイフ形石器15点、三稜尖頭器1点、台形様石器1点、接合資料10組が挙げられる。A ブロックと比べると礫群が検出されているためか礫の出土点数が多く、ブロックの全体にその分布が広がる。前述したS I - 73はブロックの中央付近よりやや北西部で検出されている。使用石材には流紋岩・頁岩が最も多く使用され、黒曜石・ホルンフェルスなどが少量使用されていることはA ブロックと同様である。しかし砂岩がほとんど見られず、A ブロックでは使用されなかったチャートがブロックの中央部に集中して検出され、接合資料も1組確認されていることが相違点として挙げられる。

ナイフ形石器(82～97)は頁岩・流紋岩製のもので切り出し型の二側縁加工のものが主体を占める。前述のとおりまとめの章で考察を行う。A ブロックと同様ここでは主に接合資料について述べることとする。各々の資料については計測表を参照していただきたい。

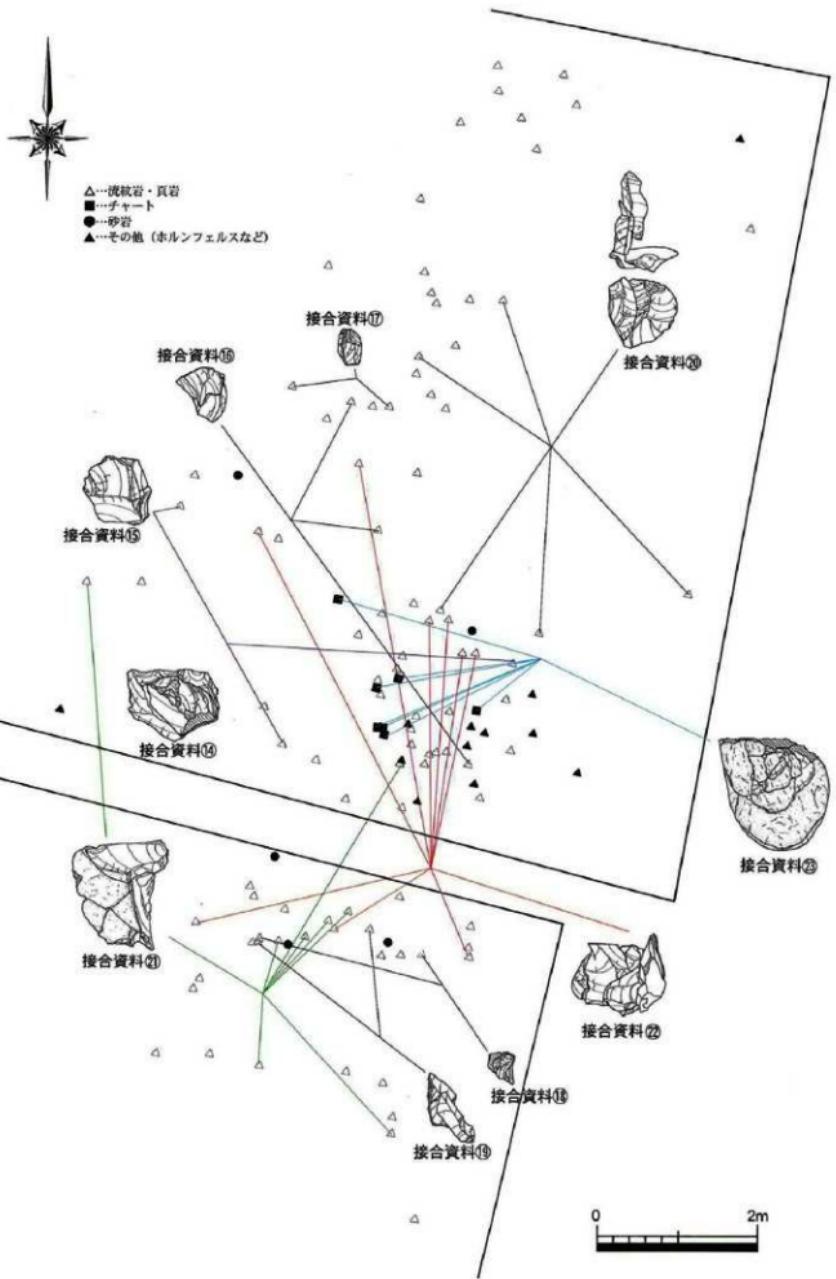
98は台形様石器である。流紋岩の不定形な剥片を使用する。99はホルンフェルス製の三稜尖頭器である。細身の三面加工のもので、B ブロックの北東部にて石器の集中部から離れて出土している。

接合資料⑭(100・101)は流紋岩製で分厚い不定形な2次加工ある剥片1点と石核1点の接合資料である。石核は同一方向からの剥片剥離を行うもので、自然面の平坦な部分を打面とするものである。

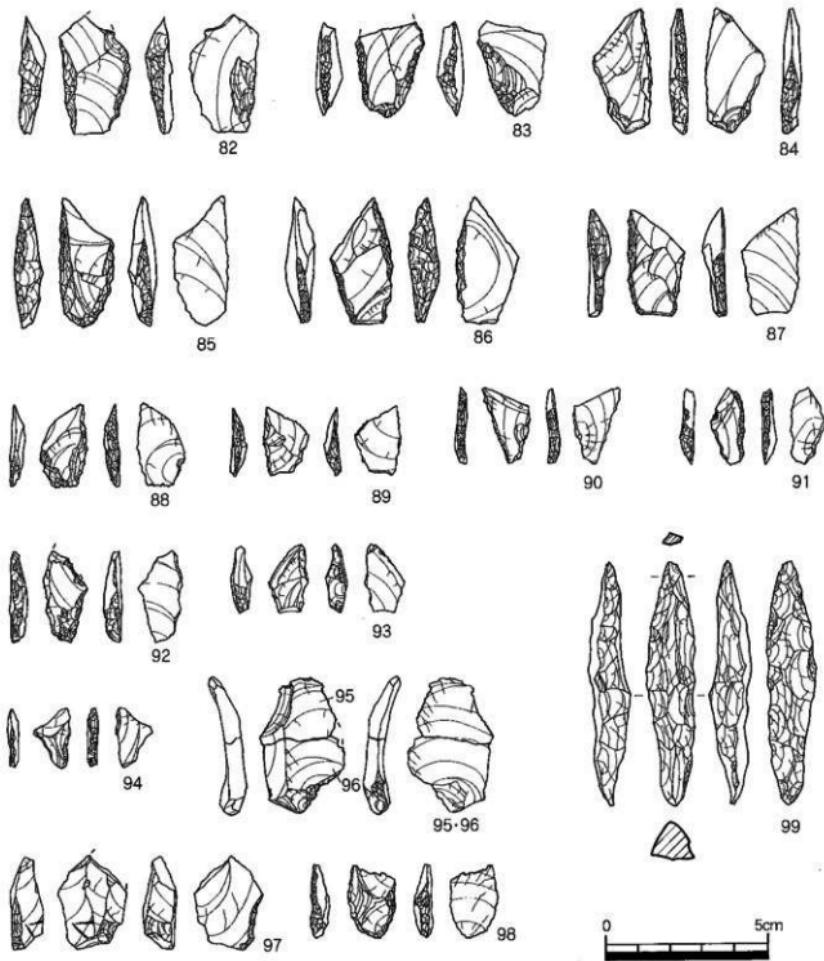
接合資料⑮(95・96・102)は流紋岩製でナイフ形石器1点と剥片1点の接合資料である。

接合資料⑯(103～105)・⑰(108・109)は流紋岩製の不定形な剥片2点の接合資料である。

接合資料⑰(106・107)は流紋岩製で小型の剥片の折れ面同士が接合したものである。



第49図 Bブロック接合資料平面分布図 ($S = 1/60$)

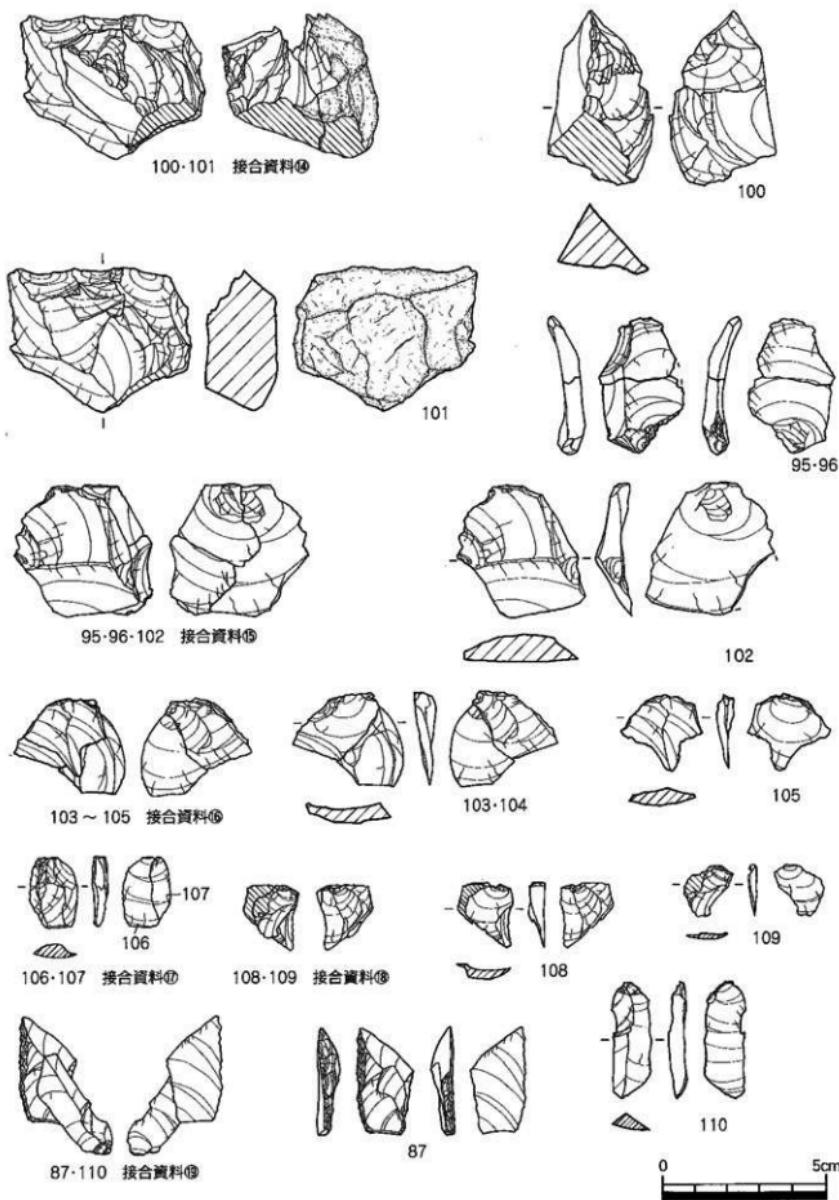


第50図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑨：Bブロック (S = 2/3)

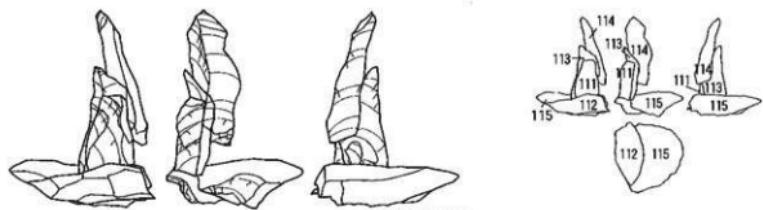
接合資料⑩(87・110)は頁岩製でナイフ形石器1点と剥片1点の接合資料である。

接合資料⑪(111～114)は流紋岩製で剥片5点の接合資料である。剥片(112・115)を作出した後、その剥離面を打面として剥片(111・113・114)を作出している。

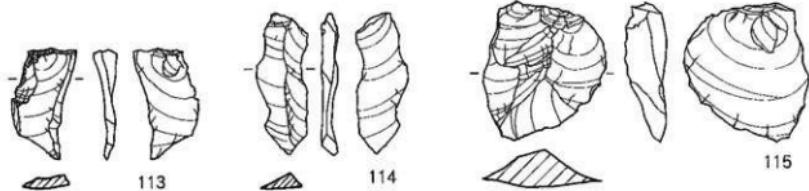
接合資料⑫(116～123)は頁岩製で剥片5点の接合資料である。剥片(123)を作出後、剥片剥離方向を90°入れ替えて剥片(116～122)を作出している。自然面を多く残すものであり、目的剥片を剥



第51図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑩：Bブロック ($S = 2/3$)



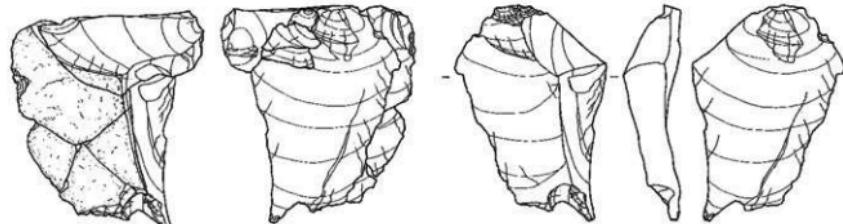
111～115 接合資料①



113

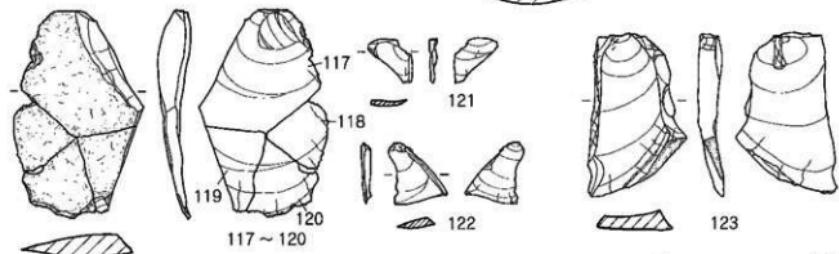
114

115



116～123 接合資料②

116

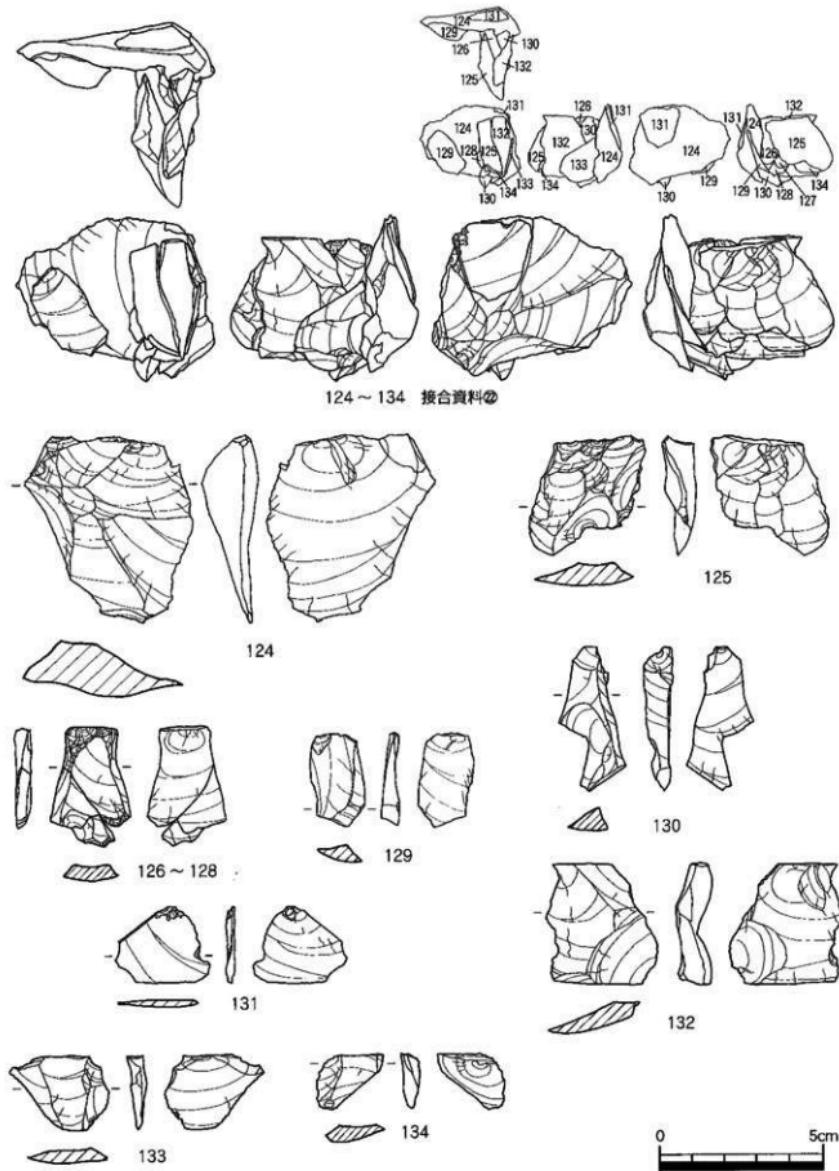


117～120

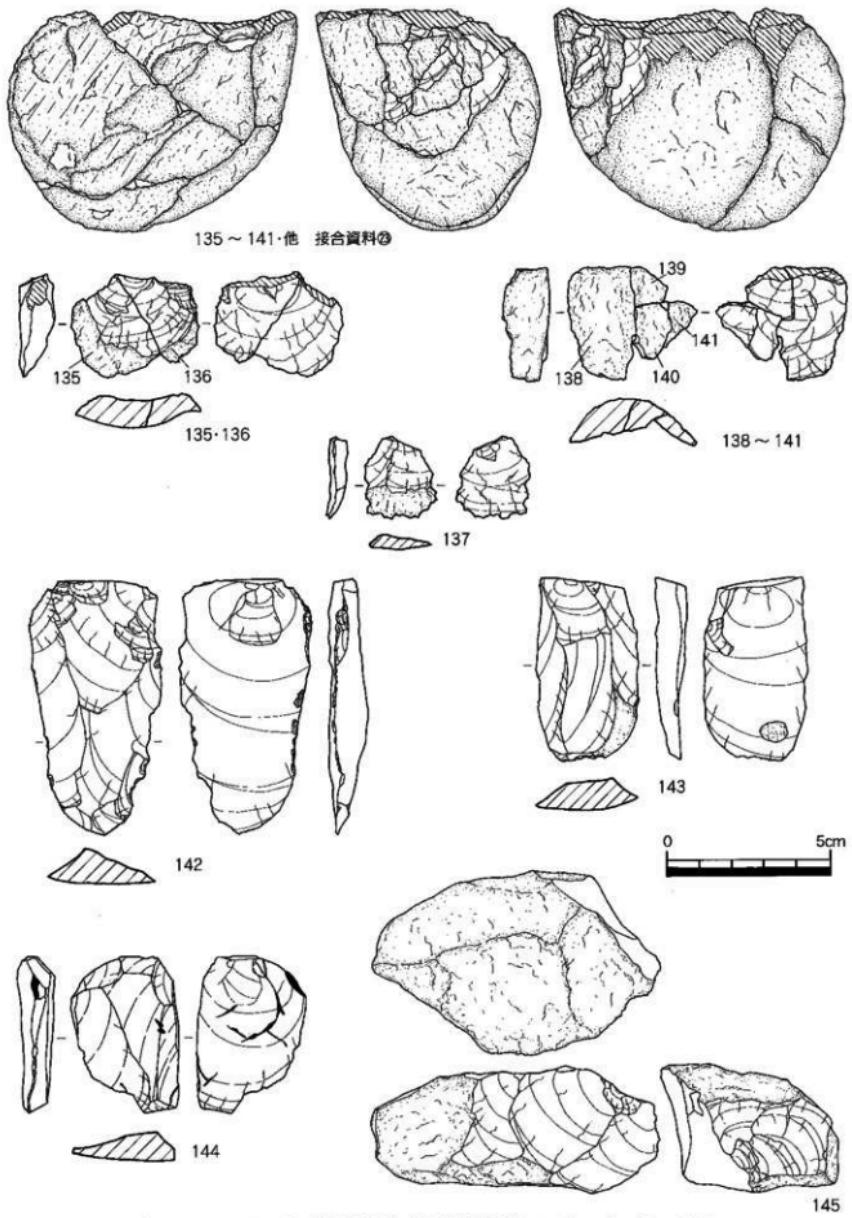
123



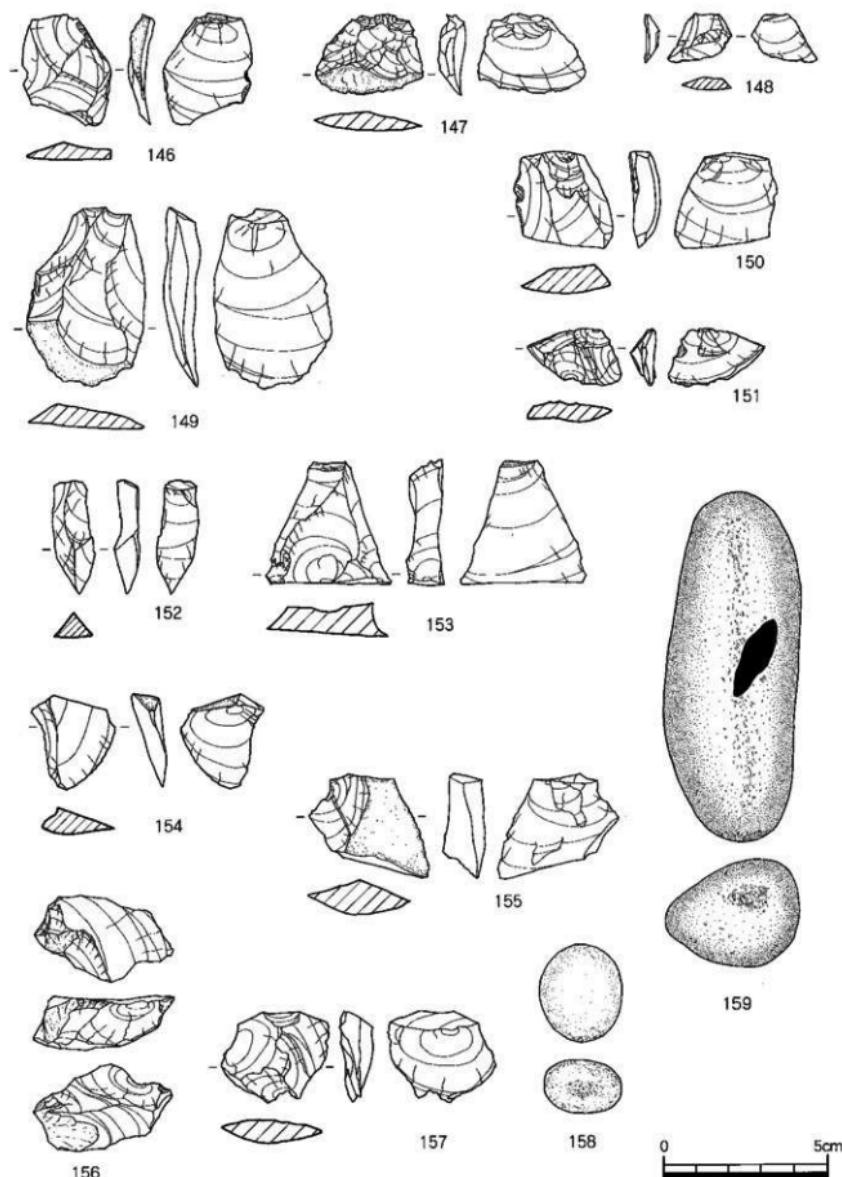
第52図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図①：Bブロック (S=2/3)



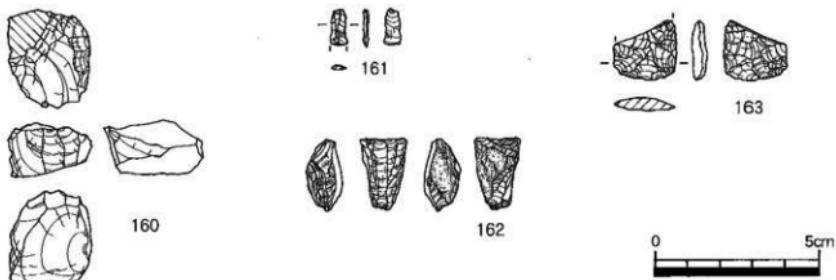
第53図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑫：Bブロック (S = 2/3)



第54図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図⑩：Bブロック (S = 2/3)



第55図 E区旧石器時代包含層出土石器実測図④：B ブロック・出土位置不明 (S = 2/3)



第 56 図 E 区旧石器時代包含層出土石器実測図⑤：出土位置不明 (S = 2/3)

ぎ取る準備段階の資料の可能性がある。

接合資料②(124～134)は流紋岩製で剥片9点が接合した。まず剥片(131・124)が作出され、次に(133)が作出される。その後は同一方向からの加撃によって残りの剥片が作出されている。

接合資料③はチャート製で剥片3点と石核1点の接合資料である。節理面により割れた平坦面を打面とし、やや突出した端部から剥片を作出しているが数枚剥片を剥いだところで止めている。あまり良質の石材ではなかったので作出された剥片も細かく割れているし、石核のほうも節理によって4つに分割されて出土している。

142は大型の縦長剥片である。腹面右側縁に2次加工が見られる。145は流紋岩製の石核である。自然面の平坦面を打面とし、不定形な剥片を作出している。作業面は2ヶ所確認される。156は剥片素材の石核である。厚手の剥片の主要剥離面を打面とし、側縁側に作業面を設けて剥片を生産するもので瀬戸内技法の影響を受ける資料であると考えられる。

5. 旧石器時代終末期の資料について

160から163については旧石器時代の終末期に該当する資料である。160・163は旧石器時代の包含層である10層から出土し、161・162は縄文時代早期の包含層である8層から出土した。

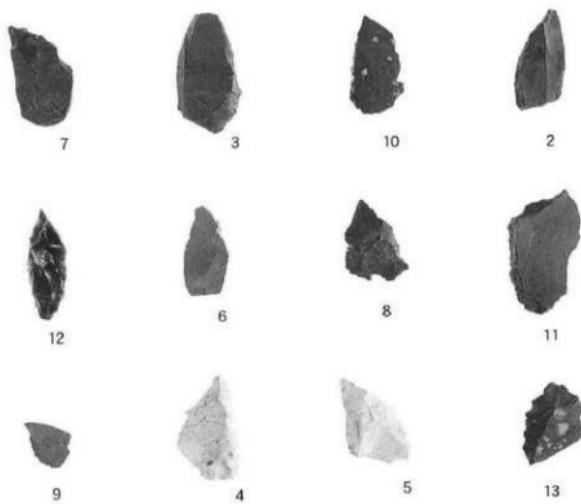
船引地区遺跡群においてはナイフ形石器文化期の資料は多く検出されているが、細石器文化期の資料はあまり検出されていない。これまで出土した細石器文化期の遺物の多くが縄文早期の遺物包含層中から発見されるという状況である。本遺跡の資料についても同様の検出状況であった。

160は細石刃核の打面再生剥片であろうか。頁岩製で打面調整を行わずに数枚の細石刃を剥離した痕跡が窺える。作業面の右側に加撃し、細石刃核からこの剥片を作出したものと考えられる。161は黒曜石製の細石刃である。下端部は折断されている。162は黒曜石製の細石刃核である。打面調整を行わず細石刃を生産するものである。作業面を何度も転回しており複数の作業面が残されている。163是有舌尖頭器の基部の破片である。チャート製で薄く作り上げられており、断面形はきれいなレンズ状を呈する。この資料は破片のため不明な点が多いが、出土層位が小林輕石層の下位であることや近年高鍋町北牛牧第5遺跡や高城町雀ヶ野第3遺跡でも有舌尖頭器の発見例が見られている。これまでには有舌尖頭器の分布の南限は高千穂町セベット遺跡だったが、これらの新しい発見例によって分布はさらに南に拡がっていくことが考えられる。不明な点が多いながらもこのような条件から本資料も有舌尖頭器であると考えられる。

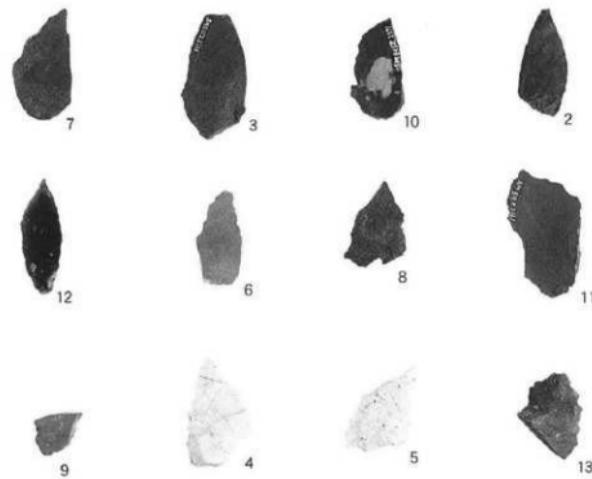
第7表 板元遺跡旧石器時代包含層出土遺物計測分類表

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 層位	ブロック	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合 資料類	備考
1	501	剥片	-	A	流紋岩	6.2	1.7	1	6		SI-73 出土
2	73	ナイフ形石器	10	A	頁岩	3.4	2.05	0.5	3		
3	49	ナイフ形石器	10	A	頁岩	3.9	2.1	0.7	5.8		先端部を欠損
4	7	ナイフ形石器	11	A	流紋岩	3.4	2	7.5	3.8		
5	11	ナイフ形石器	10	A	流紋岩	2.8	2.1	0.5	2		
6	66	ナイフ形石器	10	A	流紋岩	2.9	1.5	0.7	2		
7	48	ナイフ形石器	10	A	頁岩	3.3	2	0.8	4		
8	69	ナイフ形石器	11	A	頁岩	2.55	2.1	0.5	2.1		
9	53	ナイフ形石器	11	A	頁岩	1.45	1.5	0.5	0.7		先端部を欠損
10	51	ナイフ形石器	10	A	流紋岩	3.1	1.8	0.5	2		刃部を欠損
11	47	ナイフ形石器	10	A	頁岩	4.05	2.35	0.95	5.2		先端部、刃部を欠損
12	12	ナイフ形石器	10	A	黑巖石	3.6	1.35	0.9	2.9		桑ノ木津留置
13	129	スクレイパー	10	A	流紋岩	2.7	2.1	0.9	3		
14 - 15	565	剥片	10 - 11	A	流紋岩	6.8	3.55	1.1	17.4	1	
16 - 17	563	剥片	10	A	流紋岩	5.85	3.3	1.5	31.4	1	
18 - 19	566	剥片	10	A	流紋岩	5.8	4	1.6	24.2	1	
20	103	剥片	10	A	流紋岩	4.2	4.4	0.55	11.4	1	
21	119	2次加工ある剥片	10	A	流紋岩	4.9	4.2	1.4	18.8	1	
22	562	剥片	10	A	流紋岩	2.4	2.9	1.1	7.5	1	
23	564	剥片	10	A	流紋岩	1.25	1.4	0.3	0.5	1	
24	105	剥片	10	A	流紋岩	3	1.25	0.6	1.7	2	
25	551	剥片	11	A	流紋岩	2.8	3.1	0.8	4.8	2	
26	80	剥片	11	A	流紋岩	3.2	2.8	0.8	5.6	2	
27	552	剥片	11	A	流紋岩	2.9	1.3	0.3	1	2	
28	88	剥片	10	A	流紋岩	3.6	1.2	0.55	2.4	2	
29	99	剥片	10	A	流紋岩	3.25	3.8	1	16.7	2	
30	494	剥片	10	A	流紋岩	1.9	1.95	0.5	1.1	3	
31	493	剥片	10	A	流紋岩	2.15	2.5	0.8	3.7	3	
32	492	剥片	11	A	頁岩	2.75	2.1	0.7	2.4	3	
33 ~ 35	502	剥片	10 - 11	A	流紋岩	5.7	2.25	7	8.4	4	剥片の折れ面同士の接合資料
36 - 37	541	剥片	11	A	流紋岩	1	2.1	0.5	0.8	5	剥片の折れ面同士の接合資料
38 - 39	497	剥片	11	A	頁岩	1.3	1.4	0.4	0.5	6	剥片の折れ面同士の接合資料
40	92	剥片	10	A	頁岩	2.65	1.35	0.6	1.8	7	
41	91	剥片	10	A	頁岩	2.7	2.1	0.5	2.9	7	
42	499	剥片	10	A	頁岩	2.6	2.9	0.6	4	8	
43	98	剥片	10	A	頁岩	3	2.5	0.9	4.8	8	
44	62	微細距離ある剥片	11	A	頁岩	4.85	5.75	1.2	19.3	9	
45	86	剥片	10	A	頁岩	3.2	4.2	1.1	10.2	9	
46 - 47	108	剥片	11	A	頁岩	4.2	4.15	1.7	19.4	9	
48	93	剥片	10	A	頁岩	4.7	4.3	1.3	18.7	9	
49	101	剥片	10	A	頁岩	5.3	5.65	1.5	30.5	9	
50	100	剥片	10	A	頁岩	4.4	4.1	1.1	17.7	9	
51	561	剥片	11	A	頁岩	2.1	2.2	0.8	2.5	9	打面部を欠損
52	560	剥片	11	A	頁岩	2.3	2.6	0.85	4.7	9	打面部を欠損
53	559	剥片	11	A	頁岩	3.4	1.8	0.5	2.3	9	打面部を欠損
54	102	剥片	10	A	頁岩	6.4	3.9	1.5	27.8	9	
55	112	剥片	10	A	頁岩	5.7	4.3	1.5	25.3	9	
56	571	剥片	10	A	頁岩	2.1	2.5	0.75	3.5	10	
57	570	剥片	10	A	頁岩	2.8	2.05	0.5	1.6	10	
58	9	剥片	11	A	頁岩	4.1	1.3	0.6	4.4	10	
59	115	剥片	10	A	頁岩	5.1	1.85	1.7	5.7	10	
60	96	剥片	10	A	頁岩	5.9	3.6	1.3	18.9	10	
61	518	剥片	11	A	頁岩	4	1.5	0.6	2.1	11	
62	74	剥片	11	A	頁岩	3.7	2.3	0.9	7.9	11	
63 - 64	569	剥片	10	A	砂岩	5.25	8.1	1.85	55.4	12	
65	668	剥片	10	A	砂岩	5.6	4.9	1.9	29.9	12	
66	567	剥片	10	A	砂岩	5.15	5.65	2.95	64.8	12	
67	521	剥片	10	A	砂岩	2.7	3.5	1	6.2	13	
68	520	剥片	10	A	砂岩	2.9	2.1	1.2	2.9	13	
69	79	剥片	11	A	流紋岩	6.4	2.4	1.7	24.4		
70	94	剥片	10	A	流紋岩	4.85	5.9	1	17.6		
71	89	剥片	10	A	流紋岩	2.65	3.2	0.5	3.7		
72	95	剥片	10	A	流紋岩	4.4	5.2	0.8	16.1		
73	97	剥片	10	A	頁岩	4.2	4.1	1.1	18.6		
74	85	剥片	10	A	頁岩	5.8	2.6	1.25	12.5		
75	109	剥片	10	A	頁岩	2.9	1.2	0.75	2.2		
76	107	剥片	10	A	頁岩	2.45	2.95	0.9	2.7		
77	106	剥片	10	A	頁岩	2.7	3.1	0.35	3.5		
78	83	剥片	10	A	頁岩	2.85	1.5	0.5	1.5		
79	60	2次加工ある剥片	10	A	頁岩	3.3	2	0.5	3.1		
80	77	作業面再生剥片	10	A	頁岩	2.5	2.4	0.9	4.3		

遺物 No	整理 No	器種	出土 層位	ブロック	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	総合 資料No.	備 考
81	524	石核	10	A	砂岩	5.6	5.5	4.4	101.2		
82	59	ナイフ形石器	11	B	頁岩	3.65	2.2	0.9	52		先端部、刃部を欠損
83	56	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.9	2.1	0.8	38		先端部を欠損
84	2	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.85	1.8	0.55	38		
85	9	ナイフ形石器	11	B	頁岩	4.05	1.7	0.85	46		
86	3	ナイフ形石器	11	B	頁岩	3.9	1.85	0.85	53		
87	5	ナイフ形石器	11	B	頁岩	3.3	1.7	0.7	29	19	
88	54	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.5	1.5	0.5	13		
89	55	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.1	1.4	0.5	9		
90	6	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.36	1.45	0.3	38		
91	75	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.4	1.05	0.45	8		
92	57	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.8	1.35	0.55	19		
93	52	ナイフ形石器	11	B	頁岩	2.1	1.3	0.6	13		
94	61	ナイフ形石器	11	B	頁岩	1.85	1.15	0.4	5		基部を欠損
95-96	70	ナイフ形石器	11	B	流紋岩	2.4	2.5	0.8	36	15	先端部を欠損
97	50	ナイフ形石器	10	B	流紋岩?	2.85	2.1	1	22		先端部を欠損
98	58	台形石器	11	B	流紋岩	2.25	1.5	0.8	17		刃部をわずかに欠損
99	1	三稜尖頭器	11	B	ホルンフェルス	7.7	1.45	1.15	116		
100	553	剥片	11	B	頁岩	5.4	3.3	2.5	261	14	
101	554	石核	11	B	流紋岩	3.95	5.6	2.2	67.9	14	
102	68	剥片	11	B	流紋岩	4.1	3.95	1.1	105	15	
103-104	514	剥片	11	B	頁岩	2.9	3.4	0.7	47	16	
105	515	剥片	11	B	頁岩	2.4	2.6	0.5	19	16	
106-107	517	剥片	11	B	流紋岩	2.2	1.5	0.5	15	17	剥片の折れ面同士の接合資料
108	511	剥片	11	B	頁岩	2	1.65	0.5	1.1	18	
109	510	剥片	11	B	頁岩	1.6	1.5	2.5	0.4	18	
110	540	剥片	11	B	頁岩	3.6	1.2	0.55	19	19	
111	546	剥片	11	B	流紋岩	2.5	1.1	0.7	26	20	
112	78	剥片	11	B	流紋岩	3.3	2.2	0.85	31	20	
113	111	剥片	10	B	流紋岩	3.4	2	0.7	2	20	
114	548	剥片	11	B	流紋岩	4.3	1.6	0.5	28	20	
115	82	剥片	11	B	流紋岩	4.3	3.8	1.3	16	20	
116	84	剥片	11	B	頁岩	6.7	4.7	1.75	33.7	21	
117-120	525	剥片	11	B	頁岩	6.45	4	1	17.7	21	剥片の折れ面同士の接合資料
121	538	剥片	11	B	頁岩	1.4	1.4	0.25	0.3	21	
122	539	剥片	11	B	頁岩	1.9	1.85	0.35	0.7	21	
123	71	剥片	11	B	頁岩	5.5	3	6.5	9.7	21	
124	63	剥片	11	B	流紋岩	5.7	5.15	1.75	31.7	22	
125	124	剥片	11	B	流紋岩	3.7	3.6	1.1	10.3	22	
126-128	76	2次加工ある剥片	11	B	流紋岩	3.05	2.05	0.55	28	22	剥片の折れ面同士の接合資料
129	67	剥片	11	B	流紋岩	2.85	1.65	0.55	2	22	
130	542	剥片	11	B	流紋岩	4.4	1.8	0.9	42	22	
131	545	剥片	11	B	流紋岩	2.35	2.9	0.5	16	22	
132	549	剥片	11	B	流紋岩	3.7	3.4	1.1	9.7	22	
133	544	剥片	11	B	流紋岩	2.3	3	0.5	31	22	
134	543	剥片	11	B	流紋岩	2.2	2.1	0.55	12	22	
135-136	126	剥片	10	B	チャート	3.2	3.9	1.1	13.3	23	剥片の折れ面同士の接合資料
137	557	剥片	11	B	チャート	2.55	2.3	0.6	27	23	
138-141	556	剥片	11	B	チャート	3.5	4	1.45	13.1	23	剥片の折れ面同士の接合資料
142	130	2次加工ある剥片	11	B	流紋岩	7.9	4.1	1.2	34.2		
143	64	剥片	11	B	流紋岩	5.65	3.2	1	20.5		
144	104	剥片	10	B	流紋岩?	4.8	3.3	1.1	11		
145	45	石核	11	B	流紋岩	3.9	8.9	5.7	196		
146	72	剥片	11	B	流紋岩	3.4	2.7	0.8	42		
147	90	剥片	11	B	頁岩	2.5	3.3	0.85	6		
148	523	剥片	11	B	頁岩	1.5	2	0.45	0.9		
149	65	剥片	11	B	頁岩	5.6	3.6	1	19.5		
150	87	剥片	10	B	流紋岩?	3	2.9	0.8	4		
151	123	剥片	10	B	頁岩	1.75	2.9	0.75	24		
152	110	剥片	10	不明	頁岩	3.5	1.2	0.8	23		
153	114	剥片	10	不明	頁岩	3.8	3.9	1.15	13.3		
154	117	剥片	10	不明	砂岩	2.8	2.3	0.8	4.8		
155	125	剥片	10	不明	砂岩	3.2	3.65	1.3	12.3		
156	530	石核	10	不明	頁岩	1.8	4.3	2.7	13.5		
157	116	剥片	10	不明	砂岩	2.8	3.4	1.05	7.9		
158	531	礫石	10	不明	砂岩	3	2.65	1.6	15.3		
159	532	礫石	11	不明	砂岩	10.8	4	3.3	175.4		
160	526	細石核	10	不明	頁岩	1.7	2.5	3.1	12.3		
161	528	離石刃	8	不明	黒曜石	1.1	0.5	1.5	0.1		桑ノ木津留産
162	529	離石核	8	不明	黒曜石	2.2	1.5	1.1	2.7		桑ノ木津留産
163	527	有舌尖頭器	10	不明	チャート	1.8	1.9	0.5	15		基部破片

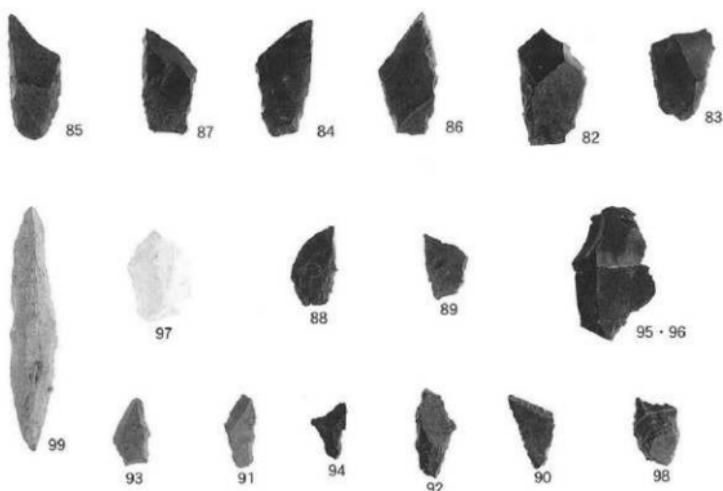


A ブロック ナイフ形石器・スクレイパー (表)

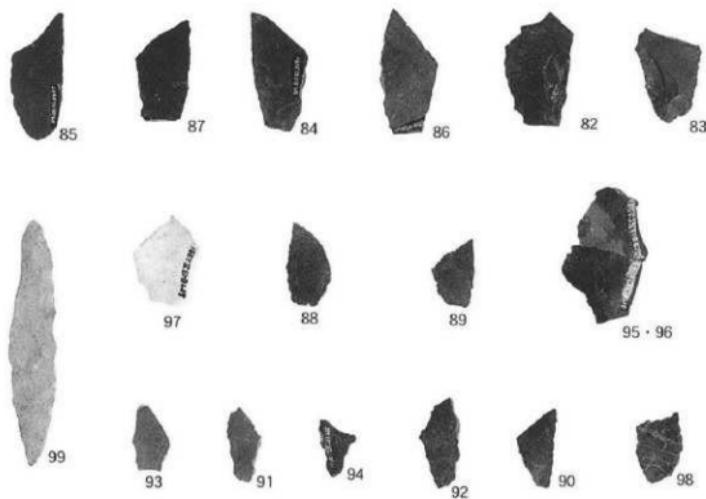


A ブロック ナイフ形石器・スクレイパー (裏)

図版 53 E 区旧石器時代包含層出土石器①

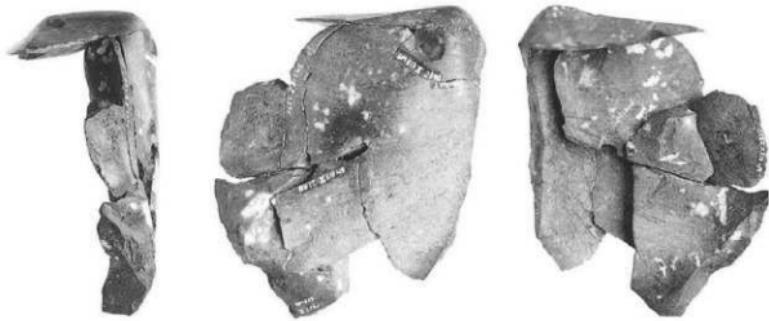


B ブロック ナイフ形石器・三稜尖頭器・台形様石器（表）

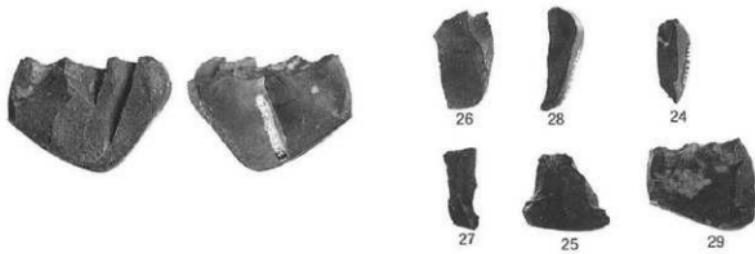
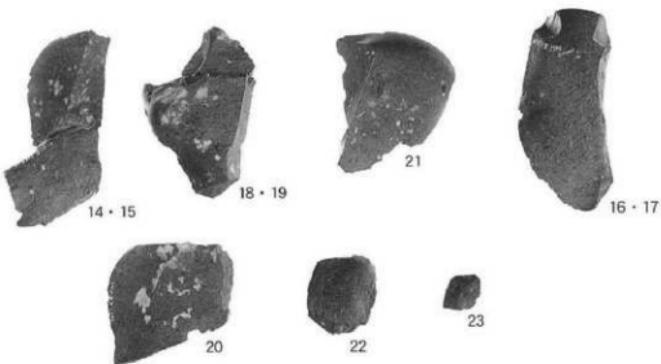


B ブロック ナイフ形石器・三稜尖頭器・台形様石器（裏）

図版 54 E 区旧石器時代包含層出土石器②

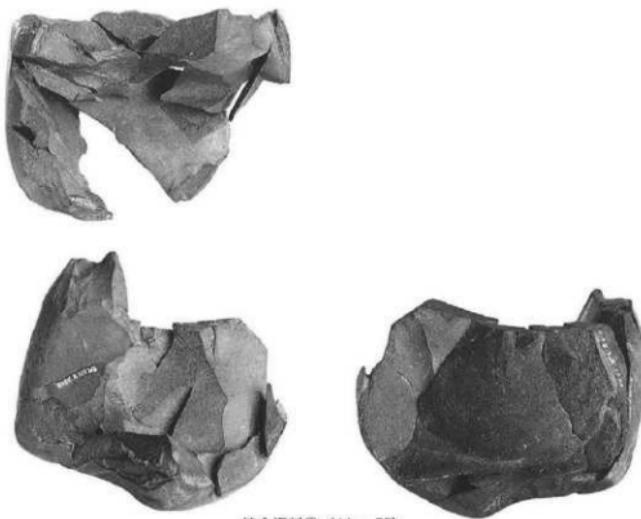


接合資料① (14 ~ 23)

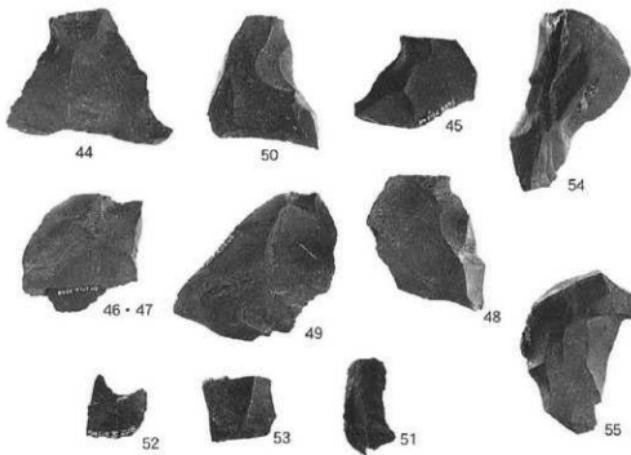


接合資料② (24 ~ 29)

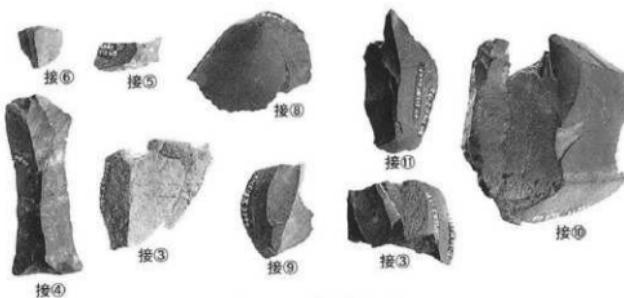
図版 55 E 区旧石器時代包含層出土石器③



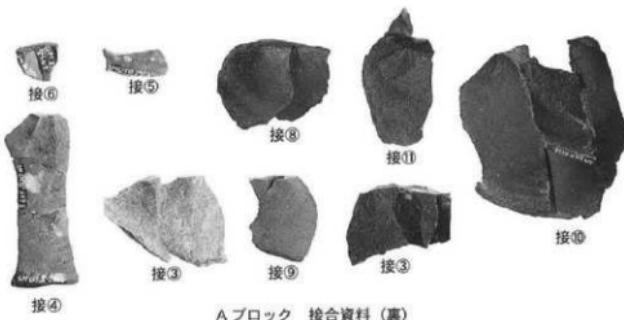
接合資料⑨ (44 ~ 55)



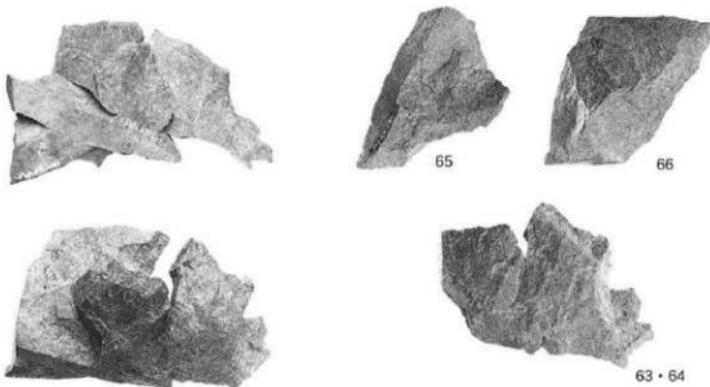
図版 56 E 区旧石器時代包含層出土石器④



A ブロック 接合資料 (表)

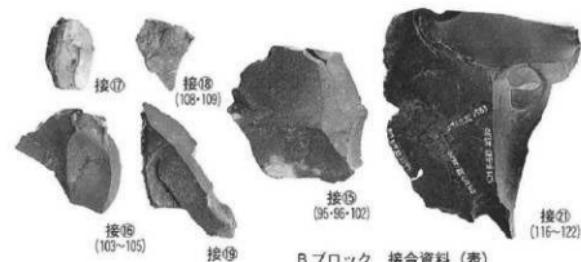


A ブロック 接合資料 (裏)

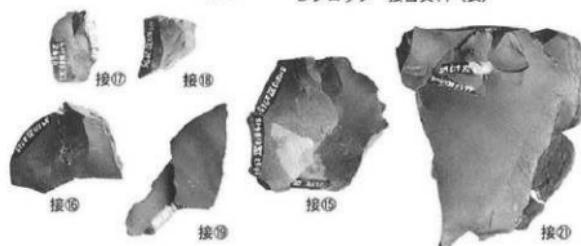


接合資料㊂ (63 ~ 66)

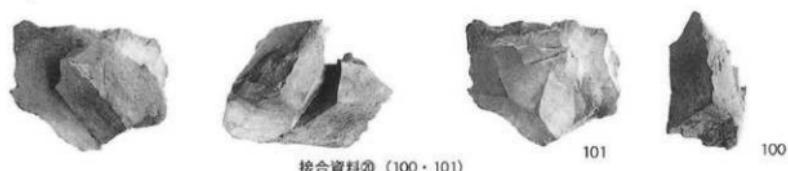
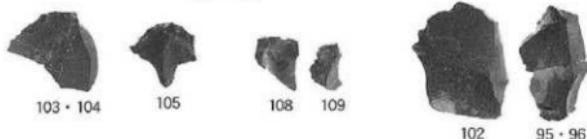
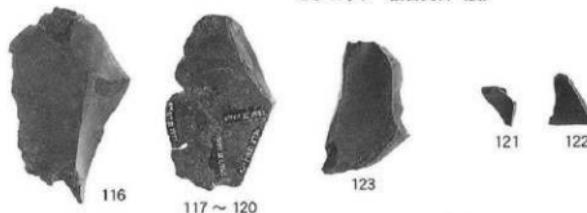
図版 57 E 区旧石器時代包含層出土石器⑤



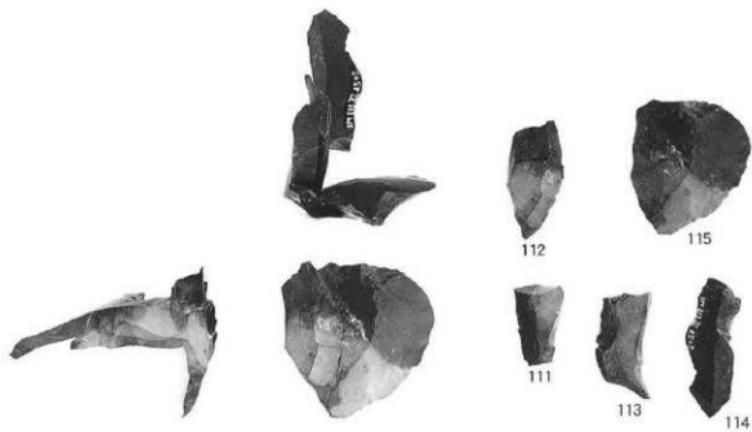
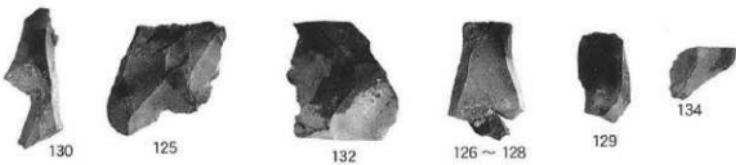
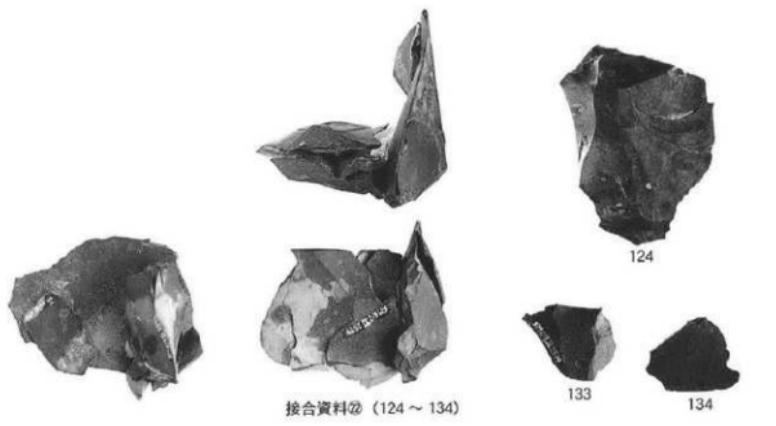
B ブロック 接合資料 (表)



B ブロック 接合資料 (裏)

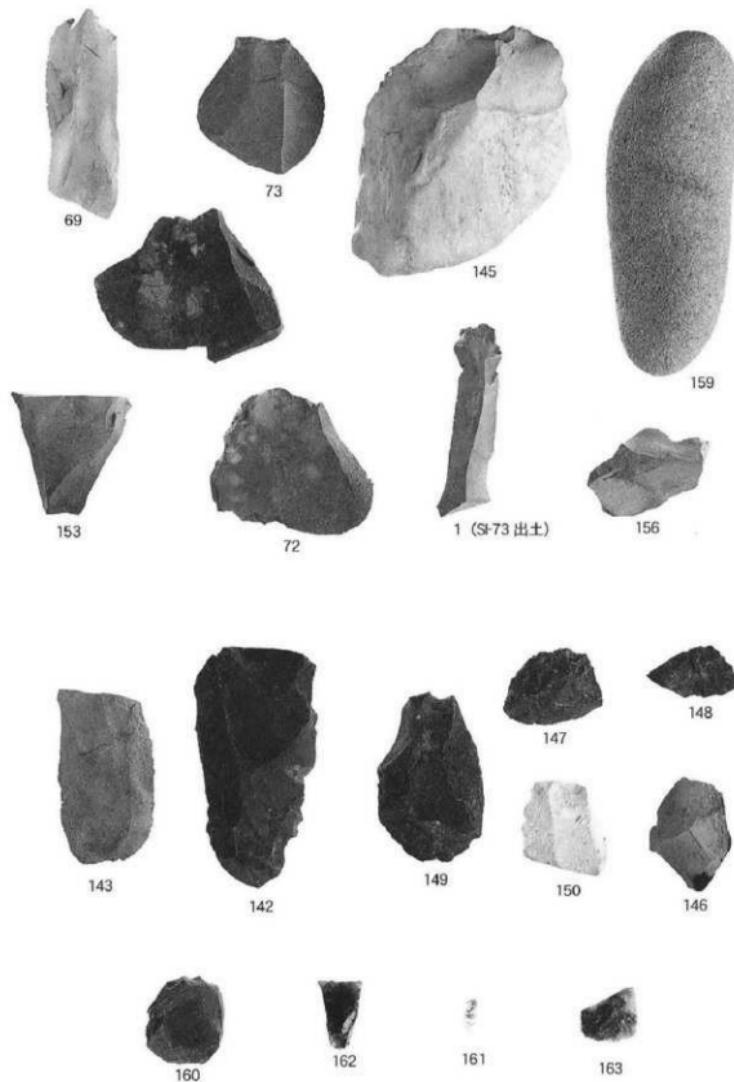


図版 58 E 区旧石器時代包含層出土石器⑥



接合資料③ (111 ~ 115)

図版 59 E 区旧石器時代包含層出土石器⑦



図版 60 E 区旧石器時代包含層出土石器⑧

第2節 繩文時代早期

1. 遺構

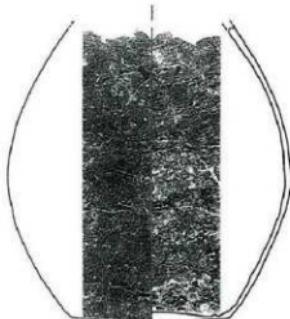
(1) 埋設土器

検出状況

重機による表土剥ぎ取り作業を行っていたところ、既に8層中位まで削平されていた地点で、壺の胴部が一周する状況が確認された。平面精査及び断面確認（トレーナー）を行い、掘り込みの有無もしくは遺構との関連性について調査したが、確信が持てるだけの明瞭な状況は確認できなかった。又、出土地点は集石遺構が集中する範囲の端であった。尚、土器の内部に堆積していた土中の炭化物については、放射性炭素年代測定法により 8100 ± 40 年 BP という結果を得ている。

土器

細かい刻みを施した微隆帯を巡らす塞ノ神式土器の壺。（胴部最大径 29.1cm、底径 16.2cm、器高は現存長で 30cm）



第57図 埋設土器実測図 ($S = 1/5$)

(2) 集石遺構

SI-72

SI-72については、8層下位で検出された。他の集石遺構の記録が終了し、縄文時代早期の遺物もほとんど出土しなくなったところで検出されたため、縄文時代草創期の集石遺構の可能性が高いと推測される。

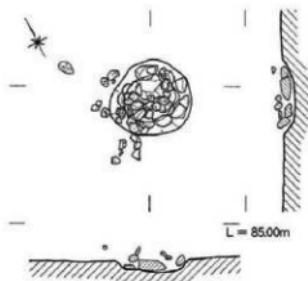
掘り込みについては、“砾を実測後除去すると窪みができる”という状況であり、断面等で確認したが明らかなプランは確認できなかった。



図版61 検出状況(南上から)

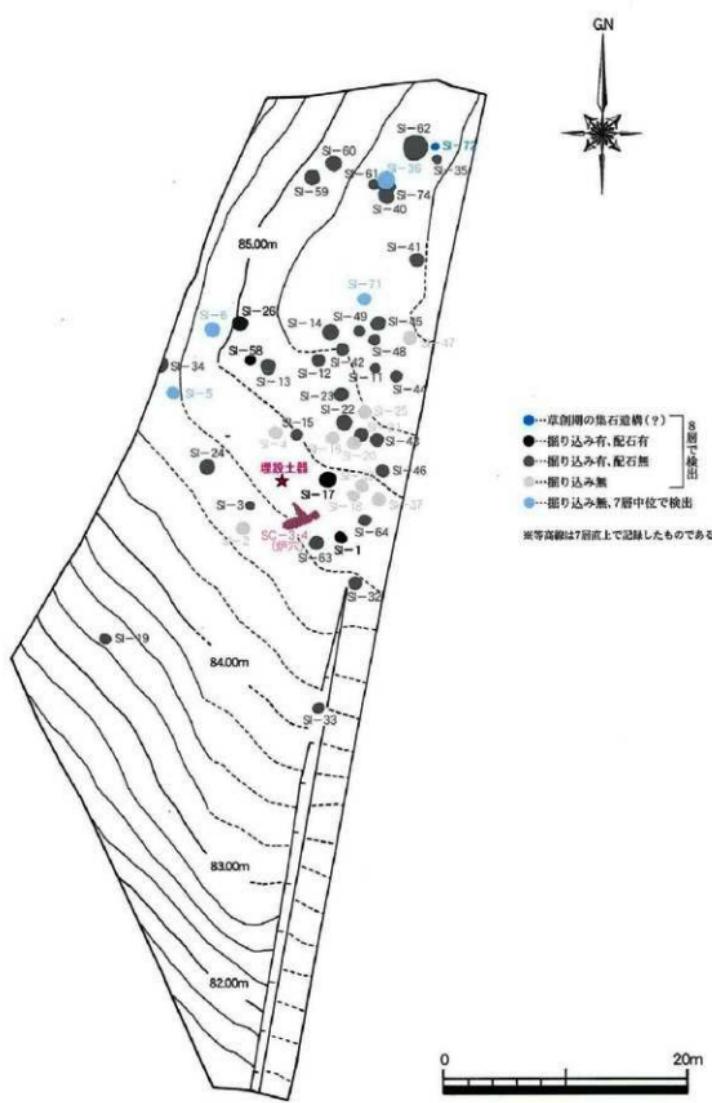


図版62 断面確認状況(南から)

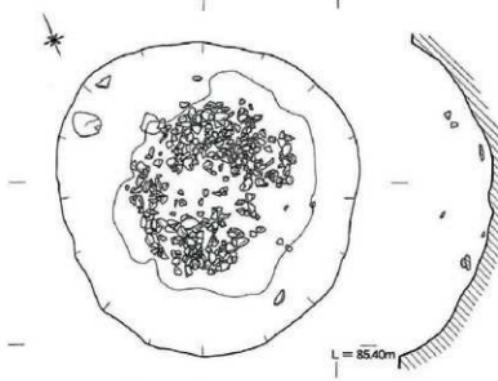


第58図 SI-72 実測図 ($S = 1/30$)





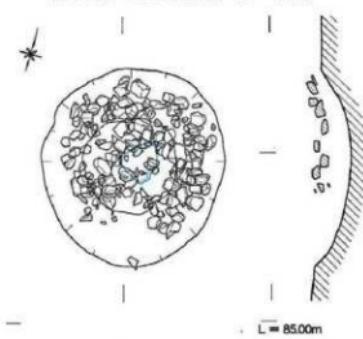
第59図 E区縄文時代早期遺構分布図 ($S = 1/400$)



SI-62

SI-62については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈していたが、他の集石遺構と比較すると直径1.98m、深さ0.55mと大型の掘り込みであった。その大型の掘り込みに対し使用されている焼礫は33.5kgと疎らで、掘り込み中央に集中していた。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 9650 ± 40 年BPという結果を得ている。

第60図 SI-62 実測図 (S = 1/30)



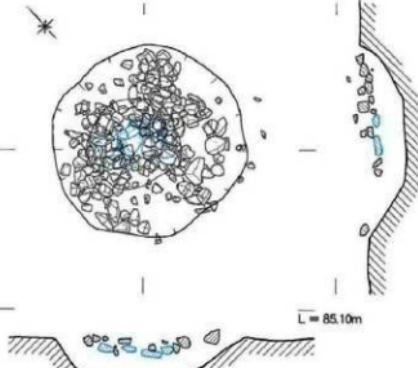
第61図 SI-26 実測図 (S = 1/30)

SI-26

SI-26については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており使用されている焼礫は42.5kgと密であった。又、掘り込みの底面から10cm程上位には約25cmの扁平な礫が1個配置されていた。尚、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 9310 ± 40 年BPという結果を得ている。

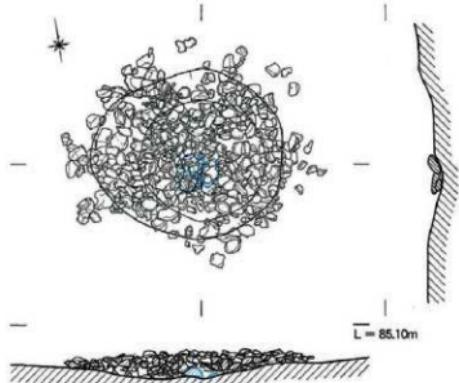
SI-17

SI-17については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼礫は63kgと密であった。又、掘り込みの底面から10cm程上位には約15cm～20cmの扁平な礫が10個程配置されていた。

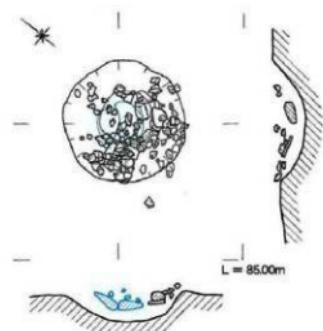


第62図 SI-17 実測図 (S = 1/30)

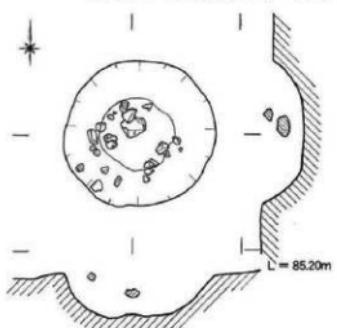




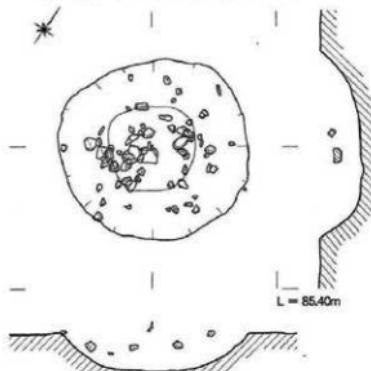
第63図 SI-1 実測図 ($S=1/30$)



第64図 SI-58 実測図 ($S=1/30$)



第65図 SI-42 実測図 ($S=1/30$)



第66図 SI-45 実測図 ($S=1/30$)

SI-1

SI-1については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は81.9kgと密であった。又、掘り込みの底面には約20cmの扁平な穂が3個程配置されていた。

SI-58

SI-58については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は16kgとやや疎らであった。

又、掘り込みの底面から約5cm程上位には約25cmの扁平な穂が2個程配置されていた。

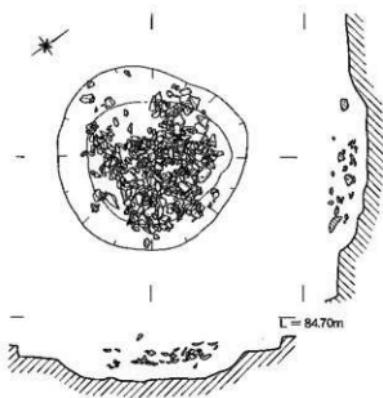
SI-42

SI-42については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈しており、使用されている焼穂は4.1kgと極めて疎らであった。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 9330 ± 40 年BPという結果を得ている。

SI-45

SI-45については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈しており、使用されている焼穂は5.5kgと極めて疎らであった。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 9300 ± 40 年BPという結果を得ている。

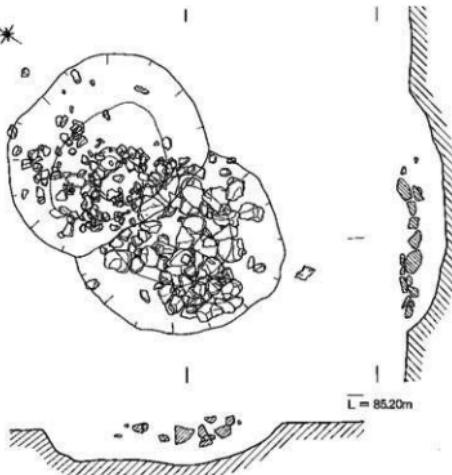




第67図 SI-24 実測図 ($S=1/30$)

SI-24

SI-24については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は17.5kgとやや疎らであった。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 9120 ± 40 年BPという結果を得ている。



第68図 SI-40・74 実測図 ($S=1/30$)

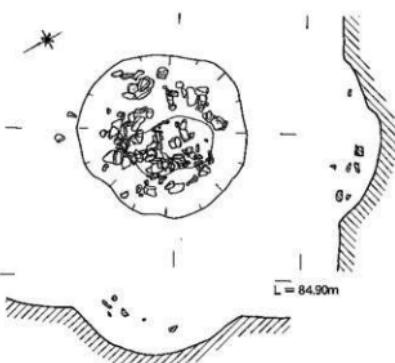
SI-40・74

SI-40・74については、当初SI-40が1基のみ検出されたが、SI-40の掘り込みを確認していく際に、SI-74と切り合っていることが明らかになった。

SI-40は、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は76kgと密であった。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 8890 ± 40 年BPという結果を得ている。尚、SI-74は、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている穢はやや疎らであった。

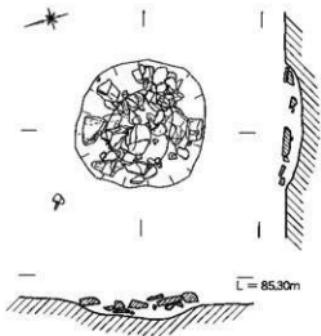
SI-32

SI-32については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈しており、使用されている焼穢は7kgとやや疎らであった。ただし、検出された場所が8層中位から下位が既に露出していた範囲であったために、掘り込みの底面付近のみが残存しており、全体を把握できない状況であった。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 8890 ± 40 年BPという結果を得ている。



第69図 SI-32 実測図 ($S=1/30$)

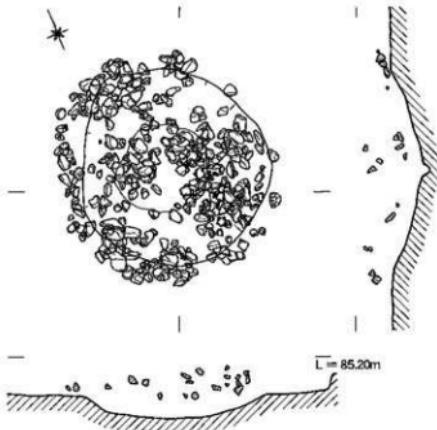




第70図 SI-11実測図 ($S=1/30$)

SI-11

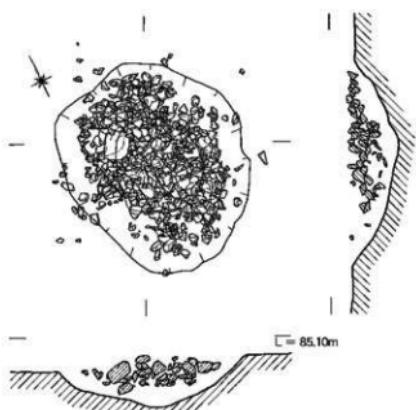
SI-11については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は20kgとやや疎らであった。又、掘り込みの埋土については、8層に酷似した茶褐色土であった。尚、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 8840 ± 40 年 BP という結果を得ている。



第71図 SI-22実測図 ($S=1/30$)

SI-22

SI-22については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は47.5kgとやや密であった。又、使用時期については、放射性炭素年代測定法により 8600 ± 40 年 BP という結果を得ている。

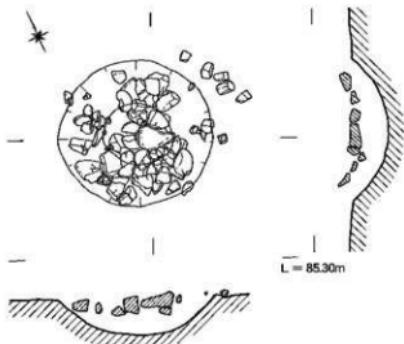


第72図 SI-13実測図 ($S=1/30$)

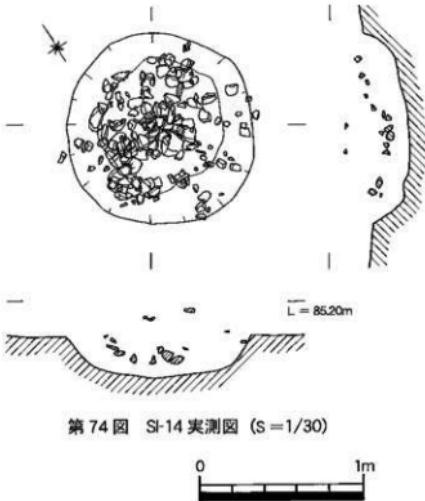
SI-13

SI-13については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は77kgと密であった。

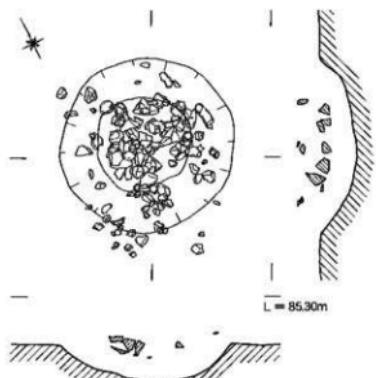




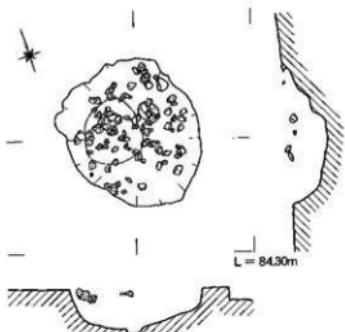
第73図 SI-12 実測図 ($S = 1/30$)



第74図 SI-14 実測図 ($S = 1/30$)



第75図 SI-23 実測図 ($S = 1/30$)



第76図 SI-33 実測図 ($S = 1/30$)

SI-12

SI-12については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は40.9kgとやや密であった。又、掘り込みの埋土については、8層に酷似した茶褐色土であった。

SI-14

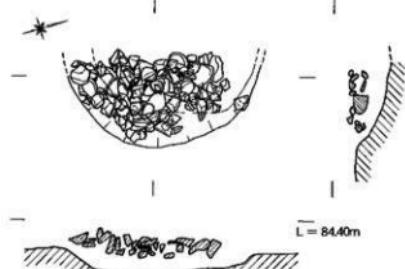
SI-14については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈しており、使用されている焼穢は24.5kgとやや疎らであった。

SI-23

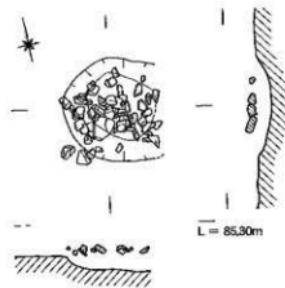
SI-23については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は21.2kgとやや疎らであった。

SI-33

SI-33については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈しており、使用されている焼穢はやや疎らであった。ただし、SI-32と同様に、検出された場所が8層中位から下位が既に露出していた範囲であったために、掘り込みの底面付近のみが残存しており、全体を把握できない状況であった。



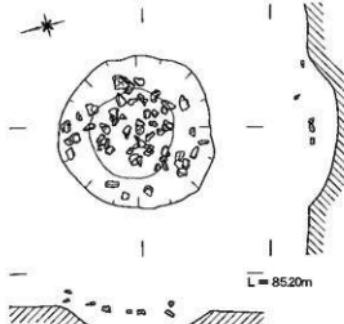
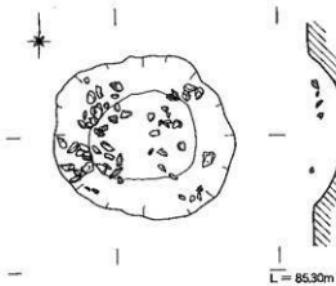
第77図 SI-34 実測図 (S=1/30)



第78図 SI-35 実測図 (S=1/30)

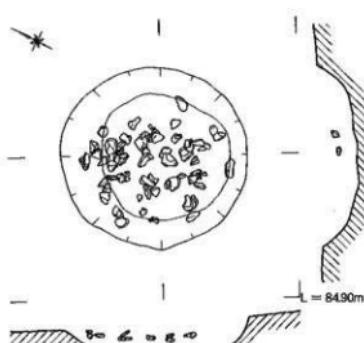
SI-34 SI-35

SI-34、35について、8層上位から中位にかけて検出された際には、遺構の半分もしくわ1／5が破壊されている状況であった。掘り込みの形状はいずれも平面プランが円形で断面は浅皿状を呈していると推測され、使用されている焼窯はSI-34がやや密でSI-35がやや疎らであった。

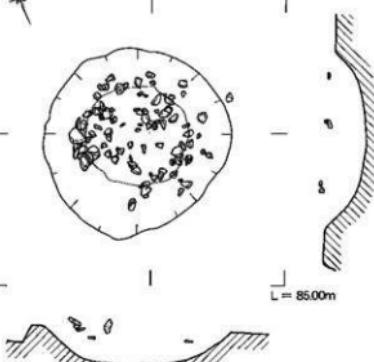


第79図 SI-41 実測図 (S=1/30)

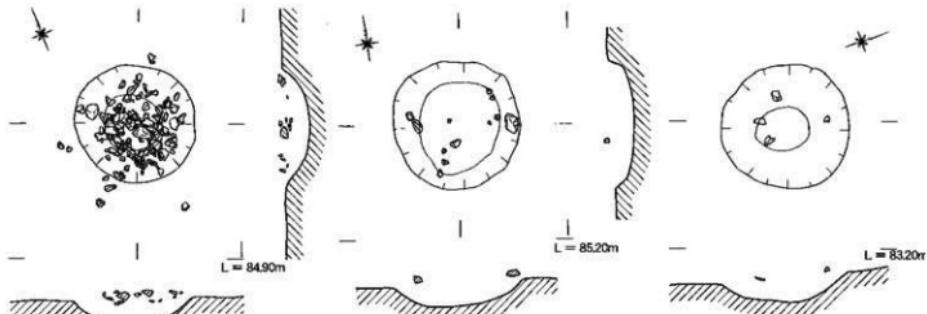
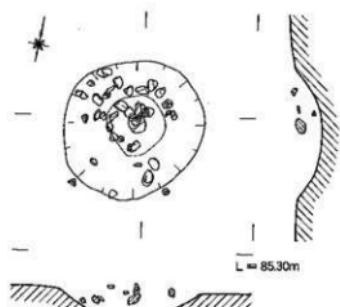
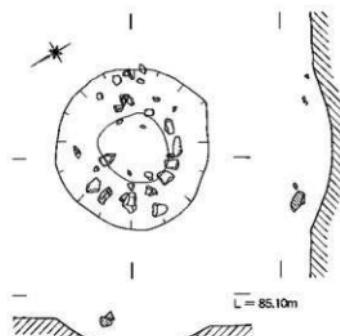
第80図 SI-43 実測図 (S=1/30)



第81図 SI-59 実測図 (S=1/30)



第82図 SI-63 実測図 (S=1/30)

第83図 SI-3 実測図 ($S = 1/30$)第84図 SI-15 実測図 ($S = 1/30$)第85図 SI-19 実測図 ($S = 1/30$)第86図 SI-44 実測図 ($S = 1/30$)第87図 SI-46 実測図 ($S = 1/30$)**SI-41**

SI-41については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は4kgとかなり疎らであった。

SI-43

SI-43については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は4kgとかなり疎らであった。

SI-59

SI-59については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は6.5kgとかなり疎らであった。

SI-63

SI-63については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は5.9kgとかなり疎らであった。

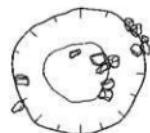
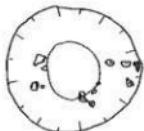
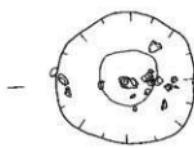
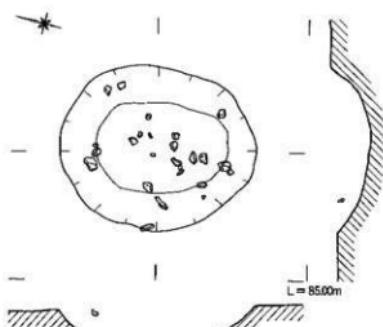
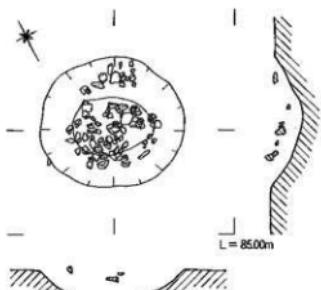
SI-3

SI-3については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は5.2kgとやや疎らであった。

SI-15

SI-15については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穂は0.6kgと極めて疎らであった。



第88図 SI-48 実測図 ($S = 1/30$)第89図 SI-49 実測図 ($S = 1/30$)第90図 SI-61 実測図 ($S = 1/30$)第91図 SI-60 実測図 ($S = 1/30$)第92図 SI-64 実測図 ($S = 1/30$)

SI-61 SI-61については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は2.4kgと極めて疎らであった。

SI-64 SI-64については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は5kgとかなり疎らであった。

SI-19

SI-19については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は0.25kgと極めて疎らであった。

SI-44

SI-44については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は5kgとかなり疎らであった。

SI-46

SI-46については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は6kgとかなり疎らであった。

SI-48

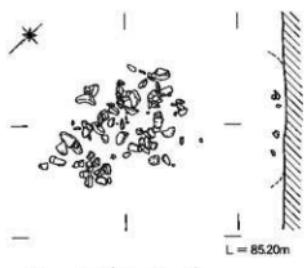
SI-48については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面はボウル状を呈しており、使用されている焼穢は2kgとかなり疎らであった。

SI-49

SI-49については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており使用されている焼穢は0.4kgと極めて疎らであった。

SI-60

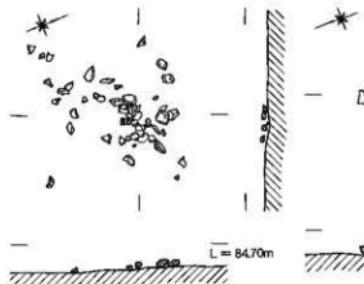
SI-60については、掘り込みの形状は平面プランが円形で断面は浅皿状を呈しており、使用されている焼穢は0.9kgと極めて疎らであった。



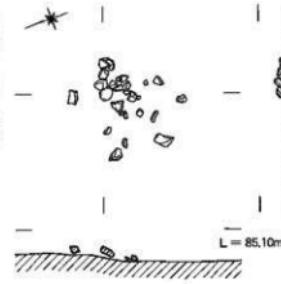
第93図 SI-18 実測図 ($S=1/30$)

SI-18 SI-37

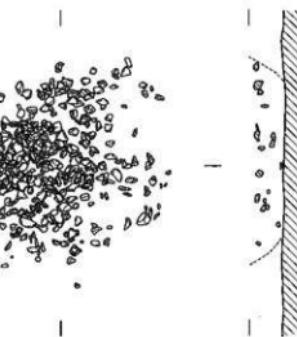
SI-18, 37については、検出当初掘り込みを持たない集石造構として記録していたが、礫の平面的な密集状況や礫の重なり具合からみて、掘り込みがあった可能性があると推測される。特に、SI-37については、その可能性がより高いと思われる。



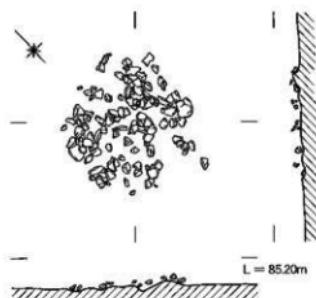
第95図 SI-2 実測図 ($S=1/30$)



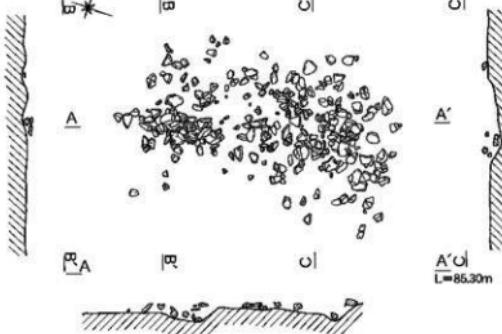
第96図 SH-4 実測図 ($S=1/30$)



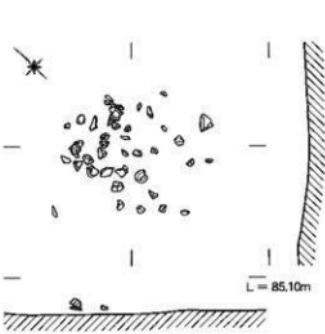
第94図 SI-37 実測図 ($S=1/30$)



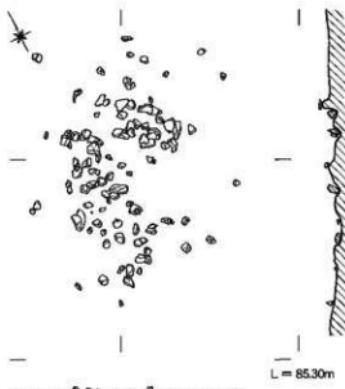
第97図 SI-16 実測図 ($S=1/30$)



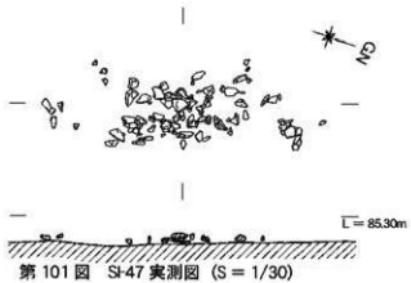
第98図 SH-20・21 実測図 ($S=1/30$)



第99図 SI-30 実測図 ($S=1/30$)



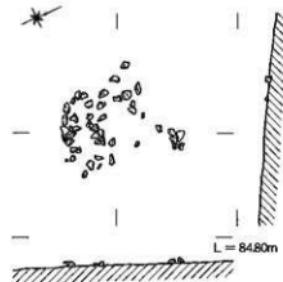
第 100 図 SH-25 実測図 (S = 1/30)



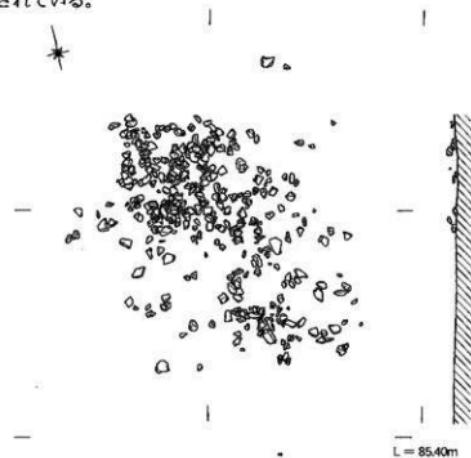
第 101 図 SH-47 実測図 (S = 1/30)

SI-2,4,16,20・21,25,39,47

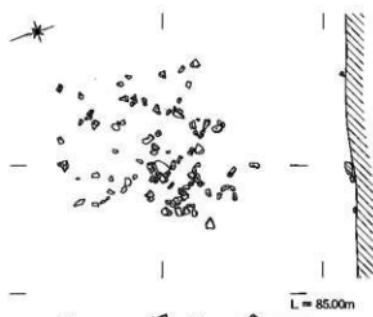
この 8 基の集石造構については、今回掘り込みを持たないタイプの集石造構として取り扱ったが、集石造構の周辺に散在する焼砾がやや密集していた範囲である可能性も残されている。



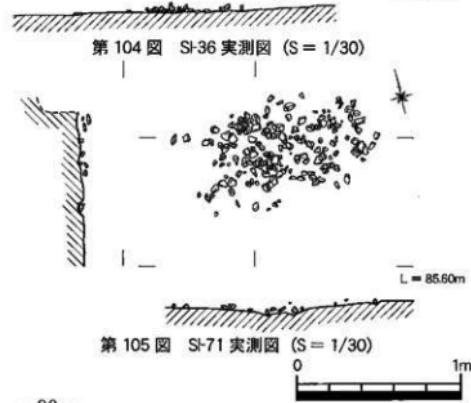
第 102 図 SH-5 実測図 (S = 1/30)



第 104 図 SH-36 実測図 (S = 1/30)



第 103 図 SH-6 実測図 (S = 1/30)



第 105 図 SH-71 実測図 (S = 1/30)

SI-5 SI-6 SI-36 SI-71

SI-5、6、36、71については、アカホヤ火山灰層下位の7層の上位から中位にかけて検出された。8層で検出された他の集石遺構と比較すると、小型の角礫が多く円礫が少ないという特徴が挙げられる。又、掘り込みは持たず、礫はほとんど高低差なく密集している。尚、SI-71の使用時期については、放射性炭素年代測定法により 6470 ± 40 年 BP という結果を得ている。

第 8 表 E 区集石遺構観察表

集石遺構 No	検出面	礫範囲 の直径 (m)	総 礫数 (個)	総 重量 (kg)	礫 1 個 平均重量 (kg)	掘込			放射性 炭素年代 測定値	其伴 遺物	備 考
						有無	直徑 (m)	深さ (m)	配石	炭化物	
SI-72	VII 層下位	0.46	71	12.60	0.18	△	—	—	—	×	○
SI-62	VII 層上位～中位	1.10	440	33.50	0.08	○	1.98	0.55	×	○	9650 ± 40
SI-26	VII 層上位～中位	1.00	256	42.50	0.17	○	1.24	0.21	○	○	9310 ± 40
SI-17	VII 層上位～中位	1.20	315	63.00	0.20	○	0.70	0.20	○	△	○
SI-1	VII 層上位～中位	1.60	578	81.90	0.14	○	1.70	0.15	○	△	○
SI-58	VII 層上位～中位	0.68	120	16.00	0.13	○	0.76	0.18	○	△	×
SI-42	VII 層上位～中位	0.56	23	4.10	0.18	○	0.96	0.23	×	○	9330 ± 40
SI-45	VII 層上位～中位	1.10	70	5.50	0.08	○	1.20	0.26	×	○	9300 ± 40
SI-24	VII 層上位～中位	0.90	618	17.50	0.03	○	1.20	0.20	×	○	9120 ± 40
SI-40	VII 層上位～中位	1.04	240	76.00	0.32	○	1.20	0.25	×	○	8890 ± 40
SI-74	VII 層上位～中位	—	—	—	—	○	1.20	0.35	×	△	×
SI-32	VII 層上位～中位	0.80	145	7.00	0.05	○	1.06	0.25	×	○	8890 ± 40
SI-11	VII 層上位～中位	0.74	150	20.00	0.13	○	0.80	0.13	×	○	8840 ± 40
SI-22	VII 層上位～中位	1.40	354	47.50	0.13	○	1.40	0.20	×	○	8600 ± 40
SI-13	VII 層上位～中位	1.20	813	77.00	0.09	○	1.22	0.25	×	○	○
SI-12	VII 层上位～中位	0.94	82	40.90	0.50	○	0.98	0.32	×	○	×
SI-14	VII 层上位～中位	1.10	179	24.50	0.14	○	1.24	0.25	×	○	○
SI-23	VII 层上位～中位	1.00	147	21.20	0.14	○	1.10	0.23	×	△	○
SI-33	VII 层上位～中位	0.84	—	—	—	○	0.90	0.25	×	△	×
SI-34	VII 层上位～中位	1.00	186	28.50	0.15	○	1.22	0.15	×	△	×
SI-35	VII 层上位～中位	0.60	58	9.00	0.16	○	0.66	0.10	×	△	×
SI-41	VII 层上位～中位	1.00	71	4.00	0.06	○	1.12	0.22	×	△	○
SI-43	VII 层上位～中位	0.92	71	4.50	0.06	○	1.00	0.20	×	△	×
SI-59	VII 层上位～中位	0.98	81	6.50	0.08	○	1.18	0.25	×	△	○
SI-63	VII 层上位～中位	0.90	101	5.90	0.06	○	1.18	0.22	×	△	○
SI-3	VII 层上位～中位	0.66	210	5.20	0.02	○	1.20	0.26	×	△	×
SI-15	VII 层上位～中位	0.70	12	0.60	0.05	○	1.12	0.20	×	△	×
SI-19	VII 层上位～中位	0.46	4	0.25	0.06	○	0.78	0.21	×	△	×
SI-44	VII 层上位～中位	0.82	42	5.00	0.12	○	0.88	0.17	×	△	×
SI-46	VII 层上位～中位	0.92	31	6.00	0.19	○	1.00	0.13	×	△	×
SI-48	VII 层上位～中位	0.80	23	2.00	0.09	○	0.86	0.26	×	△	×
SI-49	VII 层上位～中位	0.68	15	0.40	0.03	○	0.84	0.20	×	△	×
SI-60	VII 层上位～中位	0.94	24	0.90	0.04	○	1.24	0.24	×	△	○
SI-61	VII 层上位～中位	0.84	13	2.40	0.18	○	0.80	0.15	×	△	×
SI-64	VII 层上位～中位	0.60	113	5.00	0.04	○	1.00	0.20	×	△	×
SI-18	VII 层上位～中位	0.88	82	8.00	0.10	△	—	—	×	○	×
SI-37	VII 层上位～中位	1.35	557	22.50	0.04	△	—	—	×	×	○
SI-2	VII 层上位～中位	0.96	60	4.00	0.07	×	—	—	—	—	×
SI-4	VII 层上位～中位	0.74	27	3.00	0.11	×	—	—	—	—	×
SI-16	VII 层上位～中位	0.90	131	8.60	0.07	×	—	—	—	—	○
SI-20	VII 层上位～中位	0.96	80	8.00	0.10	×	—	—	—	—	○
SI-21	VII 层上位～中位	1.00	180	18.00	0.10	—	—	—	—	—	○
SI-25	VII 层上位～中位	1.34	111	7.80	0.07	—	—	—	—	—	×
SI-39	VII 层上位～中位	0.96	48	2.60	0.05	—	—	—	—	—	×
SI-47	VII 层上位～中位	1.30	149	5.00	0.03	—	—	—	—	—	×
SI-5	VII 层中位	0.78	48	3.00	0.06	—	—	—	—	—	○
SI-6	VII 层中位	1.28	102	3.50	0.03	—	—	—	—	—	×
SI-36	VII 层中位	1.60	358	14.00	0.04	—	—	—	—	—	×
SI-71	VII 层中位	1.30	172	5.90	0.03	—	—	—	○	6470 ± 40	×

* 炭化物の欄の△のマークは、炭化粒のみが検出されたケース。

* 放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正 ^{14}C 年代を掲載。



図版 63 SH-72(北から)



図版 65 SH-26(南から)



図版 66 SH-17(南から)



図版 64 SH-62(南から)



図版 67 SH-42(南から)



図版 69 SH-1(西から)*底石は南から



図版 70 SH-58(西から)



図版 68 SH-45(東から)



図版 71 SH-24(南から)



図版 72 SH-40・74(南から)



図版 73 SH-32(南から)



図版 74 SI-11(西から)



図版 75 SI-22(南から)



図版 76 SI-13(南から)



図版 77 SI-14(検出)



図版 78 SI-14(半截)



図版 79 SI-14(南から)



図版 80 SI-12(北から)



図版 81 SI-23(南から)



図版 82 SI-33(南から)



図版 83 SI-34(東から)



図版 84 SI-35(東から)



図版 85 SI-41(北から)



図版 86 SI-43(北から)



図版 87 SI-59(北西から)



図版 88 SI-63(西から)



図版 89 SI-3(南から)



図版 90 SI-15(南から)



図版 91 SI-19(南から)



図版 92 SI-44(西から)



図版 93 SI-46(西から)



図版 94 SI-48(南から)



図版 95 SI-49(南から)



図版 96 SI-60(西から)



図版 97 SI-64(西から)



図版 98 SI-18(南から)



図版 99 SI-37(南東から)



図版 100 SI-2(西から)



図版 101 SI-4(北西から)



図版 102 SI-16(西から)



図版 103 SI-20・21(南東から)



図版 104 SI-25(北から)



図版 105 SI-39(南東から)



図版 106 SI-47(西から)



図版 107 SI-5(南から)



図版 108 SI-6(西から)



図版 109 SI-36(西から)



図版 110 SI-71(南東から)



図版 111 SC-3・4(南から)



図版 112 SC-3(西から)

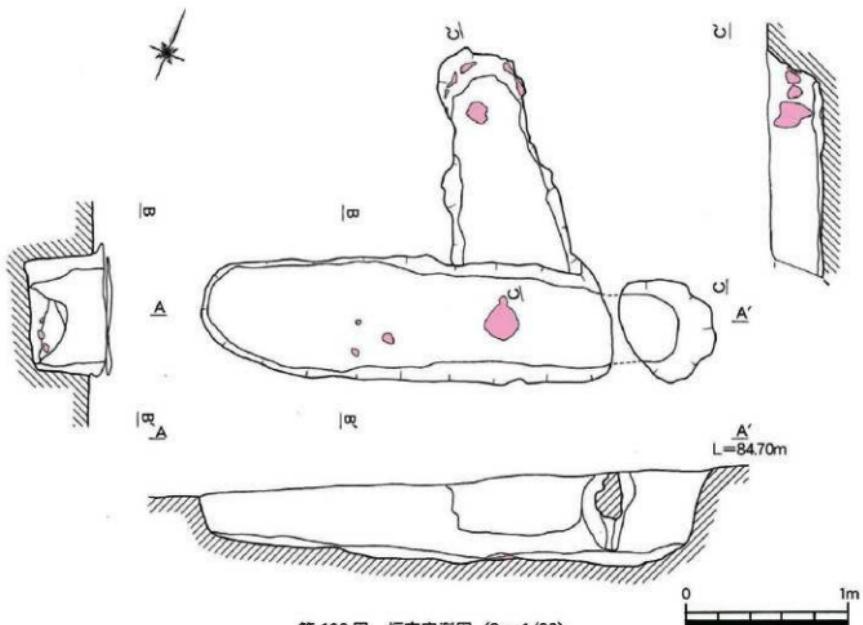
(3) 炉穴

8層中位で2基の炉穴がT字状に切り合った状態で検出された(SC-3・4)。

SC-3は平面プランが長楕円形でブリッジが残存しており、煙出口については円形を呈している。壁面については、短軸側はほぼ垂直に立ち上がり、長軸側(煙道壁面)については短軸側よりやや緩やかに立ち上がっている。又、トンネル部分の断面についてはドーム状を呈している。焼土については焚き口や煙道付近では確認されずに、SC-4と切り合っている遺構の中央付近で確認された。

SC-4は平面プランが長楕円形でブリッジは残存していないが、ブリッジがあったであろう部分にはくびれが確認できる。壁面については、SC-3同様短軸側がほぼ垂直で長軸側がそれよりやや緩やかに立ち上がっている。又、焼土については焚き口付近と煙道部で確認されている。

SC-3・4の埋土はほぼ同質で、2基の新旧関係を裏付ける相違点は確認できなかった。土質はかなり硬質な茶黒色土で、小粒の焼土や炭化粒(SC-3は炭化物)を含んでいた。又、SC-3の埋土中の炭化物については、放射性炭素年代測定法により 9440 ± 50 年BPという結果を得ている。



第106図 炉穴実測図 ($S=1/30$)

第9表 E区炉穴観察表								
炉穴No	検出面	サ イ ズ(m)	ブリッジ	焼土の位置	炭化物	放射性炭素年代測定値	共伴遺物	備 考
SC-3	VII層中位	3.18 × 0.80 × 0.50	○	端部	○	9440 ± 50	○	SC-3と切りあう
SC-4	VII層中位	1.35 × 0.75 × 0.35	×	-	△	-	○	SC-4と切りあう

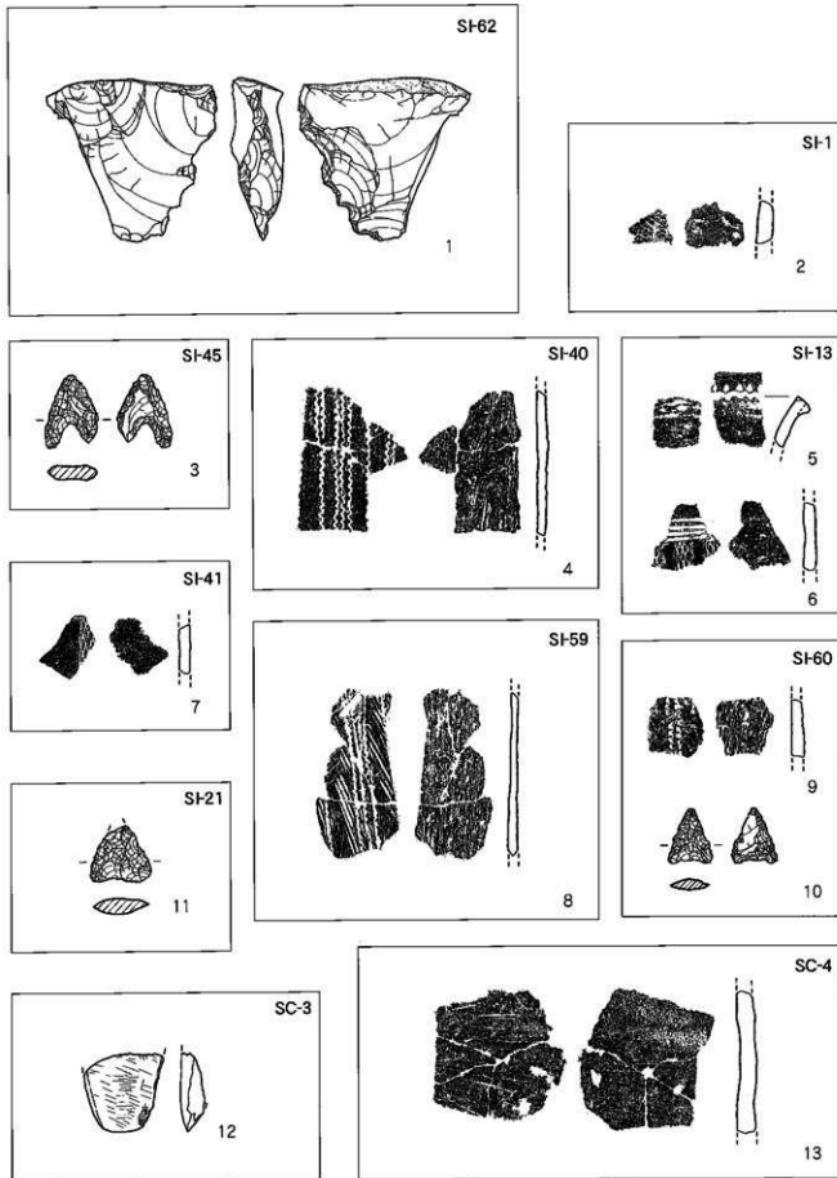
*炭化物の欄の△のマークは、炭化粒のみが検出されたケース。

*放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正¹⁴C年代を掲載。

(4) 造構内遺物

土器については、2は楕円押型文である。4は外面に縦位の貝殻刺突文、内面に貝殻条痕文を施していく、器形は円筒形を呈しているものと推測される。5は口縁部に断面三角形の突帯が貼り付けられており、口唇部内面には連続キザミ目が施されている。6・7は燃糸文が施されているが、6には棒状工具による沈線もみられる。8・9は外面に貝殻条痕文を施した後に縦位の貝殻刺突文を施しており、内面はいずれも貝殻条痕文が施されている。13は内・外とも貝殻条痕文を施しているが、内面は部分的にナデ調整が行なわれている。

石器については、1は頁岩製のスクレイパーである。背面右側縁において背面側からの加撃により、刃部を作り出す。3はサヌカイト製の打製石鏃である。抉りは深く素材の主要剥離面を大きく残す。10は流紋岩製の打製石鏃である。抉りは浅く素材の主要剥離面を大きく残す。11はチャート製の打製石鏃である。抉りは浅く、先端部を欠する。12は磨製石斧の刃部の破片である。小型品で残存部位に関しては全面に研磨を施しており、包含層から出土しているもの(123)と平面形が同じタイプのものである。



第107図 E区遺構内遺物実測図（土器：S=1/3 石器：S=2/3）

第10表 E区遺構内遺物一覧表

遺構番号	出土遺物 * () 内は出上点数	遺物番号		放射性炭素年代	備考
		土器	石器		
SI-72	・チャート剥片(1)	—	—		
SI-62	・真岩スクリバー(1)	—	1	9650 ± 40	
SI-17	・貝殻文系土器(2)	—	—		
SI-45	・貝殻文系土器《下剥峰(1)》・押型文土器《横円(1)》・不明土器(2)	2	—		
SI-45	・サヌカイト石礫(1)	—	3	9300 ± 40	
SI-40	・貝殻文系土器(1)	4	—	8890 ± 40	黒曜石は桑ノ木津留産
SI-32	・黒曜石剥片(1)	—	—	8890 ± 40	
SI-32	・流紋岩剥片(1)	—	—		
SI-13	・平柄式土器(1)・塞ノ神式土器(1)	5-6	—		
SI-14	・黒曜石剥片(1)・チャート剥片(1)	—	—		
SI-14	・チャート剥片(1)・真岩剥片(1)・黒曜石剥片(1)	—	—		
SI-23	・不明土器(1)	—	—		
SI-41	・塞ノ神式土器(1)	7	—		
SI-59	・貝殻文系土器(1)	8	—		
SI-63	・チャート剥片(1)	—	—		
SI-60	・貝殻文系土器(1)	9	10		
SI-16	・貝殻文系土器(1)	—	—		
SI-20	・チャート剥片(1)	—	—		
SI-21	・不明土器(1)	—	11		
SI-5	・チャート石礫(1)	—	—		
SI-5	・黒曜石剥片(1)	—	—		
SC-3	・不明土器(3)	—	12	9440 ± 50	
SC-4	・貝殻文系土器(2)・不明土器(1)	13	—		
	・流紋岩剥片(1)				

第11表 E区遺構内出土土器觀察表

遺構No	造物No	部位	色様及び調整		調		胎		土		備考	遺物整理No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カリ	砂粒		
SI-1	2	胸部	梢円押型文	ナデ	SYR4/4 にぶい赤褐色	7.5YR4/3 褐色	○	○	○	6mm以下		174
SI-40	4	胸部	貝殻刺突文	貝殻条痕文	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR4/3 褐色	○	○	○	2mm以下		169
SI-13	5	口縁部 (断面:三角形)	貼付突脊 (断面:三角形)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	10YR4/2 にぶい赤褐色	○	○	○	2mm以下	口唇部内面にキザミ有	168
	6	胸部	沈原文概系文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	2mm以下		144
SI-41	7	胸部	捺条文	ナデ	2.5YR4/1 赤褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	2mm以下		140
SI-59	8	胸部	貝殻条痕文 貝殻刺突文	貝殻条痕文	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	2mm以下		171
SI-60	9	胸部	貝殻条痕文 貝殻刺突文	貝殻条痕文	5YR4/3 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○	2mm以下		137
SC-4	13	胸部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	2mm以下		133

第12表 E区遺構内石器計測分類表

遺物No	整理No	器種	遺構No	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
1	503	スクリーバー	SI-62	真岩	5	5.75	1.7	38.2	
3	479	打製石礫	SI-45	サヌカイト	2.25	1.7	0.4	1.2	
10	473	打製石礫	SI-60	流紋岩	1.7	1.4	0.4	0.6	
11	480	打製石礫	SI-21	チャート	1.8	1.9	0.5	1.4	先端薄欠損
12	481	磨製石斧	SC-3	真岩	2.4	2.2	0.7	5	刃部被裂



图版 113 埋设土器



图版 114 SA-1 石器



图版 115 SI-62 出土遗物



图版116 SI-62 出土遗物



图版117 SI-45 出土遗物



图版121 SI-40 出土遗物



图版118 SI-13 出土遗物



图版119 SI-1 出土遗物



图版120 SI-59 出土遗物



图版122 SI-60 出土遗物



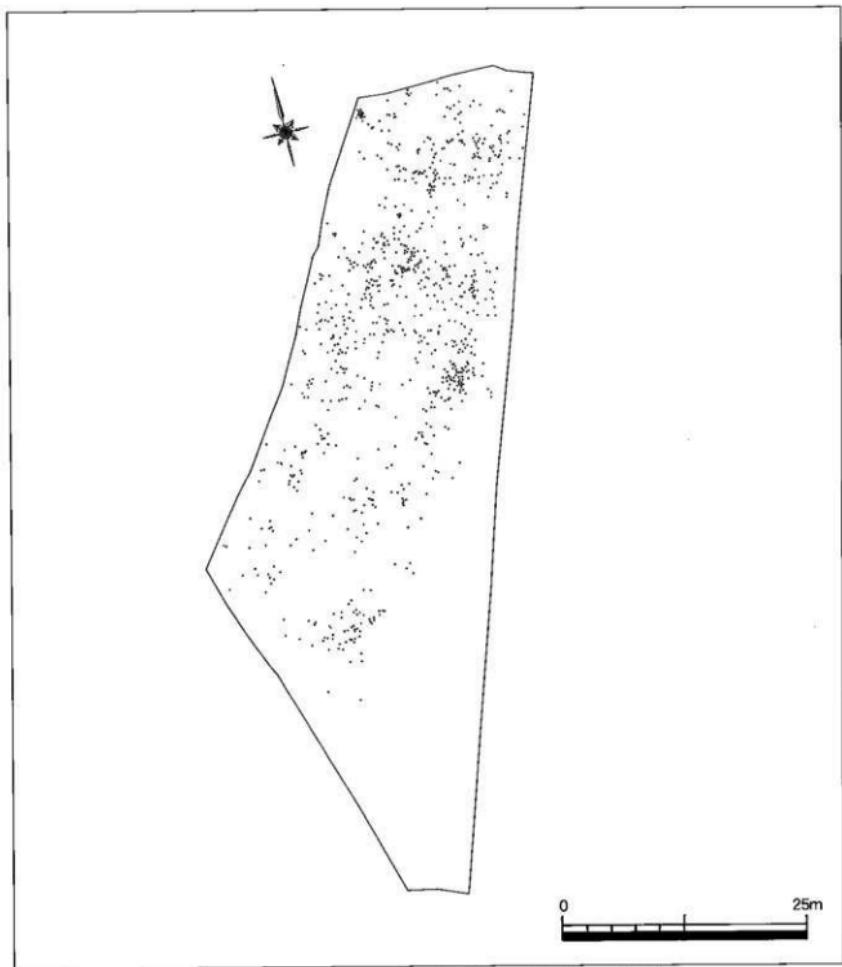
图版123 SI-21 出土遗物 图版124 SC-3 出土遗物



图版124 SC-3 出土遗物



图版125 SC-4 出土遗物



第108図 E区縄文時代早期包含層遺物分布図 ($S = 1/500$)

2. 包含層出土遺物

今回の調査では7層中位から8層下位にかけて約1,100点の遺物が出土した。これらの遺物はそのほとんどが縄文時代早期中葉から早期後葉のもので、土器と石器に分かれる。

(1) 土 器

土器については、貝殻文系土器と押型文土器及び塞ノ神式土器の3土器群に大別できる。貝殻文系土器と判断した土器は192点で、そのうち35点を今回資料化している。押型文土器と判断した土器は52

点で、今回はそのうち 15 点を資料化している。又、塞ノ神式土器と判断した土器は 55 点で、そのうち 19 点を資料化している。

貝殻文系土器

1 はやや胸部の張った円筒形を呈する。口縁部は平坦であり丁寧な調整が施されている。施文的特徴については、外面に縦位の貝殻条痕文が施されているが、口縁部付近においては横位の貝殻条痕文の後、縦位の貝殻条痕文が施されている。2・3 については 1 とほぼ同じ特徴であり、同一直線の可能性もあると推測される。4～15 は円筒形を呈する貝殻文土器の口縁部である。4・5 は口縁部外面に棒状工具によるキザミ目が施されていて、5 については口唇部にもキザミ目が施されている。6～11 は口縁部に貝殻刺突文を施すもので、貝殻刺突文の下位に貝殻条痕文がみられるもの(7・10・11)とみられないものがある(6・8・9)。又、12～16 については、口縁部から貝殻条痕文が施されているが、12・13 は横位と斜位、14・15 は横位、16 は斜位に施文されている。又、15 のみはやや外反している。17～21 は円筒形を呈する貝殻文土器の胸部である。横位もしくは斜位の貝殻条痕文が施されている。22～32 は胸部に貝殻条痕文を施しその上から貝殻刺突文を重ねたものである。器形については、22・23・24・29・30・31・32 が円筒形で 25・28 が角筒形を呈しており、26・27 については小破片のためいづれとも断定できない。又、22・27 のみが口縁部でその他は胸部であるが、22・27 の口縁部には横位の貝殻刺突文がみられる。尚、22～26 については、クサビ形貼付文が施されている。

33・34 については、貝殻刺突文が施された胸部であるが、小破片のため器形は断定できない。又、35 については、棒状工具による短沈線文が施されているが、貝殻文系土器の一部の可能性があると判断し今回の報告では貝殻文系の土器として資料化している。

30・32 については、整理作業の段階で土器外面に付着していた炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を行ったところ、30 が 9250 ± 40 年 BP で 32 が 9290 ± 40 年 BP という結果を得ている。

押型文土器

36・37 は梢円押型文土器である。いずれも口縁部の小破片で内面・外面に 3mm 程度のソロバン珠状の梢円を斜位に施している。38 は格子目押型文土器であるが、小破片のため器形等は不明である。39～50 は手向山式土器である。39 は縦位にやや間延びした山形文が施され、40 は胸部の屈曲部に山形文が施されている。41 については菱形文が施され、42～50 はミミズばれ文が施されている。尚、42 のみが口縁部で 43 が胸部中央や下方の屈曲部その他はいづれも胸部である。

塞ノ神式土器

E 区で出土した塞ノ神式土器は、ほとんどが撚糸文系のものである(51～68)。51 は口縁部から胸部にかけて残存しており、器形はやや中央が張った胸部にラッパ状にひらく口縁部が付いている。文様は屈曲部と胸部中央に沈線が施され、その間に撚糸文が施されている。52～58 はラッパ状にひらく口縁部であるが、51 も含めてすべての口唇部にキザミ目が施されている。又、59 は屈曲部で 60～67 は胸部、68 は底部であるが、いずれも沈線ないし撚糸文が施されている。

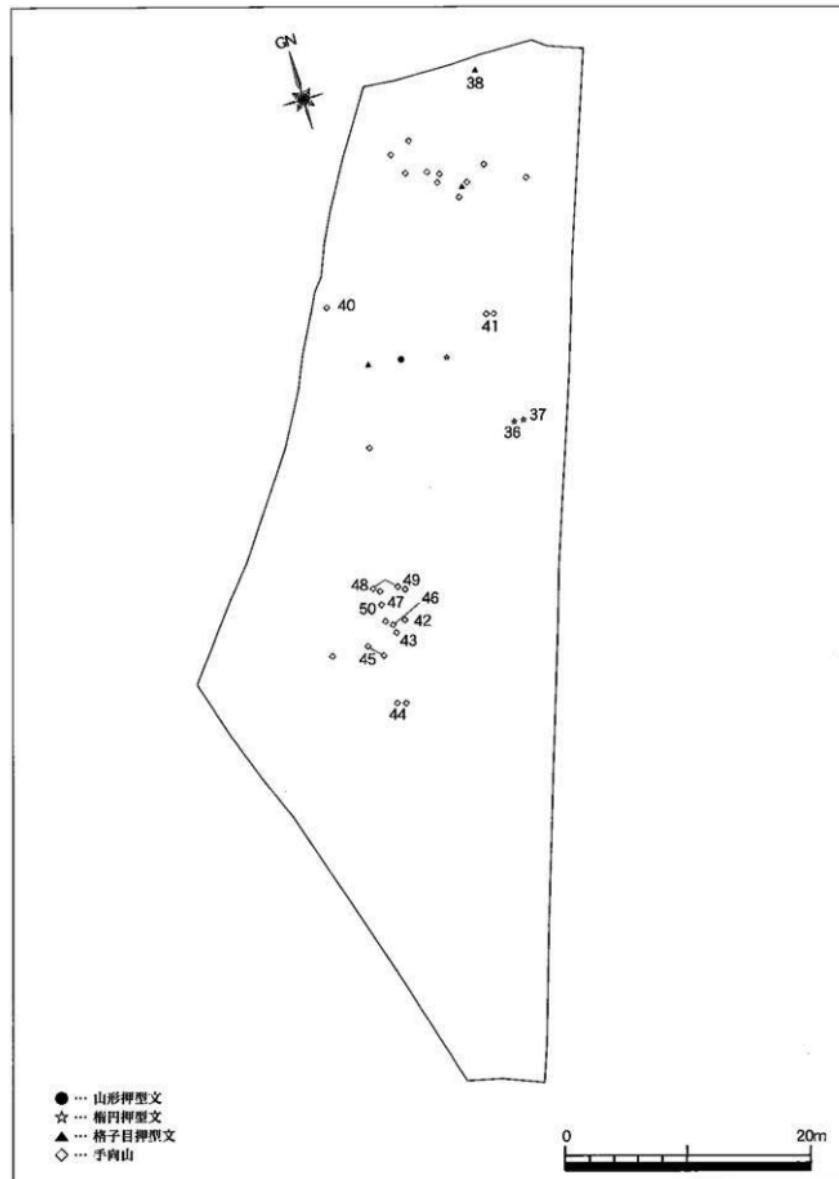
尚、53・67 については、整理作業の段階で土器外面に付着していた炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を行ったところ、53 が 7880 ± 40 年 BP で 67 が 7640 ± 40 年 BP という結果を得ている。

その他

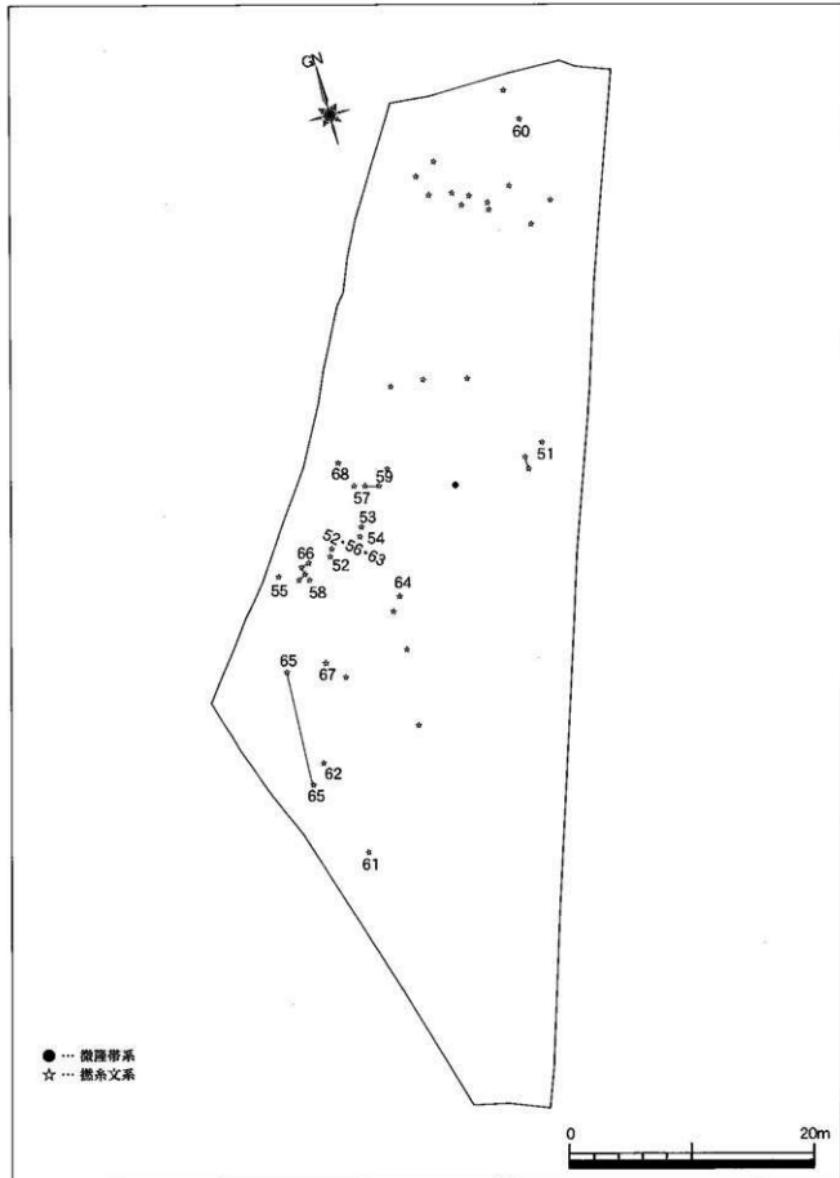
69・70 は平柄式土器の口縁部と思われるが、当遺跡ではこの形式の土器はほとんど出土していない。いずれも断面三角形の突帯を貼り付け、口唇部内面にキザミ目を施している。71・72 はやや内湾する口縁部であるが、柳状工具による縦位の文様が施されている。73 は縄文が施された底部であるが器形等は不明で、74 は平底の底部である。



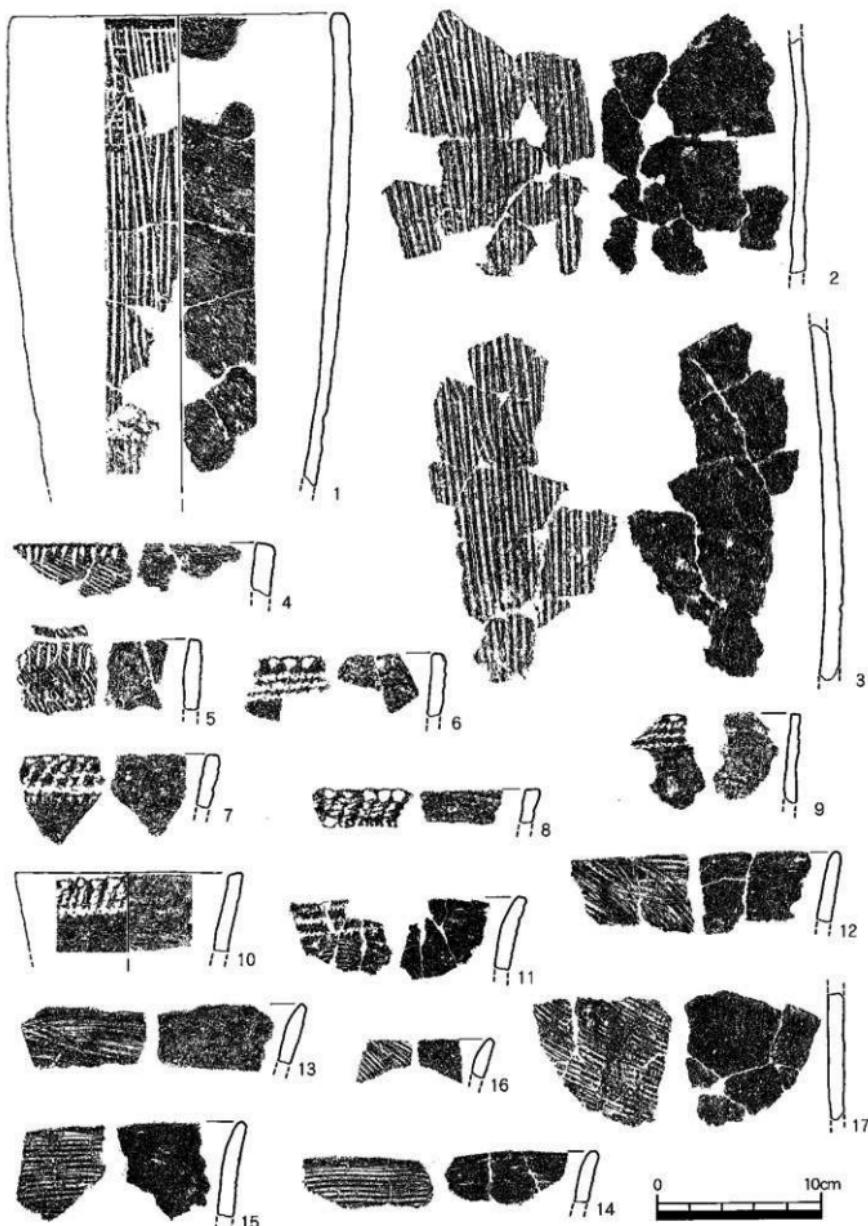
第 109 図 E 区貝殻文系土器分布図 ($S = 1/400$)



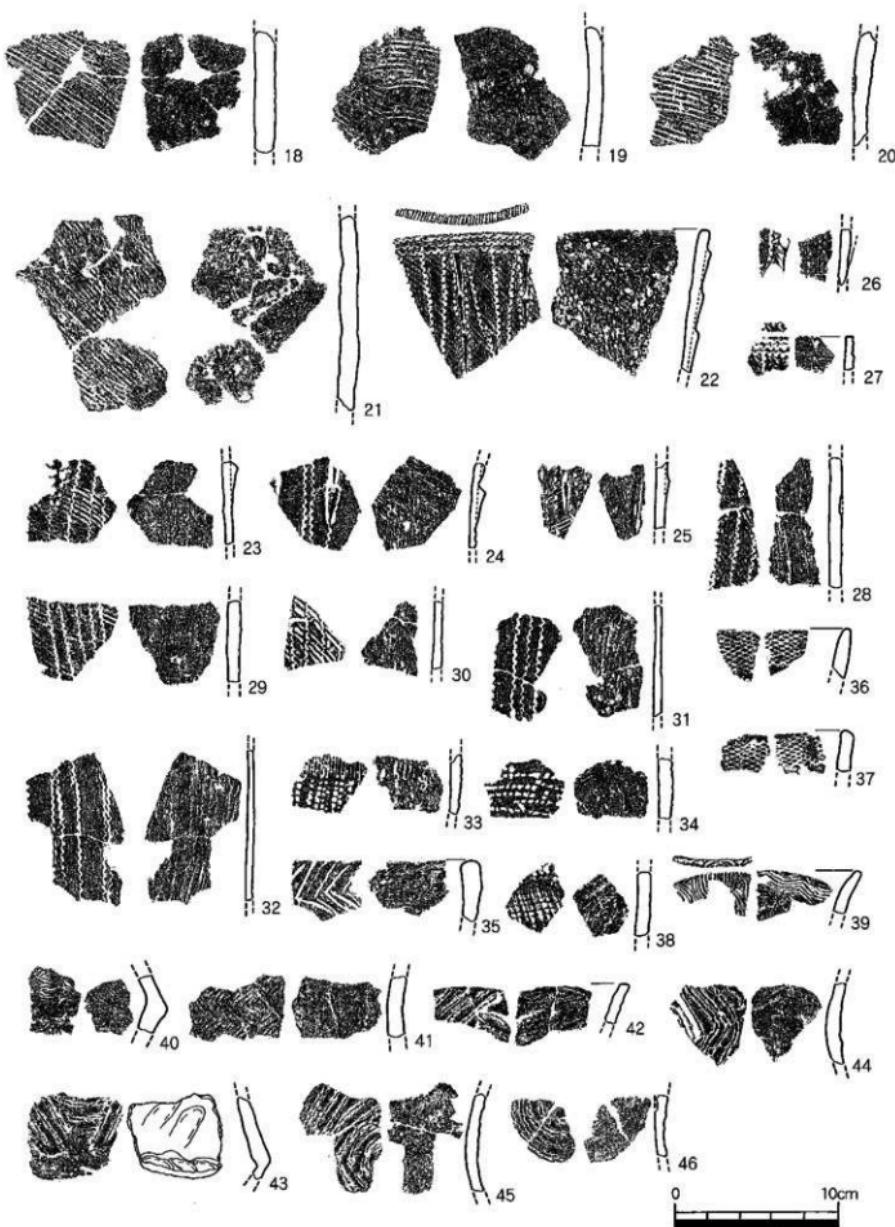
第 110 図 E 区押型文土器分布図 (S = 1/400)



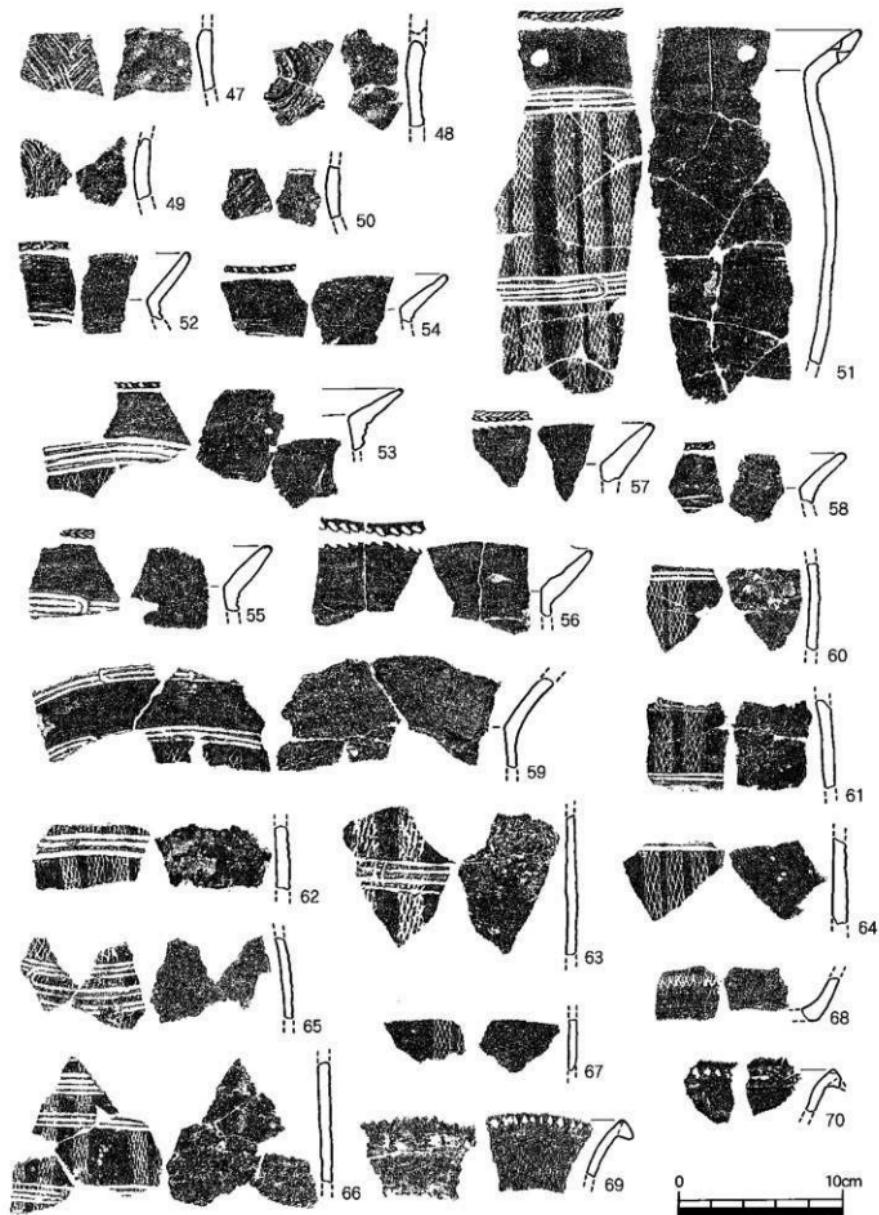
第 111 図 E 区塞ノ神式土器分布図 (S = 1/400)



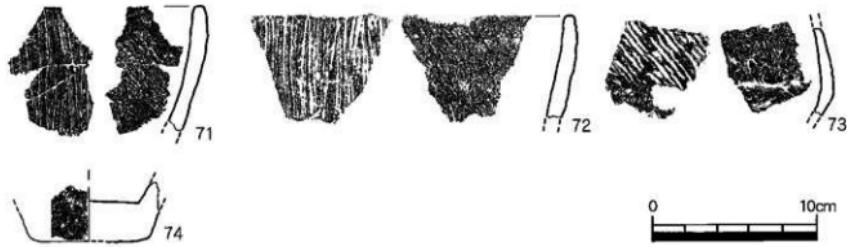
第 112 図 E 区縄文時代早期包含層出土土器実測図① (S = 1/3)



第113図 E区縄文時代早期包含層出土土器実測図② (S = 1/3)



第114図 E区縄文時代早期包含層出土土器実測図③ (S = 1/3)



第115図 E区縄文時代早期包含層出土土器実測図④ (S = 1/3)

第13表 E区包含層出土上器観察表

遺物 No.	出土 層位	部位	文様及び調査		色 調		胎 土			備 考	遺物 登録 No.	
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カリシ	粘土		
1	VII層	口縁～ 肩部	貝殻条文	ナデ	10YRS/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		3mm以下	口縫径は20.4cm、肩部最大 幅は21.2cm	337
2	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		3mm以下		322
3	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	3mm以下		321
4	VII層	口縫	貝殻条文 牛サミ	ナデ	10YRS/3 にぶい黄褐色	10YRS/3 にぶい黄褐色	○	○		1mm以下		246
5	VII層	口縫	貝殻条文 牛サミ	ナデ	10YRS/4 にぶい黄褐色	10YRS/3 にぶい黄褐色	○	○	○	1mm以下	口唇部にキザミ目	252
6	VII層	口縫	貝殻刺突 牛サミ	ナデ	10YRS/3 にぶい黄褐色	10YRS/3 にぶい黄褐色	○	○	○	4mm以下		247
7	VII層	口縫	貝殻刺突 牛サミ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	3mm以下		248
8	VII層	口縫	貝殻刺突 牛サミ	ナデ	10YR4/2 底灰褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	4mm以下		249
9	VII層	口縫	貝殻刺突 牛サミ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○	○	5mm以下		253
10	VII層	口縫	貝殻刺突 牛サミ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	4mm以下		251
11	VII層	口縫	貝殻刺突 貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		2mm以下		262
12	VII層	口縫	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		2mm以下		241
13	VII層	口縫	貝殻条文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○	○		2mm以下		242
14	VII層	口縫	貝殻条文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	10YR5/2 灰黃褐色	○	○		1mm以下		243
15	VII層	口縫	貝殻条文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		2mm以下		244
16	VII層	口縫	貝殻条文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	○	○		1mm以下		245
17	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○	○		3mm以下		256
18	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○		1mm以下		257
19	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		2mm以下		258
20	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○	○	○	3mm以下		260
21	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		3mm以下		261
22	VII層	口縫	貝殻刺突・貝殻条文 カツナヒヅナ文	ナデ	5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		2mm以下	口唇部にキザミ目	272
23	VII層	肩部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/3 にぶい褐色	5YR4/4 にぶい褐色	○	○		2mm以下		271
24	VII層	肩部	貝殻刺突文 クサビ形筋付文	ナデ	7.5YR4/3 にぶい褐色	5YR4/4 にぶい褐色	○	○		2mm以下		273
25	VII層	肩部	貝殻刺突文 貝殻刺突・貝殻条文 カツナヒヅナ文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○	○		1mm以下	角筒	275
26	VII層	肩部	貝殻刺突文 貝殻条文 カツナヒヅナ文	ナデ	10YR4/2 底灰褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		1mm以下		276
27	VII層	口縫	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		1mm以下		269
28	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR4/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○		2mm以下		264
29	VII層	肩部	貝殻条文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR4/4 褐色	○	○		2mm以下		270
30	VII層	肩部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/3 褐色	5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	2mm以下	放射性炭素年代測定 9250 ± 40年BP	472
31	VII層	肩部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	2mm以下		263

遺物 No	出土 層位	部位	文様及び商標		色		調		胎		備 考	遺物 整理 No
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	カリ	砂粒		
32	Ⅳ層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR4/2 灰黒褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	○			○	放射性炭素年代測定 9290 ± 40 年 BP	267
33	Ⅳ層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3 にぶい黃褐色	2.5Y4/2 暗灰褐色	○		○	○		280
34	Ⅳ層	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR4/2 灰黒褐色	2.5Y4/1 黄褐色	○	○		○		285
35	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR4/2 灰黒褐色	○	○		○		300
36	Ⅳ層	口縁	横門押壓文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	○		○	○		359
37	Ⅳ層	口縁	横門押壓文	ナデ	5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/2 灰褐色	○			○		166
38	Ⅳ層	胴部	格子目押壓文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐色	10YR5/2 灰黒褐色	○	○	○	○		463
39	Ⅳ層	口縁	山形押壓文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○			○		377
40	Ⅳ層	胴部	山形押壓文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	○	○		○		380
41	Ⅳ層	胴部	幾形文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色		○		○		378
42	Ⅳ層	口縁	ミミズばれ文	ミミズばれ文	10YR5/3 にぶい赤褐色	2.5Y5/2 暗灰褐色	○	○	○	○		381
43	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	2.5Y6/3 にぶい褐色	○	○	○	○		369
44	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	10YR5/4 にぶい赤褐色	10YR6/3 にぶい褐色	○	○	○	○		370
45	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい褐色	○	○	○	○		373
46	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰褐色	10YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	○		374
47	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	10YR5/4 にぶい褐色	2.5Y5/2 暗褐色	○	○	○	○		375
48	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	10YR4/2 灰黒褐色	10YR5/3 にぶい褐色	○	○		○		379
49	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	7.5YR4/2 灰褐色	10YR5/4 にぶい褐色	○	○	○	○		376
50	Ⅳ層	胴部	ミミズばれ文	ナデ	10YR5/2 にぶい赤褐色	10YR6/2 にぶい褐色	○	○		○		383
51	Ⅳ層	口縁～ 胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい褐色	○	○		○	口唇部にキザミ目・穿孔有り	34
52	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR6/4 にぶい赤褐色	○		○	○	口唇部にキザミ目	325
53	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR4/3 無	7.5YR6/4 にぶい褐色	○	○	○	○	口唇部にキザミ目 放射性炭素年代測定 7880 ± 40 年 BP	327
54	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR6/4 にぶい赤褐色	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	329
55	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黒褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	330
56	Ⅳ層	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR6/3 にぶい赤褐色	○		○	○	口唇部にキザミ目	326
57	Ⅳ層	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	328
58	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR4/3 無	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	○	○		○	口唇部にキザミ目	332
59	Ⅳ層	頭部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○	3mm 以下	314
60	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黒褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○		301
61	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	○	○	○	○		302
62	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黒褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○		303
63	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○		○	○		304
64	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○		○	○		306
65	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	2.5YR5/2 灰黒褐色	10YR3/1 黑褐色		○		○		308
66	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR4/2 灰黒褐色	○		○	○		309
67	Ⅳ層	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黒褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○		○	放射性炭素年代測定 7640 ± 40 年 BP	470
68	Ⅳ層	底部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい赤褐色	2.5Y5/2 灰黒褐色	○		○	○		319
69	Ⅳ層	口縁	貼付け帯文	ナデ	10YR4/3 にぶい赤褐色	10YR5/3 にぶい赤褐色	○	○		○	口唇部にキザミ目	431
70	Ⅳ層	口縁	貼付け帯文	ナデ	10YR4/3 にぶい赤褐色	10YR4/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○	口唇部にキザミ目	432
71	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR4/2 灰黒褐色	○	○	○	○	6mm 以下	420
72	Ⅳ層	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	○	○		○	3mm 以下	26
73	Ⅳ層	底座	圓文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR4/3 にぶい赤褐色	○	○	○	○	5mm 以下	424
74	Ⅳ層	底座	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい赤褐色	2.5YR5/2 灰赤	○	○	○	○	1mm 以下	426

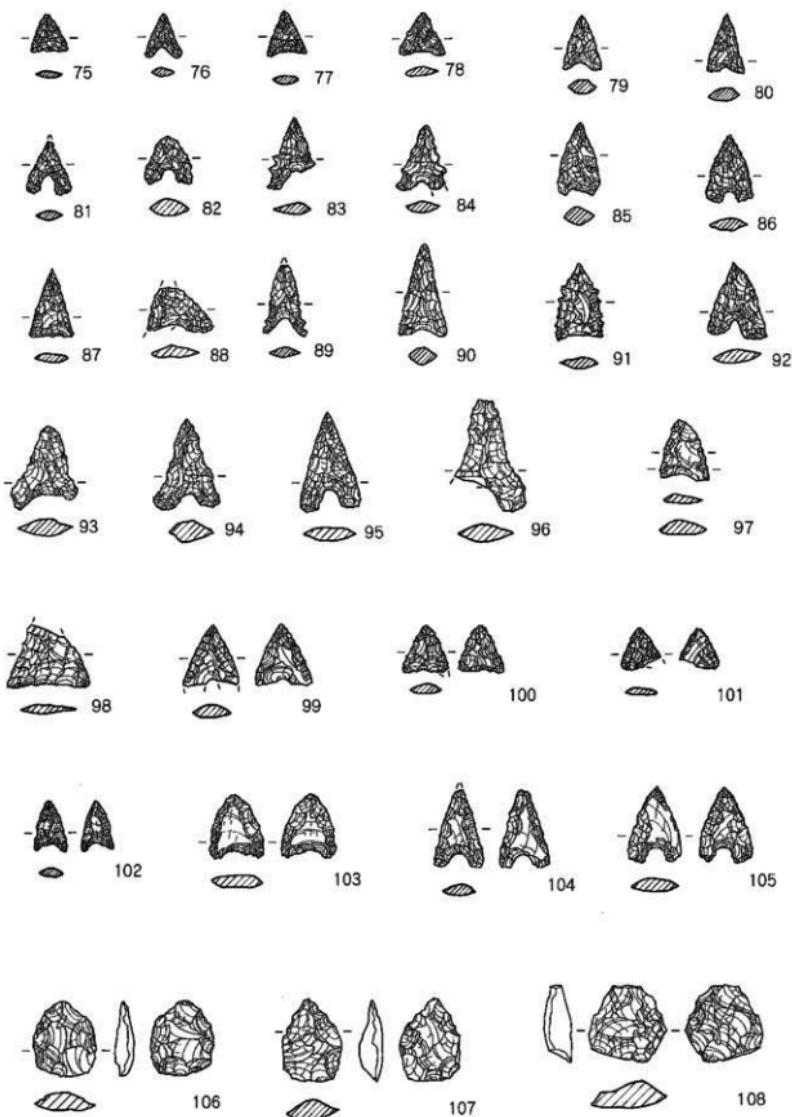
(2) 石器

75～105は打製石鏃で、106～112はその未製品である。E区においては未製品・欠損品を含め総数65点の打製石鏃が出土している。石材はチャートが3分の1以上を占め、頁岩・流紋岩と黒曜石がそれぞれ4分の1程度を占める。長さ2cmに満たない小型の三角形鏃には桑ノ木津留産黒曜石が使用されている。81は鉢形鏃である。83・84・89は脚部付近に突出部を持つ。91は刃部が鋸歯状を呈する。103～105は剥片の主要剥離面を多く残す。112は桑ノ木津留産黒曜石製で小型の三角形鏃の未製品であろう。113・116は石鏃に比べ大ぶりで、鈍く尖端部を作り出しているところから尖頭状石器と考えられる。また114・117はその未製品であろう。113はチャートを使用し、その他は頁岩を使用する。115は尖頭器である。頁岩を使用し、断面形はきれいなレンズ状を呈しておらず、左右非対称の形態である。また側面形態も湾曲している。118は石錐である。黒曜石の小礫を素材としている。119は安山岩製の石庭である。小振りで主要剥離面を大きく残す。120はスクレイパーである。背面に自然面を多く残し、腹面の右側縁に加工を施す。121・122は2次加工ある剥片で、接合資料である。123は磨製石斧の刃部の破片である。小型品で残存部位に関しては全面に研磨を施している。124・125は2次加工ある剥片である。126～131は剥片である。126は黒曜石、127・128・130は頁岩、129・131は砂岩を使用する。131は背面に稜線を持つ自然面を多く残していることから、砂岩の角礫から作出された剥片である。132～137は石核である。いずれも打面調整の行わないものである。また132・134・137は剥片素材の資料である。135は針尾産黒曜石を使用しており、自然面を打面とし求心的な剥片剥離を行う。138～141は砂岩製の敲石である。138・139は円礫、140は棒状の礫を使用する。141は砂岩の分厚い不定形な剥片を使用するもので、下端部に使用痕が見られる。142・143は尾鈴山酸性岩製の磨石である。

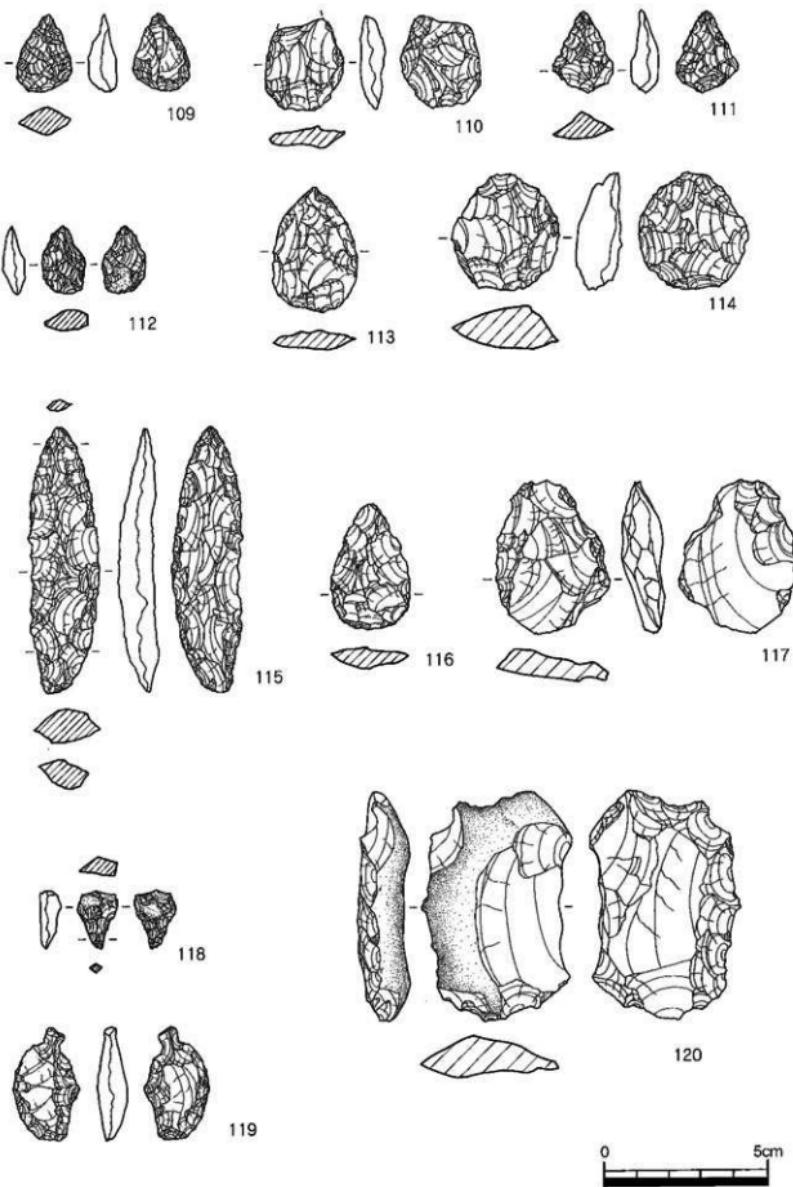
第14表 E区包含層出土石器計測分類表

遺物 No	整理 No	器種	出土 カラット	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
75	404	打製石鏃	E13	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.1	1.1	0.2	0.1以下	
76	401	打製石鏃	E13	VII	黒曜石(姫島)	1.4	1.15	0.25	0.1以下	
77	407	打製石鏃	E21	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	1.1	2.5	0.1以下	
78	232	打製石鏃	E13	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	1.4	0.3	0.3	
79	226	打製石鏃	E18	VII	チャート	1.7	1.2	0.4	0.6	
80	419	打製石鏃	E21	VII	黒曜石(姫島)	1.9	1.2	0.4	0.6	
81	233	打製石鏃	E13	VII	チャート	1.6	1.4	0.3	0.4	
82	409	打製石鏃	E21	VII	砂岩	1.5	1.5	0.55	0.8	
83	391	打製石鏃	E13	VII	黒曜石(姫島)	2.2	1.5	0.4	0.7	
84	411	打製石鏃	E13	VII	黒曜石(姫島)	2	1.5	0.35	0.5	
85	227	打製石鏃	E18	VII	砂岩	2.3	1.3	0.6	1.2	
86	410	打製石鏃	E13	VII	流紋岩	2.1	1.4	0.4	0.9	
87	387	打製石鏃	E14	VII	頁岩	2.1	1.35	0.3	0.6	
88	442	打製石鏃	E13	VII	水晶	1.4	2.1	0.35	0.8	先端部を欠損
89	385	打製石鏃	E21	VII	サヌカイト	2.2	1.4	0.35	0.6	
90	230	打製石鏃	E17	VII	頁岩	2.9	1.5	0.5	1.6	
91	239	打製石鏃	E15	VII	流紋岩	2.4	1.4	0.4	1.1	
92	231	打製石鏃	E21	VII	黒曜石(姫島)	2.35	1.8	0.4	0.9	
93	437	打製石鏃	E13	VII	チャート	2.55	2.15	0.6	2.0	

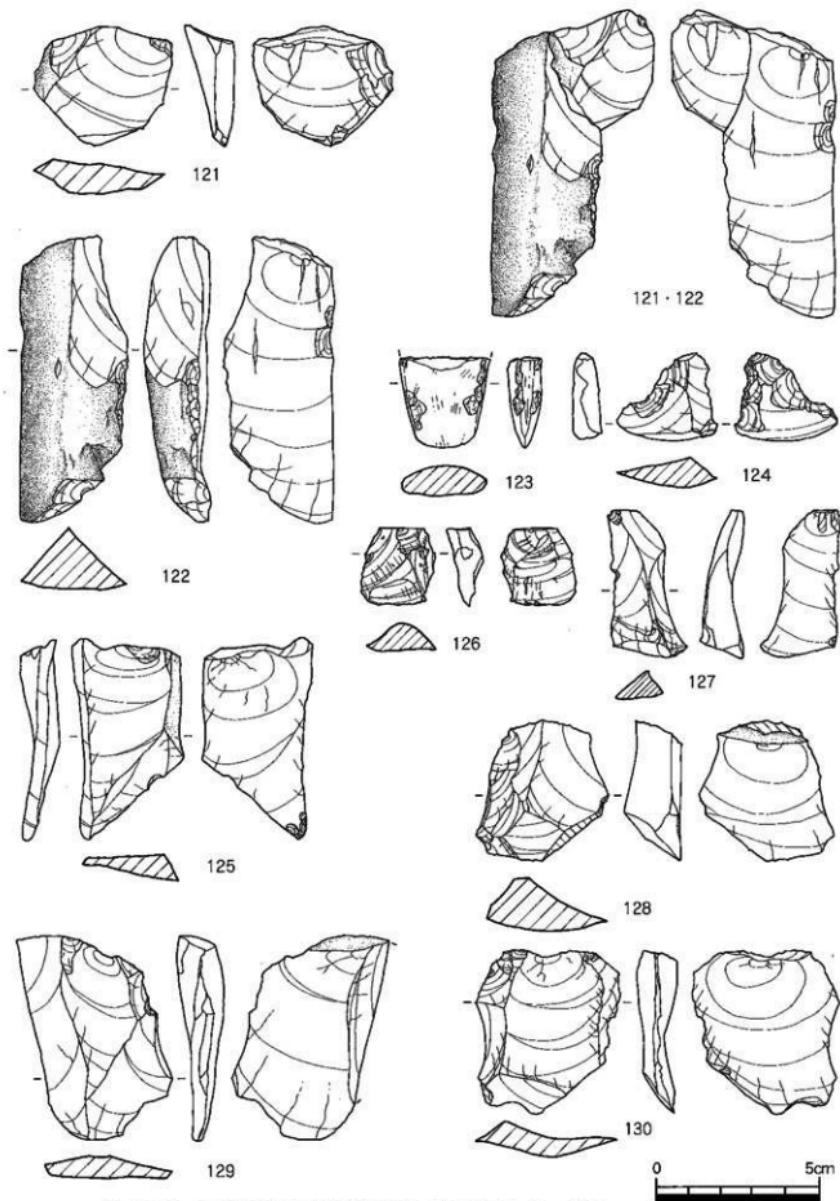
遺物 No	整理 No	器種	出土 タグ	層位	石 材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備 考
94	40	打製石鏟	E13	VII	チャート	2.8	1.05	0.6	1.7	
95	394	打製石鏟	E17	VII	チャート	3.15	1.8	0.4	1.6	
96	388	打製石鏟	E13	VII	砂岩	3.5	2.25	0.6	2.2	
97	415	打製石鏟	E13	VII	チャート	1.9	1.5	0.45	0.9	
98	405	打製石鏟	E13	VII	頁岩	1.9	2.6	0.35	1.5	先端部を欠損
99	408	打製石鏟	E13	VII	玉髓	1.9	1.7	0.4	0.9	
100	412	打製石鏟	E17	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.45	1.4	0.3	0.4	
101	413	打製石鏟	E17	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	1.2	0.2	0.1以下	
102	414	打製石鏟	E13	VII	チャート	2.1	1	0.3	0.1	
103	469	打製石鏟	E13	VII	流紋岩	2	1.7	0.5	1.5	
104	238	打製石鏟	E17	VII	砂岩	2.4	1.5	0.4	1.0	
105	395	打製石鏟	E13	VII	安山岩	2.35	1.6	0.4	1.0	
106	209	打製石鏟未製品	E13	VII	流紋岩	2.3	1.95	0.6	2.4	
107	212	打製石鏟未製品	E13	VII	チャート	2.55	1.85	0.8	3.7	
108	221	打製石鏟未製品	E10	VII	チャート	2.4	2.4	0.9	5.3	
109	216	打製石鏟未製品	E13	VII	チャート	2.4	1.7	0.9	2.7	
110	215	打製石鏟未製品	E13	VII	流紋岩	2.85	2.4	0.7	4.9	
111	220	打製石鏟未製品	E10	VII	チャート	2.6	1.9	0.85	2.7	
112	214	打製石鏟未製品	E13	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.35	0.7	1.4	
113	229	尖頭状石器	E13	VII	頁岩	3.9	2.6	0.65	6.3	
114	217	尖頭状石器未製品	E13	VII	チャート	3.6	3.35	1.35	17.7	
115	41	槍先形尖頭器	E13	VII	頁岩	8.3	2.25	1.3	19.0	
116	235	尖頭状石器	E13	VII	頁岩	3.9	2.4	0.7	6.0	
117	219	尖頭状石器未製品	E17	VII	頁岩	4.7	3.55	1.35	19.6	
118	213	石錐	E17	VII	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	1.25	0.6	0.8	
119	467	石匙	E18	VII	安山岩	3.55	2.1	0.9	5.3	
120	202	スクレイパー	E17	VII	流紋岩	7.15	4.65	1.6	46.5	
121	205	2次加工ある剥片	E13	VII	流紋岩	3.75	4.3	1.55	18.7	接合
122	206	2次加工ある剥片	E13	VII	流紋岩	8.8	3.4	2.05	56.8	
123	443	磨製石斧	E21	VII	頁岩	2.8	2.8	9.5	11.0	刃部破片
124	203	2次加工ある剥片	E13	VII	頁岩	2.75	3.1	0.9	5.9	
125	122	2次加工ある剥片	E21	VII	流紋岩	6.2	3.5	0.8	17.1	
126	179	剥片	E13	?	黒曜石(桑ノ木津留)	2.4	2.3	1.1	4.0	
127	121	剥片	E13	VII	頁岩	4.6	2.5	1.3	8.2	
128	181	剥片	E13	VII	頁岩	4.4	4.1	1.8	25.5	
129	194	剥片	E18	VII	砂岩	6.3	4.9	1.45	30.2	
130	177	剥片	E17	VII	頁岩	5.05	4.5	1.3	18.8	
131	195	剥片	E13	VII	砂岩	7.4	5.7	2.2	84.2	
132	451	石核	E13	VII	チャート	3.2	3.95	1.9	20.5	
133	452	石核	E13	VII	頁岩	5	4.25	2.2	48.9	
134	448	石核	E13	VII	頁岩	6.1	6	2.7	89.4	
135	120	石核	E13	VII	黒曜石(針尾)	5.7	7.15	1.9	77.2	
136	450	石核	E13	VII	頁岩	3.85	6	2.3	47.7	
137	447	石核	E13	?	砂岩	4.9	7.7	2.3	81.7	
138	461	敲石	E13	VII	砂岩	4.1	5.5	7.4	247.9	
139	462	敲石	E13	VII	砂岩	9.1	7.95	3.9	329.9	
140	39	敲石	E20	VII	砂岩	3.2	4.7	12.7	195.2	
141	453	敲石	E13	VII	砂岩	8.8	6	4.35	207.2	
142	457	磨石	E13	VII	尾鈴山酸性岩	7.5	8.6	4.6	425.9	
143	455	磨石	E13	VII	尾鈴山酸性岩	9.3	9.7	4.6	719.7	



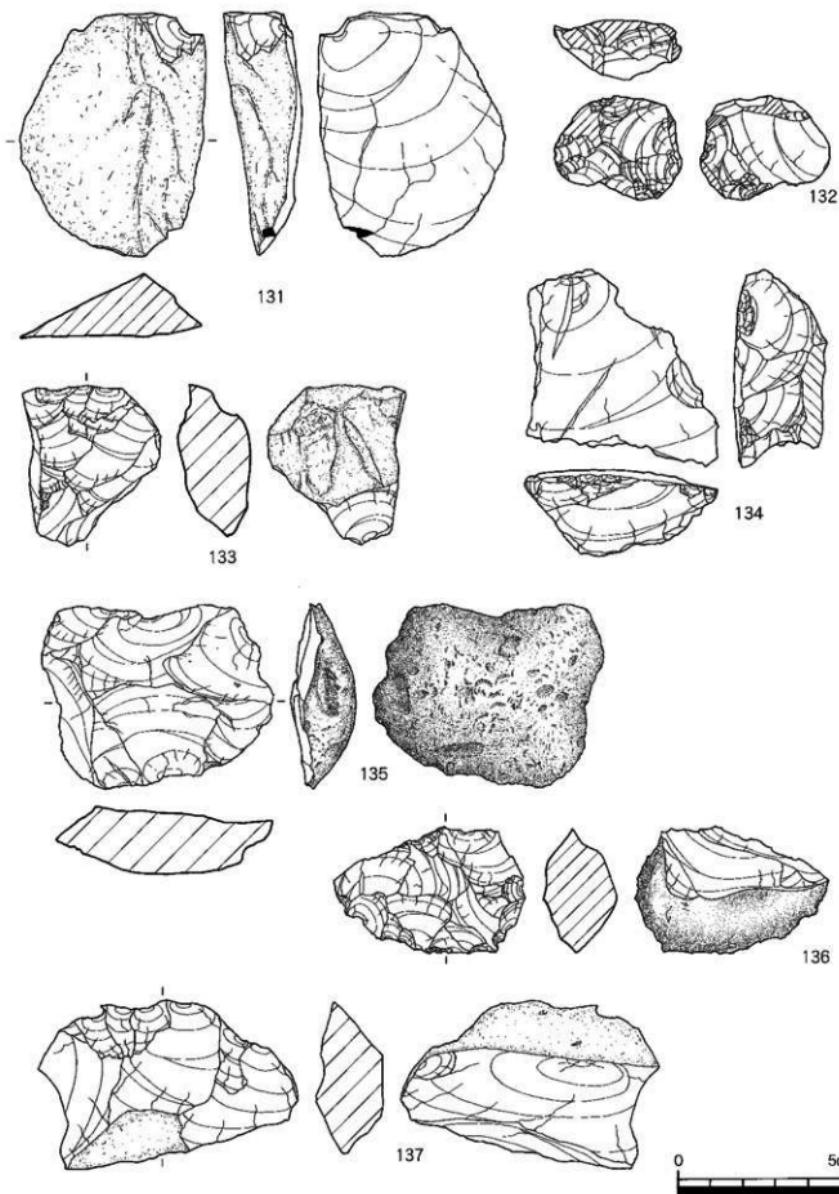
第 116 図 E 区縄文時代早期包含層出土石器実測図① ($S = 2/3$)



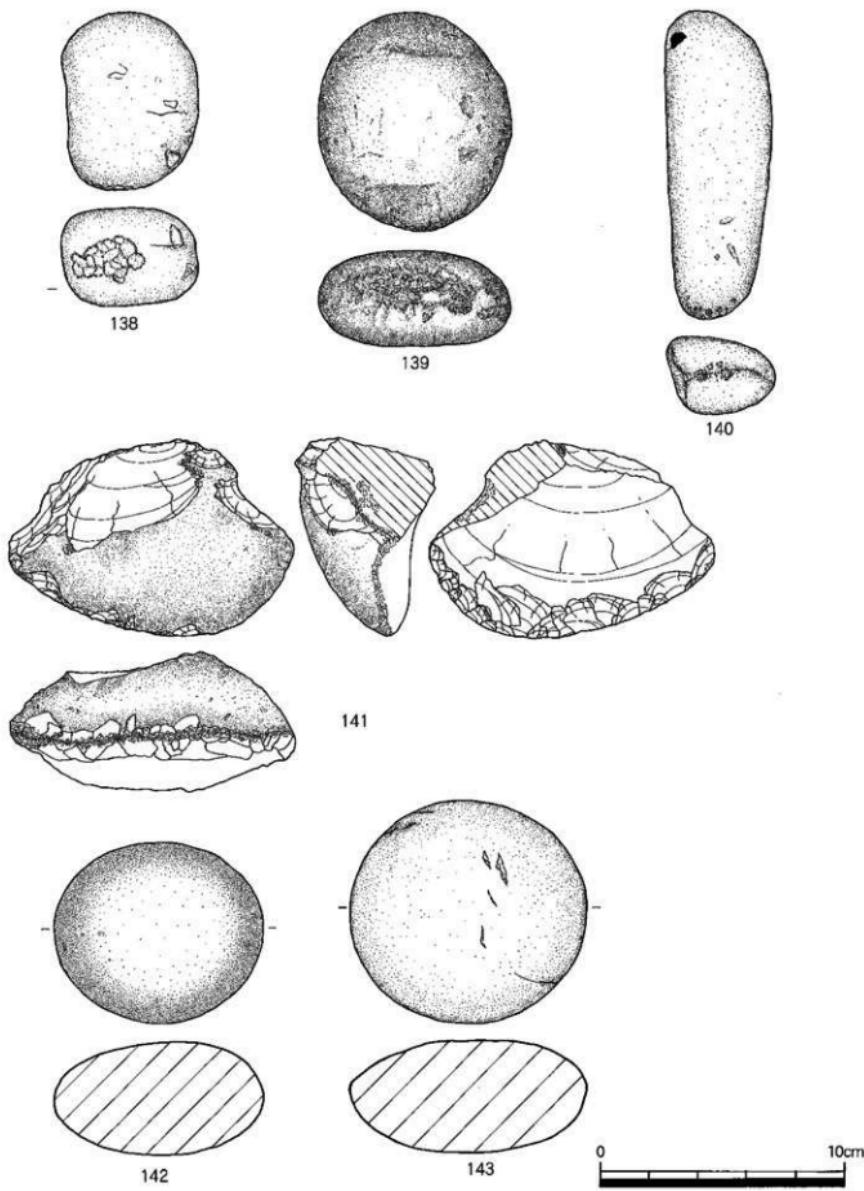
第117図 E区縄文時代早期包含層出土石器実測図② (S = 2/3)



第 118 図 E 区縄文時代早期包含層出土石器実測図③ (S = 2/3)



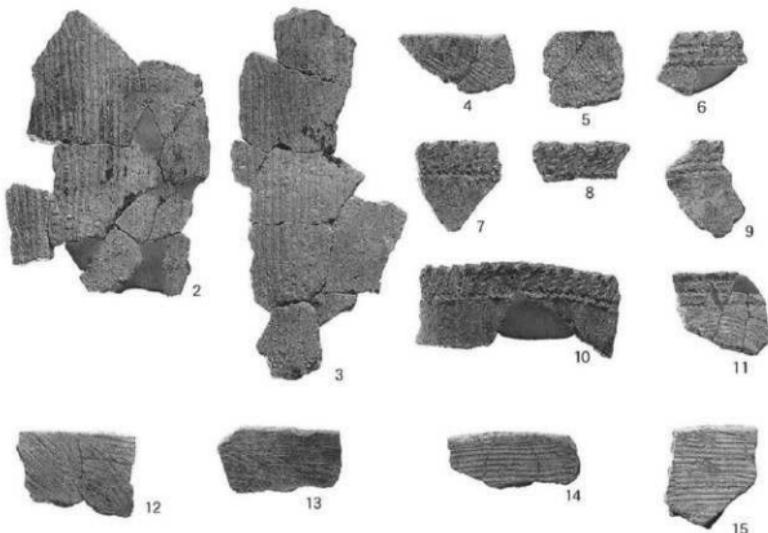
第119図 E区縄文時代早期包含層出土石器実測図④ (S = 2/3)



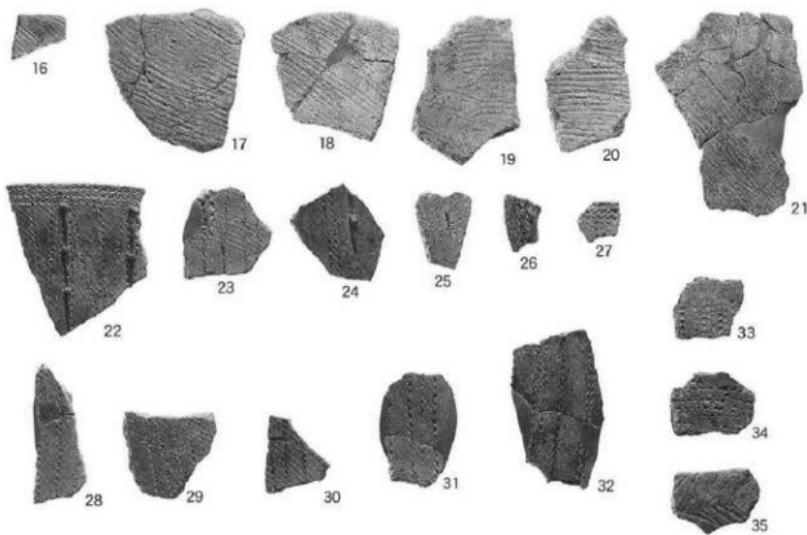
第 120 図 E 区縄文時代早期包含層出土石器実測図⑤ (S = 1/2)



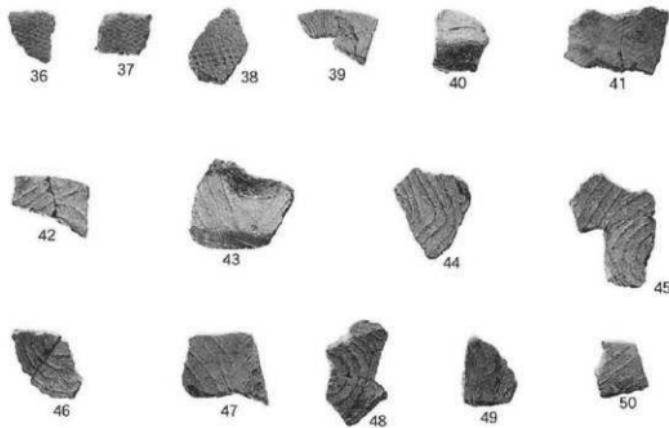
図版 126 E 区縄文時代早期包含層出土土器①



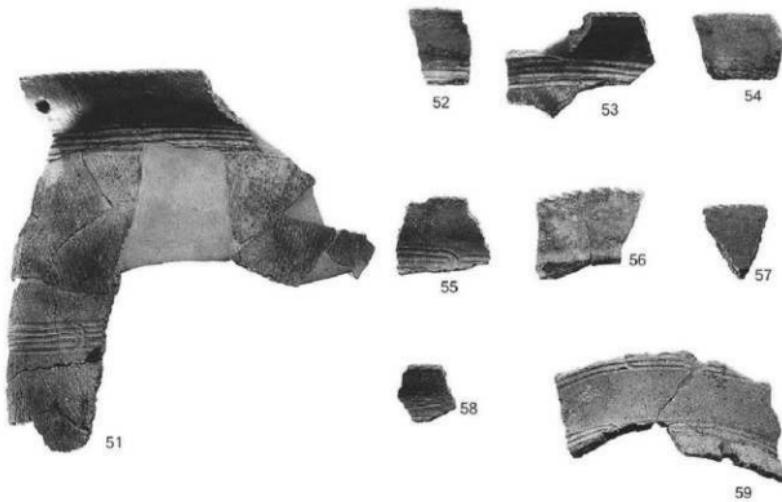
図版 127 E 区縄文時代早期包含層出土土器②



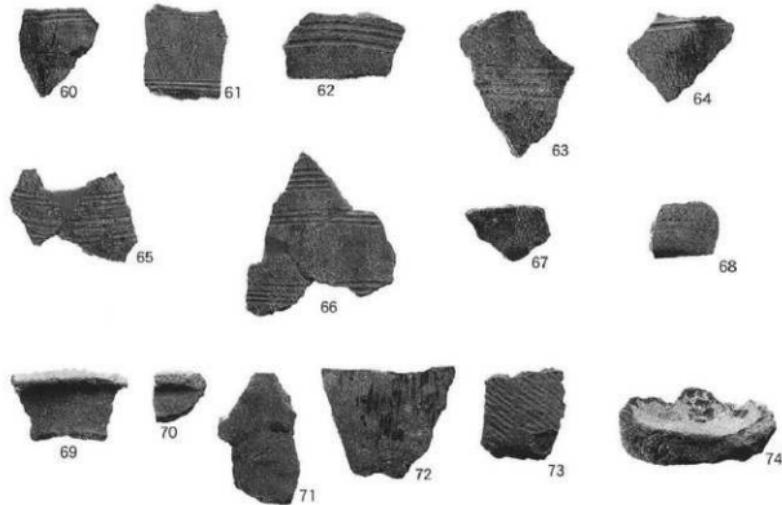
図版 128 E 区縄文時代早期包含層出土土器③



図版 129 E 区縄文時代早期包含層出土土器④



图版 130 E 区縄文時代早期包含層出土土器⑤



图版 131 E 区縄文時代早期包含層出土土器⑥



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



99



94



95



96

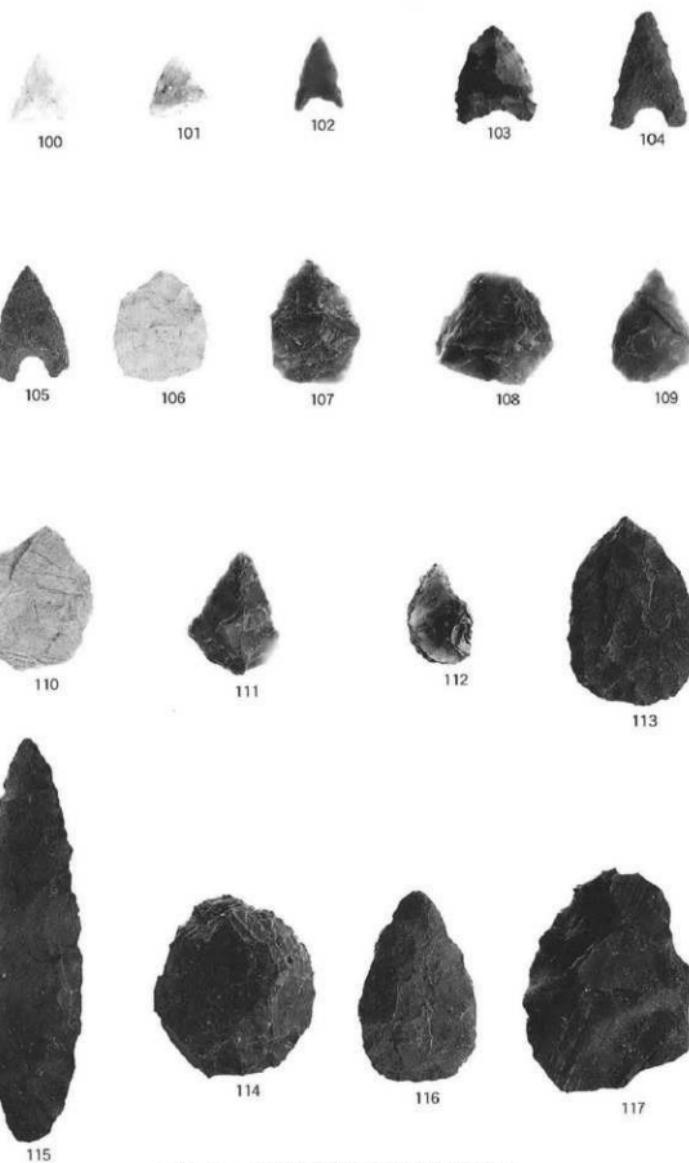


97

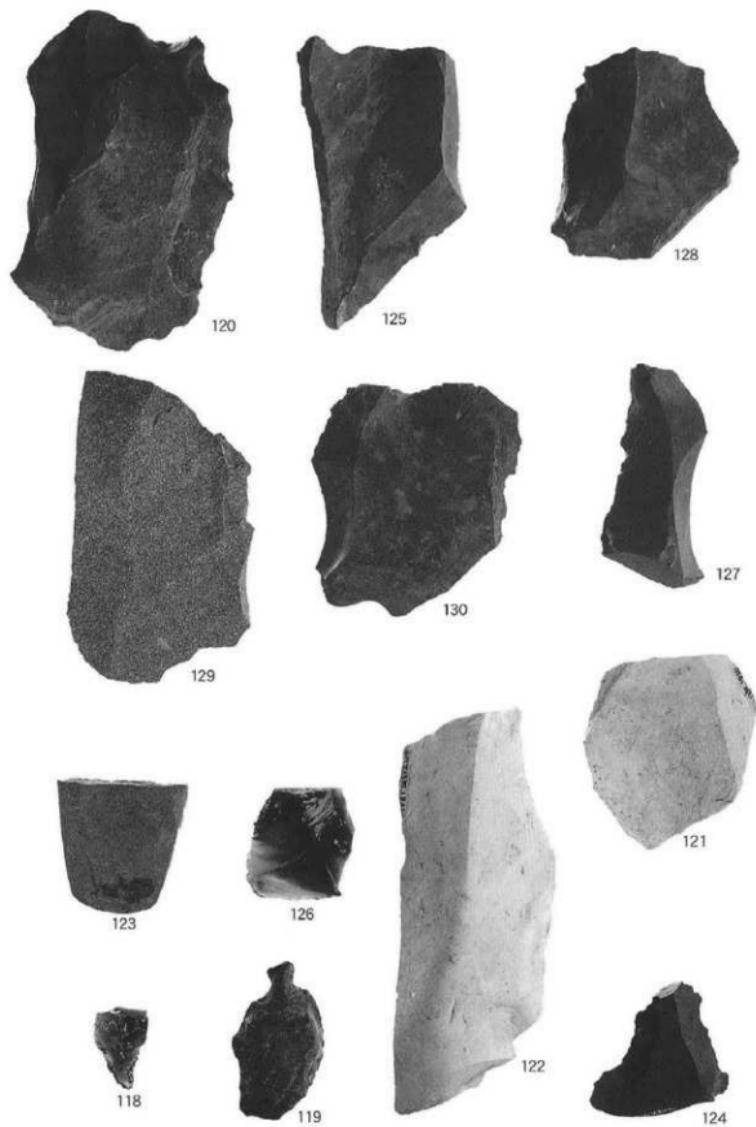


98

図版 132 E 区縄文時代早期包含層出土石器①



图版 133 E 区绳文时代早期包含层出土石器②



図版 134 E 区縄文時代早期包含層出土石器③



132



136



133



131



134



135

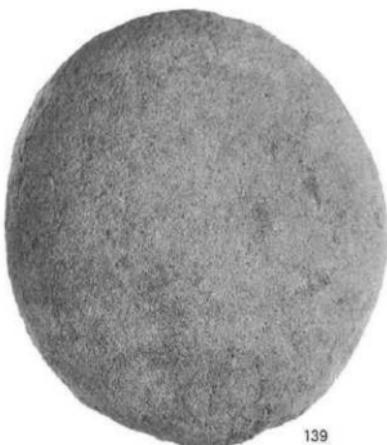


137

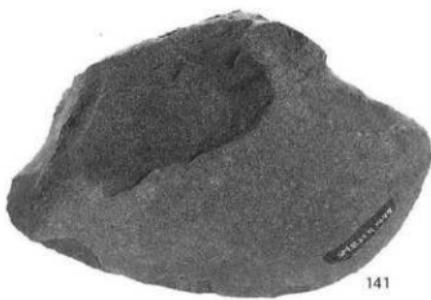
図版 135 E 区縄文時代早期包含層出土石器④



138



139



141



140

図版 136 E 区縄文時代早期包含層出土石器⑤